

ふ

ぶ (分) 【名詞】 歩合給 出来高や成績に応じて支払われる給料。役職に対する手当。報酬。分け前。[会話] あの人と きそて (仲間になって) 仲間しとて (して居て) ブ 貰うね (のだ) 言うて。ブウどりや (歩取り、役付き) 言うて、船長でも かこ (水夫) より ブ 貰うね (貰うのだ) 言うて よけ貰うんなあ (沢山貰うのです)。ブな (が) 多い言うて よお言うやんかい (よく言います)。ブ、割当てして、ブ貰ろて、割当てや (だ) 言うて、よお言うなあ (よく言います)。ブな (が) わり (悪い) 言うて 当たりなわり (配当が悪い) と、えらい (大変) ブな わりやんか (悪いではないか) こなか (上前をはねる) したんかして (したのか)。

ぶ (部) 【名詞】 部類 たぐい ええブや

ぶあい (ぶあひ) (歩合) 【名詞】 割合 ぶやい 参照

ぶあいそ (無愛想) 【名詞】 【形容詞】 愛想がよくないこと。そっけないこと。すげないこと。また、そのさま。
ぶあいそうの末尾母音の省略

ぶあつい 【形容詞】 大変厚い

ぶあんばい (不塩梅) 【名詞】 体の調子の悪い事 病気 [会話] 体の加減 (様子) が わりと (悪いと)、今日は ファンバイ で言うて。風邪引いたら どいらい (大変) ファンバイやよお (です) 言うて。体の調子が わり (悪い) 時 ファンバイや (だ)。病気の時や (とか) 傷した時も 傷な (が) 痛おて (痛くて) 今日は どいらい ファンバイやよお 言うて。気持が悪い事を ファンバイや (だ)。

ふい (不意) 【名詞】 【形容詞】 突然。[会話] フイ に来た言うて、突然。

ふい 【名詞】 無駄 不要 [会話] 無駄になる事を フイ にした言うて、不要になった言う事を フイになつたれ (なった) 言うて。

ふいごふく 荒い息づかいをする [会話] 鍛冶屋のふいご 吹く よおん (ように)、餅ついて 力入れて フイゴフクよおん (ように) ふうふう 言うて。

ふいとる 1) 膨れ面をして居る 怒っている 2) 吹いて居る (風) [会話] い に げ (人間) でも 怒つとる (ていると) まぜなフイトル (南風が吹いている) 言うて、怒った顔 しとると 佛頂面 しとると あやまあ (彼は) フイトテ (吹いていて) あやれ (あれ) 言うて。怒つとんね (ているのだ) 言わんと (言

わずに) フイトル 言うて。

ふいふい 【副詞】 色々と文句を言うさま

ふいふいしとる 大切にして居る 丁重にしている ふいふい する参照

ふいふいする 大切にする 丁重に扱う。[会話] 大事ん (に) する 言う事 なあ (です)。あや (彼は) フイフイシテ 育てられたん よつてん (のだから) ひとりご (一人子) で。言う よおん (ように) したる (してやる) とか、フイフイシテ 甘やかして (甘えさせて) まあ言うて。なんでも (何でも) 物を 大事ん (に) すると、きもん (着物) でも おら (私は、俺は) ほん (本当に) フイフイシトンノン (して居るのに) 言うて、新しのおを (新しいのを) すると。大事ん (に) しとるなあ (して居る事です)。

ふいらふいら 【副詞】 1) 大変あぶないさま 風前の燈火 (志) 2) 一生懸命にする事 [会話] い フイラフイラ やつたら (だったとか)、ほいらほいら やら (とか) 一生懸命 やつた (だった) 言う事、風な (が) よけ (多く) 吹いて来て 一生懸命 やつた えらかった (大変だった) 言うの なあ (です)。ほいらほいら で 逃げたよお 言うて 一生懸命で逃げて来た よお。大島へい と たら (行って居たら) おちかぜな (強い西風が) して来て ほいらほいら やつたよお (でした) くんのん (来るのに) 言うて。ものすごお (大変) えらかった (大変だった) 事言うの なあ (のです)。ほいらほいら や (とか) フイラフイラ や (だ) 言うて。

ふう 【名詞】 二 ふ (二) の変化した語 (志 (布施田))

ふう 【名詞】 麩 小麦粒の中の澱粉質を除いた後の蛋白質で製した食品 (員、三、鈴市、鈴郡、津、一、松、多、阿、張、賀、伊、北、尾) [会話] 昔 や (は) すいもんや (吸物と) 言うど、フウ を 一つつつ (づつ) 入れおつたわい (入れて居ました)。

ふう (風) 【名詞】 1) なり 形 風体 かっこう 様子 (志 (鶴方)、安、張、南、熊) 2) 習慣 風習 3) やり方 方法 [会話] い あ の フウ見よまあ (見なさい)、フウな (が) わりなあ (悪い、見苦しい) 言うて。此の ひた (人は) 格好な (が) わり (悪い) とか、着物の形が 悪いとか言うのを あ の たっぱい見よまあ (格好見なさい)、フウな (が) わりなあ

(悪い) 言うて。品な (が) わり かつたりしてもあのたっぱい見よまあ、あのフウ言うて。たっぱい言うのも 格好言うのも 一緒やわい (です)。フウ言うのは 姿、形言うのも有るし、仕事しとる (している) 格好も、腰も 鍛えいすんのん (するの)に ぴんとこさしとる (伸ばして居る)と あの鍛えいするフウ見よまあ (見なさい) もおちよいと (少し) 腰曲げてすや (すれば) ええけど (よいの)に 棒立ちみたよおんしとて (のようにして居て) 言うて。あの歩くフウ見よまあ (見なさい) 歩くの みよまあ、歩きかたみよまあ とか。品な (ひんが) 悪うて えちやかつて歩いとる (て居る) 人も有るし 足 引摺って歩いとる 人も有るし、そいな (そんな) 格好の事を たっぱいな (が) 悪りとか フウ悪りとか。ぼだち言うて 棒な (が) 立つよおんしとんの (にして居るのを) なんかする時 ちよいと (少し) 腰曲げて 中腰 ん (に) なって 力、入れてすつとええけど (するとよいが) 立っておってん (居て) こげんしとると (こんなにして居ると) べつんも (特別に) 棒が 立ったよおに しとるやんない (して居るでしょう) それを言うの (のです)。腰もかがめんと (曲げずに) ぼだち みたよんしとる (のよにして居る) 言うて。えちやかつて歩く えちやかる言うのは 踏ん張って歩く人な (が) 有るやんかい (有ります)。えっきす (X) 歩きや (だ) 言うて すねな (膝が) 中へ かっこんど んのおな (曲がって居るのが) えちやかつて言うの な あ (のです)。芋、こじるよおにして あの格好見よまあ言うて。フウな (が) わり (悪い) 言うのは 格好な (が) 汚なかつたり かたげて (傾けて) 着たり 短こお (かく) 着たり あんまり (あまり) なごお着 とんのおも (長く着て居るのも) 格好悪りし (悪いです)。そいなのも (そんなのも) あのフウ見よまあ言うの (のです)。かたげて着る言うのは かたみだり (肩乱) うわまい (上前) したまい (下前) でも どっちゃ (どちら) でも 上げて着とる (て居る) 時 な (が) 有るんなあ (有るのです)。あや (あれ) かたみだり ん (に) 着て言うて。かたみだり言うのは 肩が乱れとる (て居る) きもんな、かたんどると (着物が傾いて居ると)、肩も かたんでくもんなあ (傾いて行きます) 背縫い 真っ直ぐ着るとええけど (よいが)。

ぶう (湯) 【名詞】 幼児語 1) 飲料 水、又は湯 (志 (片田、布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乘)、鳥 (鳥羽)) 2) 風呂 (員) [会話] 1) 水の事を

ブウ 子供ら んなあ (に) 水 飲ますの ん (に) ブウ 飲め言うてなあ ブウ くれえ (下さい) 言うて、ゆ うい (風呂に) 入る時でも ブウへ 入るや (入りましよう) 言うなあ ちっちゃいのおらにや (小さい子供には)。

ぶう (歩) (分) 【名詞】 ぶ 分に同じ 歩合給 分け前
ぶう 【副詞】 【名詞】 1) ほら貝を吹きならす音 告知 2) サイレン、サイレンの音 [会話] 2) ブウな (が) 鳴って来た 言うて、ブウな (が) 鳴って来たれ そやはよ (それ早く) 飯も 食わなはんわれ (なければ駄目だ) 言うて。昼 んなあ (に) サイレン な (が) 鳴ると。笛の事も ぶうぶう言うの なあ (です)。1) ぶうぶう鳴らして来た 言うて 法螺 吹いてくると、市場が 昔は くると (漁夫が魚持って来ると) ブウ言うて 鳴らしおったの (鳴らして居たのです)、貝の法螺 吹いて ブウな (が) 鳴って来たぞ 市場な (が) 始まんのかして (まるのか) 言うて。
ふうがな (風雅) 【形容詞】 ふう変りだ 世間並でない (志 (志島、甲賀))

ふうがわり (風姿) 【名詞】 1) 姿形が普通と異なって居る事 2) 性格が一般の人と異なる事、又その人

ふうがん (風眼) 【名詞】 淋菌による急性結膜炎 一夜に失明する事あり 膿漏眼

ふうさい (風采) 【名詞】 外部から見た容貌 服装などの様子 風姿 ふうてい [会話] フウサイ な (が) わり (悪い) 言うて、着とるきもん (着ている着物) でも、なんでもなあ、みとみない (見苦しい) よおな もん (物) しとるやんない (しているでしょう)、すと、あの人 フウサイなわりなあ (が悪い) 不細工 な (だ) 言うて。格好 な (が) わりなあ 言う事をなあ、フウサイ な (が) わりなあ 言うて。

ふうじる (封) 【他ザ上一】 禁止する ふうずる

ふうせんガム 【名詞】 風船のようにふくらすことができるように作ったチューインガム ガムはチューインガムの略 [会話] ガム 子供ら んなあ (が) 囃んどいて (でにおいて) ふうと吹き出す やんかい (です) 口で せんざり (充分) 囃んどいて (でにおいて) 舌でふうと ふくろましてくんね (ふくらして来るのです) あいなの 言うんやろなあ (あんなのを言うのでしょう) フウセンガム言うのは、

ふうたい 【名詞】 1) 入れ物 容器 (風袋) 2) 外観 うわべ (風体) [会話] 1) フウタイ ごち (共に) 言うて、入れ もんごち (物共に)。入れた ごち (まゝ) かけるんやんない (計量するでしょう)。そおすと (そ

うすると) フウタイな (が) 五十匁有るとすると フウタイごち 百匁でしょおみや (正味は・実際の重さは) 五十匁言うて フウタイ引いたると (てやると) 五十匁やんない (でしよう)、そいなのおを (そんなのを)。入れもん (物) を フウタイ。フウタイごち 言うのは 入れもんごち 言うのなあ (のです)。そげんして (そんなにして) 昔は はかりとると (計量すると) フウタイごちのいくら (幾程)、フウタイ引いて いくら言うて。フウタイ 百匁なら百匁 決めて有ると、フウタイごち 言わんでも (言わなくても) 正味で勘定 (計算) 出来るやんない (でしよう)。そやけど (しかし) フウタイごち 言わんと (言わないと) フウタイ引かんと (引かずに) 勘定したりする時な (が) 有るよって (から)、フウタイを始め 引いてあんど (あるぞ) 言うて。はかりとりな (計量する人が) 言うて。秤り取る (計量する) 人も有るし そんなり名乗る (そのまゝ言う) 人も有るし (有ります)。フウタイごみ (風体のまま・共に、込み) 言うて 入れもん (物) へ 入れたまま フウタイごち 言うのを フウタイごち 言うの (のです)。

ふうたいごち 容器と共に すべて ふうたい参照 [会話] フウタイゴチ出てくねよって (出て行くのだから) 言うて、フウタイゴチ 言うのは 子供も 男 (夫) も言うのを フウタイ。フウタイゴチ出てたねてわい (出て行ったのだそうだ) 言うのは 夫婦で 出てて (出て行って)。

ふうたいごみ 容器と共に すべて ふうたいごちに同じ [会話] フウタイゴミ 言うて 入れもん (入れ物・容器) へ入れたまゝ、ふうたいごち 言うのを ふうたいごち 言うの (のです)。

ふうてい。ふうてえ (風体) **【名詞】** 体の様子 見た感じ なりふり みなり [会話] 顔つきや 体の格好とか フウタイな (が) 違ごて (違って) 来ると あのひた (人は) 病気かして (と思えて) そおごおな (顔つきが) 変わって来たなあ。

ふうどり **【名詞】** 船員の中での役職についている人 ぶ歩 参照 [会話] ブウドリや (だ) 言うて、船長でも 他のもん (者) より 分 貰うね (貰うのだ) 言うて、よけ貰うんなあ (沢山貰うのです)。

ふうなわり 1) 体裁が悪い 見苦しい 2) 恥かしい きまりが悪い

ふうびき **【名詞】** 歩合 海女が船頭に渡す料金 [会話] 今日 五円当た (漁獲が有った)、そしたや (そうしたら) とまえ (船頭) に ブウビキ いちぶ (1

0%) 出さなはざんなあ (なければいけない)。

ふうぶ **【名詞】** 1) 水 湯 又は風呂を言う幼児語 ふう ふうぶうに同じ 2) 草笛 [会話] 1) 水や ゆう (湯) の事 ブウブ 言うしなあ。2) よし (竹) の 芯 (若芽) を抜いといて (ておいて) “ブウブ 鳴れ、鳴れ 鳴らんとさいご じんじの 刀で打ち切れ 走れ ふうと鳴れ アウ” 言うて そすと ふう言うて なあ。麦藁のひご (穂のつく所) でもなあ そげんしいおって (そんなにして) 鳴らしおったの (鳴らしました) 真ん中を きさいといて (裂いておいて) ブウブ 鳴れ鳴れ言うてなあ そすとなんねてや (すると鳴るのです)。

ふうふう **【副詞】** 熱い物に息を吹きかけ冷す様、又その事。(阿、張、賀) [用例] フウフウしてくよん

ふうぶう **【名詞】** 水、湯等 飲料、又は風呂を言う幼児語

ふうぶう **【名詞】** 自動車を言う幼児語 (志、阿、張) [会話] 自動車な (が) 来てもなあ ブウブな (が) 来た。ブウブな (が) くんど (来るぞ) はよ (早く) こっちやいこな (こちらへ来なければ) 言うて 子供らん (に)。

ふうぶう **【副詞】** **【名詞】** あれこれと とりとめもなく、不平不満 ぶつぶつ

ふうぶごみ **【名詞】** 夫婦二人、夫婦兩人共 [会話] 夫婦言うのをなあ、フウフゴミ 言うてなあ、フウフゴミ 雇とて (雇って) くれたら行く言うてなあ、そいな (そんな) 条件で 雇いん (に) 来よおったわい (来て居ました) フウフゴミ 雇とてもろた (雇って貰った) 言うてなあ。ふねどしとると (夫婦二人の海女していると) 嬢な (が) いたると (行ってしまうと) ととあ (夫は) 遊ばんならんやんない (遊ばなければいけないでしょう)。そやもんで (それで) ごみ で行くとか (所は) 行きおった (行って居ました)。

ふうふもん **【名詞】** 夫婦者 夫婦である男女 [会話] みよと (夫婦) を、フウフモン 言うんやんかいなあ (言うのです)。フウフモン で 雇とてもろて (雇って貰って) 言うてなあ。何処やかや 行く時や (は)、フウフモン で 雇とてくれるかい (雇ってくれますか) 言うて。昔や (は) 出稼ぎん (に) 行くの (の) に 嬢 (妻) 連れてくと (て行くと) ととな (夫が) 遊ばんならんもんでなあ (遊ばなければならぬので) ふねど (夫婦二人で) しとるとなあ。

ふうみ (風味) **【名詞】** 1) 味と匂い。飲食物などを口 中に入れた時に感ずる感覚 2) そのものから感じら

れる風雅なおもむき [会話] 1) 匂いな (が) ええ (よい) 言うとなあ、おおたこや (これは) どいらい (大変) フウミな (が) ええなあ言うて。青海苔やどけ (など) ぶうっと 匂いな (が) するやんない (でしょう)、あれを おおた フウミな ええなあ言うて。なんでも 匂いな (が) ええとなあ (よいと) フウミな ええなあ言うて。匂いですかんな (嫌なのは) へえ (屁) だけや (です)。

ふうゆうた。ふうゆうた 疲れた 大変だった (志 (布施田)) [用例] 波切まで歩いていたや (行ったら) プウユウタ。

ふうるい 【**形容詞**】 古い。以前。[会話] 古い言うのをなあ、こやまあ (これは) フウルウテはざんわれ (駄目だ) 言うね (言うのです)。フウルウいなあ (のだ) 言うて、腐ったよおんしとるとなあ (ようにしていると) こやどいらい (これは大変) フウルウいなあ 言うてなあ。

ふうるうい 【**形容詞**】 1) 古い 2) 過去を表す [会話] 1) フウルウいね (のだ) こや (これは) 言うて、どいらい (大変) 古いのな (が) 有るとなあ 昔もん (物) 出して来ると こやまあ (これは) フウルウいんどお (のだ) 言うて 言うてや (言うのです)。大昔のもん (物が) 出て来るとなあ こや フウルウいもん (物だから) ぼろぼろではざよかれ (駄目だ) 言うてなあ。

ふうわり (ふうはり) 【**副詞**】 柔らかく軽い状態 あるいはその物が漂ったり覆ったりしている

ふうわり 姿、形が悪るい [会話] フウワリ (悪い)、なりな わり、なんばいな わり 言うて、身姿な (が) わり のをなあ。おた あの人な (が) なんばい 見よまあ (見なさい)、あのとっばい (様子) 見よまあ 言うたりなあ、フウワリ のをなあ。

ふえ 【**名詞**】 ふえふきだい フェブキダイ科の海魚 全長約60cmに達す。体型はタイ型。物が突出しているなのでこの名が有る。背方は赤みを帯びた紫褐色で腹方は淡い。口及び、背鰭、尻鰭の縁は赤い。(志、鳥)

ふえぐそ 【**名詞**】 海魚 あかえそ すなえそ ほしえそ えそ参照

ぶえてくる 繁って来る (志 (布施田))

ぶえとる 繁茂して居る。増えて居る。[会話] 秋ん (に) になると 盆 過ぎると 里芋の茎 (が) プエトンノオ (ているのを) 刈って来て、浜い (に) もて (持って) 来て 剥いて 干して かこいおったの

(しまっておいたのです)。

ぶえる 【**自ア下一**】 よく茂る 若々しく伸びる はびこる ふえる 数や量が多くなる。ふえるの訛か (志 (志島、甲賀)) [会話] プエトンネヨオ (て居ます)。ほおれん草播いて ちよいと (少し) アンモニヤやつといたら (やっておいたら) プエル 言うて、よお (よく) 出来とんのお (て居るのを)。なんでも よけ (多く) あんのを (有るのを) プエル。大根でもなんでも 播いたもん (物が) よお (よく) 生えて こおしとると (密生して居ると) 生えた言うのは ばらばら生えとんねけど (て居るのだが)、プエトンノオは (て居るのは) こやし (肥料) やって おつきい (大きく) なって、プエル言うの (のです)。べつんも (特に) 美味しそおにしとんねてや (して居るので) プエトンのは (ているのは)。草もプエトル言う (言います)。草な (が) プエトテ (て居て) まあ言うて、プエトンネヨオ 草な (が) 言うて。草なよけ (が多く) 生えとると (て居ると)。草でも野菜でもなんでも よけ 茂つとんのお (て居るのを) プエトル言うの (のです)。櫻の木なんか 枝が張つとんの (て居るのを) 枝がプエテ来て邪魔ん (に) なんなあ (なる) 言うて。椿の木な (が) プエテ来て 邪魔ん (に) なんなあ 切つたれまあ (切つてやれ) 言うて。

ぶえん (不縁) 【**名詞**】 1) 夫婦 養子などが離縁すること (志 (国府)) 2) 縁組が成立しない事 縁遠いこと [会話] 1) つり合わんは (つり合わないのは) フェンのもと (原因) 言うて。フェン言うのは 縁が無い言う事。二階の雨戸で 縁が無い。金持ちの家ん (に) びんぼやな (貧乏な家が) 行くと にやわんなあ (似合わない) 釣あわんなあ言うて 戻って来ると 釣り合わんは フェンのもとと言うて。

ぶえん (無塩) 【**名詞**】 塩気の無い事 生のままで塩漬けしてない事 特に魚介類が新鮮である事 鮮魚 生魚 (志 (布施田、甲賀)、員、南、熊) [会話] 娘の持ち腐れかい (ですか)。娘もいつ迄も 嫁にやらんとおると (やらずにいると) 鯛のプエンで おきゃさがる言うて 娘でも 十七、八の時空 (は) 花盛りやけど (だが) それを 嫁にやらんとおって (やらずに居て) 二十五も二十六もなつて来ると 鯛のプエンも一緒に、花の色な 移りにけりないたずらに言うよおなもんで、だんだん (次第に) 花の色もしけて来る (薄くなって来る) そいな時んなあ (そんな時に) 鯛のプエンで おきゃさがる言うて。鯛でも獲った時は

ええけど (よいが、値打があるが) おいときや (置いておけば) ひましん (日増、日時が経つ事に) なつてくと (なつて行くと) うまないやんない (美味しくないでしょう)。なんでも プエンは美味いし、娘でも あらのうちやったら (新しい間だったら) 鯛のプエンと一緒に ええんけど (よいのだが)、おいとくと (置いておくと) ねえ (価値) が下がる言うよ おなもんやわい (ものです)。プエン言うのは 塩がしといてないの (振ってないのを) 言うね (言うのです)。さいら (秋刀魚) のプエン こおて来て (買って来て) 言う やんない (でしょう)。さいらの しよな (塩が) せんとあんの (せずに有るのを) プエン こおて来た (買って来た)、鯛のプエン や (だ) とか言うて、しよ (塩) せんとあんの (を) (有るのを)。その代り こや (これ) は 新しな (新しく無いと) うまない (美味く無い) わけや (です)。

ふえんになる 破談になる、離婚する

ふかし 【名詞】 軽い 錘りで流し釣にする釣方 ふかしづりの略

ふかす (吹) 【他サ五】 ほらを吹く。吹聴する。誇張したさまをする。[会話] 自慢して 法螺 吹くのも フカス、ふっけらかす。あやまあ (彼は) 大法螺 吹き や (だ) あんな (彼の) 言う事 な (が) ほんとな るか (本当になるものか) 言うて、大法螺 や (だ) 山伏の法螺より えらいわれ (大変だ) 言うてなあ。ふっけらかす 大きな事を 言う人をなあ。“奈良の大佛つあんを ちよいと 腰に吊げ” そげなおつきい (そんな大きい) 事 言う人をなあ だばら吹き や (だ) 言うて。

ふかす 【他サ五】 怠ける。尻ふかす。尻を落ちつけている。[会話] ひとばか (少し) フカシ といて (ておいて) やすどいて (休んでおいて) 行こやんかれ (行きましょう) 言うたりするしなあ。尻フカス言うて あや (彼は) また 何処 やら (かへ) いて (行って) 尻 フカシ とんねない (ているのだ) 言うて。

ふかづめ (深爪) 【名詞】 爪を切るのに肉の際まで切る事

ぶかぶか 【副詞】 【形容詞】 1) 衣類や靴などが身体に対し大き過ぎること。不釣り合いのこと 2) 布団などの柔らかいさま 3) 草木の茂ること、頭髮の多いこと [会話] 2) 柔ら こおて (かくて) ぶわぶわ しとんの おを なあ (しているのを) 3) 頭の髪も ブカブカ この かあ (子は) 生え とんない (ている) 言うて。生まれて 真つ黒ん (に) して来るとなあ ふさふさ と

ブカブカ 生え とんない (ている) 言う、こお 有る んなあ (子が有るのです)。1) きもん 着 とて も (着物着ていても) おつきいと (大きいと) ブカブカ や (だ) 言う ね (言うのです)。だば だぼ しとる (している) 言うたりなあ。おお た だば だぼ しとん なあ (している) 言うたりなあ。

ふかみ、**ふかり** (深) 【名詞】 深い所 ふかみ (志 (布施田)) [会話] フカリ 言うのは 深い とこ (所) ふ つかいとこ (深い所) を フカリ。

ふかりかづき 【名詞】 深い所に潜つてする海女作業、又その海女 [会話] ふつかいとこ (深い所) 行くも な (者は) フカリ かづ きや (だ) 言うて あ つ さい いとこ (浅い所) するも な (者は) あ さ み か づ き。

ふき (吹) 【名詞】 強い風の吹くこと 動詞 吹くの連用形の名詞化 [会話] ま げ な (南風が) ふ いて 来 た。今日は 風 な (が) 吹 く ど お (ぞ) 言うて 大 風 ブ キ や な あ (だ) 言うて ま あ 伊 勢 の み (海) の つ み か け な (が) え ら い わ れ (大変だ) 今日 は ま あ 大 風 や ど お (だぞ) 言うて。に げ (人間) で も 怒 つ と る と (ていると) あ や (彼は) フ イ と ん ね ど お (ているのだ) 言うて。あ や (彼は) フ キ テ で (よく怒る人で) 言うて 怒 つ て ば っ か (ばかり) お る 人。あ や (彼は) 今日 は フ イ と ん の か し て (ているのか) あ や れ (あれ) 顔 つ き 見 よ ま あ (見なさい) 言うて。気に入らんと もの 言 わ ん よ ん な つ て く (ようになって行く) に げ な 有 る わ い (人間が有ります) あ や (彼は) ふ い た ん ど お (たのだ) 言うてなあ。

ふきかえ (ふきかへ) (葺替) 【名詞】 屋根の瓦、板、茅などを取り替えること [会話] 屋根の フ キ カ エ。草屋葺きを フ キ カ エ する よ ん (ように) になると、鼻も ど つ こ も か も 真 つ 黒 ん (に) になって、お お た や の ふ き み た よ な な あ (のようだ) 言うて、く う ろ お (黒く) になるとなあ、や の ふ き 言うのは ふ き か え する 人。フ キ カ エ し よ お (しよう) 言うて 何 年 も 前 か ら か や 貯 め て 今 年 や (は) こ ま (小間) を 葺 いた よ つ て (から)、だ い ね (来年) ひ ら 葺 く 言うて、こ ま は ち よ いと で え え けど (少しでよいのだが) ひ ら は ば あ な (場所が) 広 い や ん ない (でしょう)、その、か や 草 を 三 年 も 四 年 も た め て し と いて (しておいて) フ キ カ エ す ん ね や ん か い (するので)。冬 ん (に) になると か や か き ん (刈りに) 行 く ね (行くのだ) 言うて、か や 買 い ん (に) 行 く ね や ん か い、わ が 家 ん (に) 畑 な (が) 有 つ た て て (ても) み い (三) 株 や よ お (四) 株 より 無 い し、み ん な (皆)

買い集めんの (るのです) 買い集めて 二階へ束ねて入れて 今度のフキカエ迄 一杯 詰めんねなあ (るのです)。そすとさいご (すると) 古いのおも (のも) ふるいかえし言うてなあ ええとこ (よい所) を、ふるてなあ。腐つとるとか (ている所は) ほったて (捨てて)、その ふるいかえしすんの (するのを)、てったいどな (手伝い人が) 鼻も めえ (目) も 真っ黒ん (に) なんね (なるのです) 煤で。めえ (目) だけ出して ほっかぶりしとんねやんかい (頬振りしているのです) それやけど (しかし) まつげ (睫毛) から、鼻から真っ黒ん (に) なんねやんかい (なるのです)。そすと くろお (黒く) になると やのふきみたよなあ (のようだ) 言うやんかい (言います)。

ふきかえし (ふきかへし) (吹返) 【名詞】 風が向きを変えて以前と反対方向から吹くこと 低気圧の進行につれておこる [会話] やまぜがえし (南風の後) 西や (は) 怖い言うて、まぜな (南風が) 吹くと こんだ (今度は) それの フキカエシん (に) 西な (が) おとしてくんど (吹いて来るぞ) 言うて、こんだ 西な (が) どぶいてくんねやんかい (強く吹いて来るのです)。西の風な (が) やっからかえして (ひっくり返して) 来たれ言うて、よけ (沢山) 吹いて来るとなあ。やまぜな (南風が) 吹いたら、必ず西の風な (が) くんねやんかい (来るのです) やまぜがえしな (が) 来んうちん (来ない間に) はよ (早く) 逃げな (なければ) 言うて。

ふきかえす (ふきかへす) (吹返) 【自サ五】 1) 呼吸を恢復する 生き返る 2) 風が反対方向から吹く

ふきぐさ (葺き草) 【名詞】 草屋の屋根を葺く藁 すすき等 [会話] 草屋葺は かや (茅、すすき) を 皆 フキクサん (に) 言うて。二階へ 二年も三年も ぐらいつすと (経つと) ひとこまあつ (一小間づつ、一ヶ所) 葺きがえすんね (替えるのです)。三年も四年も あいに (間に) そのフキクサを かややとか (だとか) 笹やとか 言うのを こおたり (買った) 切ったりして 二階、かこえおつたの (囲って居たのです、しまつて居たのです)。三年でも四年でもすると 今年しゃ (は) 南のこま 葺いたよつてん (から) こんだ (今度は) 北のこま 葺くとか こんだ 母屋 (おもや) の方 葺くとか 平屋の方、葺く言うて かため (交互) に よおすま (四隅) を 三年か四年あい (間隅) に 葺きかえしよおつたわい (して居ました)。そつと かやを かこうの (しまつうのです) フキクサ言うて。お伊勢さん (伊勢神宮)

でも そのフキクサを 皆 刈りん行きおつたやんかい (に) 行って居ました)。此処らから その時ん (に) てえ (手) 切ったりして ちい (血) 見せたと (てやると) 千日に刈るかや 一日ん (に) ほろべる (ほろぶ) 言うて 千日刈つても いび (指) 切ったりしたるとはざんのおで (してやるといけな) いで)。大神宮さんに 血 見せたらはざん (いけない) 言う訳 やろん (でしょう)。そんで (それで) 血 見せんよおんして (見せないようにして) こころえて (気をつけて) みんななして (皆がして) 過つてふせしたると (怪我してやると) 千日かかつても その日一日で はざんよおんなつてく (駄目になって行く) 言う事やなあ (です)。かために葺く言う かため言うのは 今度は 此処葺くやんない (でしょう)、だいな (来年) は、だいな言うても 三年目も 四年目もしてからやけど (だが) こんだ (今度は) 此れ葺く、そいて (そうして) こんだ 又 次の此れ葺く言うて よおすま (四隅) 有るやんない (でしょう) こまとひらと よんかい (四回) に それ葺くやんかい (葺くのです)。交代する言う事を かためな (です)。交代に 言う事なあ (です)。こまとひら ひら言うな (のは) ひいろいとこ (広い所)、こま言うのは ちよいと (少し) せばいやんかい (狭いです) 家でも ひら入りと こま入り言うて 言うのな (のが) 有るやんかい (有ります)。ひらくとお (たく) なつた方な (が) ひらで、ほいで (それで) こまかい (小さい) 方へ 玄関つけとる (て居る) 家や (は) こま入りや (だ) 言うて ひら入りや (と) 言うて 家な (が) 横ん (に) なつとる (なつて居る) ひらから入る、玄関にすんの (するのを) ひら入り。狭い方を こま 広い方を ひら言うて。

ふきこむ (吹込) 【他マ五】 教へてそそのかす 教える

ふきこむ (吹込) 【自マ五】 風が部屋の中に入る

ふきさらし (吹曝) 【名詞】 広くて風をさえぎる物のない所 [会話] フキサラシ言うて 陰の無いとこなあ (所です)。さらしで 風な (が) よお当んねなあ (よく当たるのだ) 言うて きいや (木とか) どてな (土提が) 有ると 陰ん (に) なるけど (が)、なんもなしに (なにも無くて) のつぱく (広い所) へ立つと、フキサラシや (と) 言うて。風な (が) よお 当たるとこなあ (所です)、のつぱくん (に) 建てて 風な (が) よお当たんねなあ (よく当たるのだなあ) 言うて。のつぱく言うのも フキサラシも 一緒や (です) 陰な (が) 無い事なあ (です)。

ふきさらす【他サ五】 大法螺を吹く
ふきたおす (ふきたふす) (吹倒)【他サ五】 1) 大法螺を吹く 法螺を吹いて相手を圧倒する ふきまくる 2) 強風で立って居る物を倒す
ふきちらかす。ふきちらす (吹散)【他サ五】 1) 風が吹いて物を散乱させる 2) 吹聴する 大言壮語する 法螺を吹く 自慢する
ふきつける【自カ下】 風雨が激しく当る
ぶきちよ【名詞】 不器用 下手 ぶきよう (不器用) の変化した語 (志 (布施田))
ふきて【名詞】 すぐ怒る人 よくふくれる人 [会話] 怒ってばっか (ばかり) おる人をなあ。フキテやどお (だぞ) あや (彼は)、心得て もの言わな (なければ) じっきん (すぐに) ふいてくんねどお (来るのだ) 言うてなあ。
ふきで (吹出)。 **ふきでもん【名詞】** 吹き出物 皮膚に生ずるでき物 にきびの類 [会話] フキデモン。風邪引くとなあ ろん (の) ちい (に) フキデな (が) 出来て、いいなわりねやれ (胃が悪いのだ) 言うて。ここな (口角が) 切れて来る にげな (人間が) 有りおったなあ (有りました)。水ぶくれもなあってなあ、今しや (今は) あげな見やせんけど (あんなのは見ないが)、昔や (は) 皆 こんな (口角が) ししろお (白く) 切れてなあ、夜着の はっかけみたまん (のように) なってきいおったなあ (来て居ました) 水ぶくれで そんな (それが) 潰れて はれてな くちびるな (口唇が) でんぐり (ひっくり) 返って来て。
ふきどおし (ふきどほし)【名詞】 吹き通し 1) 続いて風の吹いて居る事 (三) 2) 怒ってばかり居る事
ふきぶり (吹降)【名詞】 強い風と共に雨が降ること またその風雨 (阿、張、賀)
ふきまあし (吹回)【名詞】 ふきまわし (ふきまはし) の訛 1) 風の吹き具合、風のふきまあし 2) その時の気分、調子 [会話] 1) 風のフキマアシ言うてなあ、まいまい風みたよん (旋風のように) 陰のとこい (所へ) フキマアシな (が) 来て ごみくた寄せとい てくわい (ておいて行きます)。こや (これは) こもそお風やったなあ (虚無僧風だったのだ) 言うて、フキマアシて行くもんで (ので)、こもそお風な (が) 吹いて こやれ (これ) 言うて こもそお (虚無僧) 笛 吹いて来るよってなあ (から) こやまあ (これは) こもそお風やれ (だ) フキマアシて来て言うてな。ふきまあして 皆 ごみくたを 陰い 寄せてくねやんかい (て行くのです)。2) なんやら (なに

か) フキマアシな (が) わりかして (悪いのか) 言うて、怒とる (ている) 時ん (に) 機嫌な (が) わり (悪い) 事、言うたるとなあ (てやると) あやまあ (彼は) フキマアシな (が) わりんかして (悪いのか) がいん (大変) 機嫌な (が) わりわれ (悪いです) 言うてなあ、ふいとんねよってん (ふいているのだから) 言うてなあ、怒とるのおを (ているのを) ふいとる 言うてなあ。
ふきまくる (吹捲)【他ラ五】 強い風が吹く 吹き荒れる [会話] 風な (が) 強い時も フキマクル。フキマクッテキテ、とお (戸) もなんも やっからかさ れてまあ (倒されて) 言うて、フキマクラレテマア 干しもん (物) しとてまあ (していても) 麦 干しても (ていても) おおた 筵 ひんまくられて (巻くられて) 皆 まけたたよお (こぼしてしまった) 言うて、弱る時な (が) 有るやんかい (有ります)。
ふきまくる【他ラ五】 ほらを吹く おおげさなことを言う。[会話] 法螺 フキマクル人な (が) 有るやんかい (有ります)。法螺吹いて 吹いて フキマクッテ まあ あのひた (人は) 言うてなあ。なんやかや (いろいろ) あっちゃいいてな (あちらへ行つては) おつきい (大きい) 事言い、こっちゃい (こちらへ) いてな おつきい 事、言いしとるとなあ (している)、あやれ (あれ) だばら吹いて 大法螺吹きやよって (だから) フキマクットラレ (ている) 言うてなあ。
ふく (服)【名詞】 洋服 和服を着物と言うのに対し、洋服の事。
ふく【名詞】 ふくだめに同じ くだめ ながれこ 常節 (志 (布施田、立神、志島)) [会話] ふくだめ。ながれこや (だ) 言う人もおるし (居ます)、ふくだめ の事を フク言うなあ (言います)。
ふく (吹)【自カ五】 大言壮語する 法螺を吹く
ふく【名詞】 幸福 しあわせ
ぶく (佛供)【名詞】 佛壇に供える 御飯を盛る器 ブック (佛供) の略 (大言海) (志 (布施田、立神、志島)) [会話] ほとくさん (佛) のブクや (だ) 言うて、飯 もんのおを (盛るのを、よそうのを) ちっちゃあいのおを (小さいのを)、膳へ とおぐらいつ (十ヶ位) 並べてすんの (するのを) ほとくさん のブクなあ (です)。茶碗や (と) 言わせんの (言わないのです)、ほとくさん のブクや (と) 言うて。
ぶく【名詞】 鼻翼部 [会話] 鼻のブクな (が) おつきいなあ (大きい) 言うて、わしや (私は) まあ どかんばなで 此処 (鼻翼) が おつきいて (大きくて)。

鼻の**ブクな** (が) **おっきいなあ** 言うて **よお言うやんかい** (よく言います)。此**処な** (鼻翼が) **おっきいやんな** (大きいでしょう) **どかんばな言うん** (言うのです)。そして (そうして) **空むいとると** (上むいて居ると) **れえこんばなや** (蓮根鼻と) 言うて。鼻の、**ブクな** (が) **どいらいおっきいなあ** (大変大きい) 言うて。ブクな 厚い。どかんばな言うて **此処** (鼻翼) かも **おっきいし** (大きくて) 鼻筋も**ひいろい** (広い) のを言う**う** (のです)。そして 此の**こばなな** (小鼻、鼻翼が) **開いとんのおを** (て居るのを) **ブクな** (が) **おっきい** (大きい) 言う**う** (のです)。梅の花**な** (が) **開いとんなあ** (開いて居る) 言うて、**ブクな** (が) **開いとんのおを** (て居るのを) **あや** (あれ) 梅の花で **ブクな** (が) **開いとられ** (て居る) 言うて、梅の花びら**な** (が) **ちよいと** (少し) **まるくとおなつてしとるやんない** (丸くなってして居るでしょう) **それん** (に) **例えんのなあ** (例えるのです)。空向**いとんな** (て居るのは) **れえこんばな** **れえこん** (蓮根) **切った穴があいとて** (て居て) **こおしとるやんない** (穴があいて居るでしょう) **そやもんで** (それで) **空** (上) 向**いとる** (ている) 鼻を **れえこんばなやなあ** (です)。鼻の**ぼらな** (孔が) **よお** (よく) 見**えとんのな** (て居るのが) **有るわい** (有ります)。そ**いなのおなあ** (そんなのを) **れえこんばな**。獅子鼻、獅子鼻言うのは **鼻ぼらな** (鼻の孔が) **ひっちゃかつとんのおなあ** (開いて居るのです)。ど**いらいなあ** (大きいのです) **鼻ぼらな** (が)。

ふくしらが 若い人に少数の白髪が生えるもの

ふくじん (福人) **【名詞】** 幸福な人 裕富な人 金持ち [会話] 徳人**言うけどなあ** (言いますが)。フクジン**やなあ** (だ) 言うて、生活も豊かで **なんもかも** (なにも) 豊**かな** (で) **しとると** (している)と、**あやまあ** (彼は) フクジンで **徳な** (が) **備わつとんねなあ** (ているのだ) 言うてなあ。

ふくすけ (福助) **【名詞】** 頭の異常に大きい人。[会話] 肩**な** (が) 立**って**、首**な** (が) **いっこんどる** (入っていて)、頭**な** (が) **おっきいと** (大きい)と、おおた**あや** (あれ) 格好 **見よまあ** (見なさい) **フクスケん** (に) **よお似とんなあ** (よく似ている) 言うて。

ふくそ **【名詞】** 福相 (ふくさう) 豊かな顔つき 幸福に恵まれたように見える人相 **ふくそう**の末尾母音の省略 **ひんそ参照** [会話] にこにこと **ほたほたとしとると** (している)と **べつんも** (特別) **フクソななあ** (だ) なあ。

ふくだめ (福多味) **【名詞】** 常節 とこぶし ながれこ流貝子 海に住む巻貝で鮑の一種。殻は平たい皿状で膨らみは弱い 鮑より小さい、殻口の縁に沿って六〜八ケの穴が一行にあって居る。穴の廻りは、えりのように持ち上つて居ない。原種はふくとこぶし。ふくだめ。福多味。常節の肉とわたを刻み塩味をつけたもの と関係あるか。(志 (越賀、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (石鏡)、伊) [会話] **ふくなあ** (です)。フクダメ **フクダメ言うな** (のは) 鮑に似**とるけど** (て居るが) **ちよいと** (少し) 違**う**。ち**っ** **ちやいのなあ** (小さいのです)、**あや** (あれは) あれより **おっきいならせんね** (ならないのです)。今**し** **は** (今は) **ながれこや** (だ) **言うけどなあ** (言うが)、**わしら** (私達) **くだめや** (と) **言うねてや** (言うのです)。くだめは **此の位** (五糶) より **おっきいならせんけど** (大きくならないが) 鮑は幾らでも **おっきい** (大きく) なる**けど** (が)。フクダメ**やなしん** (でなくて) **くだめ言うう** (のです)。ふく言うて **言うけど** (けれど) **市場いても** (行っても)、ふく幾ら言うけど **わしらわなあ** (私達は) **くだめや** (だ) 言うて。

ふくつん **【名詞】** 豊かになって来た、裕福な人。金持。福積む意 (日本国語大辞典) 耳が聞こえないと信ぜられる恵比須にも通じるところから (日本方言大辞典) (志 (布施田)、阿、張、賀) [会話] お多福に **三味線やなあ** (だ) 言うて。フクツン言う事はなあ **金もなんもかも** (なにも) **よけ** (沢山) 有る言う事。**なんもかも** **ぜえたく** (充分) 有る家をなあ、おおたあの家**や** (は) 子供ら**な** (が) **ぜん** (銭) **かせんで** (稼いで) **家内中な** (が) **かせんで** **生活あ** (は) フクツン**やなあ** (だ) 言うて、**楽やなあ** (だ) 言うのをなあ。フクツン**やなあ** 言うて。

ふく、とく、びんぼ、しよおらい、かねもち、ちよおじや **【俚諺】** 福、徳、貧乏、将来、金持、長者、着て居る着物の枚数を数える時に使う文句 福一枚、徳二枚、貧乏三枚 将来四枚、金持ち五枚、長者六枚 [会話] きもん 勘定すんのん 一枚、二枚言うのを **フクトク** 言うて **チョオジャ迄とる** (ている) 言うて。

ふくのい。ふくのり **【名詞】** 蛇 小さな蛇 [会話] **フクノリ**。蛇の**こお** (子) を、**フクノリや** (だ) 言う。**こやなんど** (これはなんだ) **フクノリやんかあ** (ではないか) 言うて、**ちっちやいのおを** (小さいのを)、まだ **肌な** (鱗が) **よけ** (沢山) 付いて **こんうちんのおを** (来ない間のを) **フクノリ**。

ふぐのはらたて【名詞】怒ってばかりいる人 [会話]
怒って来て 顔ふくるまして (ふくらまして) ブツと
しとるやんかい (しているでしょう)。ふぐの腹 ブツ
とふくれて。そやもんで (それだから) 怒ってばっ
かおると (ばかりいると) フグノハラダテや (です)。

ふくびき (福引)【名詞】くじびき (熊) [会話] フク
ビキで 当たったね (のだ) 言うて。昔や (は) よお
(よく) フクビキしよおった (して居ました)。今し
の (今の) 籤引きの事をなあ フクビキや (だ) 言う
の (言うのです)。フクビキ 引きん行こや (に行き
ましよう) 言うて、一銭で かしん (菓子) 買うと
フクビキな (が) 入いっとんねよお (ているのだ) 言
うてなあ、らっかせ (落花生) こおてもな (買って
も) その中に フクビキな (が) 入いっとて (てい
て) ああ 当たたんよお (のだ) 言うて 嬉びおった
なあ (嬉びました)。

ふくひろげ (福広)【名詞】旧正月八日 初めて畑に出
る事 (志 (布施田、神明、志島、甲賀)) [会話] す
すとり (大掃除) 六日にすると、しよんがつ (正月)
の六日に フクヒログや (だ) 言うてするし (しま
す)。八日に すすとりすると 八日に フクヒログ
て。二日に すすはき (大掃除) すると しよんがつ
(正月) の二日に フクヒログて。そやけど (しか
し) あんまり (あまり) しよんがつ (正月) 三ヶ日
済まんうちん (間に) フクヒログも 出来やへんよっ
て (出来ないから) 三ヶ日過んでから せやええわれ
(すればよるしい) 言うて。初めて畑い (に) こやし
すんのん (肥料するのに) フクヒログ言うの (ので
す)。すすはき (大掃除) したひい (日) に しよお
った (して居ました)。その家によってやけど (だ
が) 八日な (が) すすはきの日やもんで (なので)、
八日 今日 は フクヒログやなあ (だ) 言うて、そげ
んしよおった (そんなにして居ました)。そすと い
て来ると (畑へ行って来ると) 雑煮して 畑の神さん
祭って その日も又 ちよいと (少し) ごっつおする
わけや (御馳走するのです)。フクヒログて来ると、
晝に 雑煮して 雑煮持って 畑な (に) つついし
てまつんの (祭ります)。

ぶくぶく【副詞】1) 太って居る様 2) 着物などが大
きいさま

ぶくぶく【名詞】【副詞】泡、泡の吹き出る様 (上、
阿)

ぶくぶく。ぶくぶくする 溺れる (鈴市)

ぶくます 詰める 包む ぶくらます [会話] 着物も

作るのおも (のも) 綿フクマス。綿えごつと (充分
に) フクマシトケよお (ておきなさい) 言うて。

ふくみみ (福耳)【名詞】耳たぶの大きい耳 ぶくぶく
しい耳 福相のしるしと言われる [会話] フクミミ。
びんぼみみ (貧乏耳)。ぼんと ここな (耳朶が) ふ
くれとんのなあ (ているのです)。そして あげな
げ (あんな人間) みみづもりな (記憶力が) ええなあ
(よいのです)、あけほけんしとると (していると)
みみづもりも わりんけど (悪いのが) フクミミのも
なあ (者は) みみづもりなよおて (記憶力がよく
て) なんやかや (いろいろ) よお (よく) おぼえとる
やんかい (ています)。

ふくめる【他マ下】1) 野菜等を柔らかく煮る 2)
理解出来る迄教え訓す

ふくらかす【他サ五】膨張させる 膨らませる (津、
松、多、度、伊、南) [会話] フクラカス。餅 焼く
と ふくらんで来るやんかい (来ます) ぷうと。そす
と (すると) フクラカシテ そや (それ) 餅も言うて。
ふくらますもんな (が) 有って、あれ フクラカソヤ
ンカ (膨らましましょう) 言うて 風船を ふくらま
すもんや (と) 言うて。がっこい (学校へ) 行く時分
(頃) 一銭つ出して あれ買おて (買って) フクラカ
シオツタン (膨らませました)。フクラカス言うのは、
自分で膨らます。息吹き込んで。ふくれる言うんは
(言うのは) ひとり (自然に) 膨れてくんの (来るの
です)。餅な (が) 焼けて 膨れて来た 言うて。餅
な (が) 焼けたかして (と思へて) フクランデ 来た
れ (来た) 言うて。あれも (彼女も) はらんどんのか
して (妊娠して居るのか) 腹な (が) フクランデ 来
たやんかい (来ました) 言う時も 有るし (有りま
す) 腹な (が) えらい (大変) フクランデキタ やん
かい (ではありませんか) 言うて。フクランデ 来た
われ (来ました) はらんどんねなあ (妊娠して居るの
だ) 言うて。

ふくらかすもん【名詞】風船 ぶくらすもん参照

ふくらすずめ (張雀)【名詞】1) 帯の結び方 2) 何
枚も重ね着して着膨れて居るさま 3) 体をふくらま
して止まっている雀 [会話] 1) フクラズメ言うの
は 帯 結ぶのを。3) 雀な (が) 胸な (が) 膨れとん
のな (て居るのが) 有るんなあ (有ります) あれを
フクラズメ。2) きもん (着物)を 何枚も重ねて
その膨れとんのも (て居るのも) フクラズメみたい
なあ (ようだ) 言うて。

ふくらすもん【名詞】風船 ぶくらまかすもん参照

(志(鶴方、神明、安乗)) [会話] フクラスモン言うて、一銭でゴムのおを(ののを) ふうっとふくろかしおった(膨らませて居ました)。あれを 欲しいて(くて) 一銭もろて(貰って) 買うのん(に) よお買わざりおったんなあ(買えませんでした)。フクロマスモンや(だ) 言うて 風船の事。

ふくらまかす。ふくらます【他サ五】 膨らす

ふぐり【名詞】 1) 陰囊 2) 決断力 [会話] 2) フグリな(が) 切れんで(なくて) 言うやんかい(言います)。いつもかも 言うたよな(ような) 事言うて しととなあ(していると)、フグリも切れまあえ(切りなさい) 言うてな、思いきれ言うのをなあ 思い切りな(が) 悪い言うのをなあ。フグリな(が) よおつけんで(つけられなくて) 言うてなあ。1) フグリな(が) おつきい(大きい) 言うて、どんび(陰囊)を フグリや(だ) 言うて フグリ言わんと(言わずに) フグリ言うなあ(言います)、あやれ(あれ) あの人の フグリ見よまあ(見なさい) どいらいな(大きいです) 言うてなあ。

ふぐりなきれん 決断出来ない 思い切りが悪い (志(布施田))

ふぐりなし【名詞】 女女しき人 男らしからぬ者 決断力の無い者

ふぐりやきれる 1) 決断する 2) 決断力がある (志)

ふくりん【名詞】 布 毛織物(上、阿) [会話] フクリン言うて サアジや(です)。オニサアジを 昔や(は) フクリン言うて。フクリン 糸 皆 抜いて それを 張り子ん(毬に) 捲きおったの(捲いたので) ず。

ふくれる(膨)【自ラ下一】 1) 妊娠する 2) 満腹する 3) 怒る

ふくろ【名詞】 鼻 ふくろう ふくろふの略(志、鳥、桑、三、鈴郡、鈴市、亀、安、津、一、松、多、阿、度、伊)

ふくろかす 膨らませる [会話] 目白な(が) つぶつぶ 喰うと 胸もフクロカシテ 膨れてくんで(来るので)。

ふくろばかす ほころびさせる 着物の縫目を破る

ふくろび(綻)【名詞】 ほころび 着物の糸が弱って切れた所 ほころびの転訛(大言海)(志(立神、国府、安乗)、三、鈴市、津、一、松、度、伊、南)

ふくろぶ【自バ上一】 ふくらむ ふくれる(南) [会話] かたっぽ(一方)の方は そんだよおん(削いだよう

に)して、かたっぽ フクロンデ(膨れて居て)。

ふくろぶ【自バ上一】 ほころびる 糸が切れてさける ほころぶの転訛(大言海)(南)

ふくろべ(綻)【名詞】 ほころぶ ふくろぶ 綻ぶ ほころぶの転 縫目がとける ほころぶ ほころび 綻び ほころびた所 ほころびる事 ほころびる 縫い糸が切れて縫い合わせた所が開く そうして中の物が見えるようになる。(鳥(加茂)、上、阿、北、尾、南) [会話] きもんな(着物が) 糸な(が) 切れてくと(て行くと)、きもんな フクロベて言うて。そして(そうして) 引っ掛けて 破れんのは(るのは) 破れた言うし(言うのです)。糸な(が) 切れて はずれてくの(て行くのを) フクロベや(です)。糸な(が) 切れて 縫い目な(が) ほつれて来るやんない(でしょう) それを フクロベ言うの(のです)。

ふくろべる【自バ下一】 破れる 綻べる(志(鶴方、国府、安乗)、鳥(加茂)、鈴市、一、阿、上、張、賀) [会話] きもんな(着物が) 糸な(が) 切れとんの(ている) フクロベ。きもんの フクロベもよおなわんね(縫えないのだ) 言うてなあ、ほころべ(綻び) 言うのを フクロベや(だ) 言うのなあ。縫うてあんのな(有るのが) 糸な(が) 切れて 離れてくの(を) なあ(て行くのを) フクロベ。フクロベ 言うて 破れんね(るのです)。まあそや そげん(そんなに) 引っ張ったら フクロバラレ(て行く) きもんな 言うてなあ、引っ張られて 糸な(が) 切れてくと なあ(て行くと)、おおた 引っ張られて、フクロベ 糸の縫うたの(が) 切れんのを(るのを) フクロベ。
ふくろまかす。ふくろます ふくらす ふくらます [会話] 服や(とか) なんやかやも(何や彼や) ふくましとけよお(詰めておけ) 言うて フクロマス事を 言うんかいなあ(言うのでしょうか)。

ふくろまかすもん。ふくろますもん【名詞】 ゴム風船 ふくろます ふくらかす ふくらます 膨らます ふくらむようにする。ふくらむ 膨らむ 物が内側から盛り上って大きくなる。[会話] 風船や(です)。今しの(今の) あれを わしらんな(私達のは) フクロマスモン かおや(買いましょう) 言うて。

ふくろむ 膨らむ 膨れる [会話] はらんで(妊娠して) 来ると なあ、腹もフクロンデ 来たなあ 言うたり、なんやかや(いろいろ) 袋ん(へ) 物一杯 入れると、まあこや(これは) フクロンデ 来たれ(来ました) 袋張り裂けて かれ(て行く) 言うてなあ。膨らむ言うのを フクロム 言うて。

ふくろんどう 膨くれている [会話] この河豚の腹見よまあ (見なさい) かんこぼりや (堅く膨れて居るのだ) 言うたり、膨くれると かんこぼりや 言うて、フクロンドル ことを なんでも 一杯 フクロンドル のを かんこぼりや 言うて 物 入れて ふくろんどうでも (でいても)。

ふけこむ 老人くさくなる、老化する

ふけつとる 一心にして居る 夢中になっている

ふけてく 老人になる 年を取る

ふけてく 1) 早く走る (志 (布施田)) 2) 行方を告げずに姿を隠す [用例] 1) あんな走んなはよおって (彼の走るのは早くて) フケテクねよお (のだ)。

ふけらかす【他サ五】 1) 自慢する 見せびらかす ふ つけらかす (南) 2) 風で吹き飛ばされる [会話] 1) あのひた (人は) えらっそおん (に) フケラカシテ なあ 言うて。自慢すんのを (するのを) 家になんもの おておって (何も無いのに) 有る振りして、金の茶釜も おておって 有るよおに フケラカス (ののです)。無い袖ふって はんこ (判繩、袖なし) の袖振れ言うて。のおておってん 有る振りしたり、えらの おておって (偉くないのに) えらっそおに (偉そうに)、おや (俺は) なんでもよおする (何でもよくする事が出来る) かんもよおする 言うて 偉っそ振るの や (のとか)。そいなのおを (そんなのを) フケラカス 言うんなあ (言います)。あや (彼は) フケラカシテ まあ 言うて。2) たてもん (選別、殻類を身と殻とに風力で分ける) する時に フケラカス 言うの (ののです)。たてもんすんのを (するのを) 風でフケラカシタレ (吹き飛ばしてやれ) 言うて。たてる 言うて 豆 たてん (に) 行こやんかい (行きましょう) あらしなあんのん (適当な風が有るのに) 言うて、まあ、あらしな よけ (多く) 有るうちん (間に) フケラカシタレ (吹き飛ばしてやれ) 言うて。みい (実) と皮と しわける (分別する) 時ん (に)。

ふける【自ラ五】 一心に行う 一つの事を度を越して行う

ふける【自カ下一】 流れる 吹かされる 糸がフケル

ふける【自カ下一】 老を取る 実際よりは年を取って居る様に見える

ふける【自カ下一】 逃げる 姿を隠す (北)

ふける【他ラ五】 自慢する

ふける 早く走る (北、尾)

ふける 風で飛んで行く (吹) (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、飯、松、伊) [会話]

フケル言うのは 飛んでく (で行く) 言う事や (です)。風な (が) えろおて (強くて) なんもかも (何も彼も) 皆 フケル 言うて、風で 飛んでく (行く) (ののです)。

ふける【更】(深)【自カ下一】 驚がなく [会話] 驚な (が) 鳴いても 驚な (が) フケタ 言うやんかい (言います)。“家の庭で 驚フケタ 春でやら” 言うて、驚な (が) 庭で 鳴いとると (て居ると) まあ (もう) 春な (が) 来たかして (と思えて) 言うのな (言うのです)。鳴いた言わんと (言わずに) フケタ。噂ずんの (するのを) フケル 言うの (ののです)。

ふげんしゃ【分限者】【名詞】 分限者 金持 物持 富豪 ぶんげんしゃ (阿、三)

ふご【巻】【名詞】 物を運搬するのに藁で編んだ容器物 (志 (布施田、甲賀)、員、四、鈴市、鈴郡、安、津、一、飯、上、阿、張、賀、度、伊、南) [会話] フゴ は バタフゴ と サラフゴ と ニナイフゴ、芋 持ったりすんのを (するのを) ニナイフゴや (と) 言うし 土 持つのん (のに) あっさい (浅い) ばいすけ籠みたいなの お (のようなのを) サラフゴ、そすと 麦 入れたり 粟やなんや (とか) 踏み込む のは バタフゴ。

ふご【名詞】 技の下手な職人 ぶこう 不巧からか、不器用、下手 ふご だいく (志 (鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、鳥 (加茂)) [会話] 大工 も下手なな (のは) フゴ ダイク。下手な大工 あやまあ (彼は) フゴ やれ (だ)。フゴ も フゴ やれ バタフゴ やれ 言うて。

ふこお【ふこう、ふかう】(不幸)【名詞】 死人 葬式 災難 [会話] あんた とか (貴方の所は) フコ お な (が) 有って。災難事を フコ お な (が) 有ったなあ 言うて。死人な (が) 有ったりすると、あの家や (は) フコ オ ゴ ト な (が) 有ってなあ。此の時や (は)、全部 葬式 や 死人 だけ や なしん (だけでなく) 海 で遭難した時も そいなのお も (そんなのも) 皆なあ フコ オ ゴ ト あ の家や (は) フコ オ ゴ ト ん (に) お お て な あ (会って) 言うて わり (悪い) 事 な (が) 有るとなあ。

ふこおごと【ふこう、ふかうごと】(不幸事)【名詞】 ふこ お に 同じ 近身者 に死人が出ること [会話] フコ オ ゴ ト な (が) 有ると、味噌の味な (が) 変る言うて、人な (が) 死んだりすると なんやら (なにか) 変な味 ん (に) な つ て て、喰 われ ん よ お ん な つ て く (食べられないようになって行く) 時 な (が) あ ん ね て や (有るのです)。

ふこおもん (ふこう、ふかうもん) 【名詞】 1) 不孝者 不孝をする人 親を粗末にする者 2) 不幸者 不幸な人 ふしあわせな人 [会話] 1) 親を大切に しゃせんもん (しない者) を、親を粗末にする人をなあ フコオモンや (だ) 言うて。

ふごく 【名詞】 大食漢 おおぐらい。(志 (浜島、布施田、片田、甲賀、安乗)、鳥 (鳥羽)、度) [会話] よけ (沢山) 喰うのを よけ 飯、喰うたり (食べたり) なんやかや よお (よく) 喰うと フゴクやなあ (だ) 言うて。よお 喰うて なんもかも (すべて) ほぼりこむねえな (ロ一杯入れるのだ) フゴクやれ (だ) あや (彼は) 言うて。フゴクてやら、ぞぶくろたら (大食漢とか) よけ (沢山) 喰うと。ぞぶくろみたいななあ (のようだ) 言うて、ぞぶくろ言うこた (事は) 犬やわい (です)。

ふごだいく 【名詞】 下手な大工 たたき大工 ふご参照 (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、上、阿) [会話] フゴダイク。下手なのをなあ フゴダイク 言うてなあ。ふごならええけど (よいが) ばたふごやれ (だ) 言うてなあ。ばたふご言うのは どいらいのおやんかいなあ (大きいのです) あやなあ (彼は) フゴダイク で あれ 雇とたてて (雇っても) 言うてなあ、下手なおわなあ (のは)。

ふごだいくのどおぐしらべ 【俳諺】 下手な者程道具にこだわる事

ふこても 深くても (安)

ふごみ 【名詞】 ふんごみ 踏込 踏籠袴の略 歌舞伎で女形が脛をかくすためにつける紅絹の股引きのような衣装。踏籠袴 袴の一種 働きやすいように裾を細くしたもの。ももひき、股引、腰の所で、左右を重ねて紐で結びとめる細いズボン状の衣服。職人などが法被と組合わせて用いる。(志 (波切)、度) 今は保温のためズボンの下などにはく保温用の下着も言う。[会話] バッチの事 フゴミや (だ) 言うの (のです)。フゴミは 股引きと 又違うわい (違います)。股引き言うな (のは) はらも (三角の布) ひこな (が) 入って、足ん (に) きちと喰いついて しとんのおを (して居るのを) 股引き。フゴミ言うな (のは) 今しの ズボンみたよおん (のように) しとんのへ (して居るのに) 下へ ひぼな (紐が) 付いとりおったわい (付いて居ました) ゴムの代りやろなあ (でしょう)。ひぼな (が) 付いて結びおったなあ (居ました)。土方な (が) よお着よおった (よく着て居ました)。昔の人

な (が) 旅に行くのん (のに) きやあはん (脚絆) 股引き言うて あいなのおお (あんなのを) 穿いて それい (へ) きやはん はいて行きおったわい (行って居ました)。股引き言うて 外へ出るとわけやし (出て居るです) フゴミ言うて 内に入ると その上むいて (に) も一つ 履きおったなあ (はいて居ました)。

ふさ (房) 【名詞】 1) 果実等のへた 茄子、柿などに付いて居る 2) 腫瘍の痂皮 ふた 3) 巻貝の蓋 [会話] 1) なんやかやの (色々) はなつけんのおも (つけるのも) フサ言うし 2) 出来もん (物) の かさぶたん (痂皮に) なって来たのおも フサな (が) 付いて来た言うしなあ (言います)。かぼ (膿胞疹、化膿性腫瘍) な (が) かつと (堅く) なって来ると フサな (が) 出来て来た言うて。膿な (が) 固まると フサな (が) 出来た。1) なすび (茄子) のあれも フサ言うし なすびのフサ もじいとけ (もいでおけ) 言うて へたも言うけど (が) フサも言うなあ (言います)。柿でも 柿のフサや (だ) 言うて。3) 法螺や (とか) さざえ (栄螺) の蓋も フサ言うなあ (言います)。あのフサをなあ 黒焼きん (に) すると、かぼ (出来物) の葉や (だ) 言うて 法螺焼いて フサな (が) 落ちると それ火くべとくと (焼くと) ぷうと膨れて来て すいがす (中空) になって紙でびしゃいたると (押し潰すと) 立派なこお (粉) になんねてや (なるのです)。それ かぼの上え (へ) 振つとくと (ておくと) 葉で、かぼの葉や (だ) 言うて 法螺喰うと フサ焼きおった (ました)。そして 紙で包んで よお持つりおった (よく持って居ました)。栄螺のフサは まんぜんん言うて かべうち (壁打ち) してなあ まんぜんんで かべうち しよおや (しましょう) 言うて。

ふさい 【名詞】 1) 授かり、授かり物 (志 (甲賀)) 2) 相生、似合う (志 (甲賀))

ぶさいく (不細工) 【名詞】 【形容詞】 1) 見苦しいさま 醜悪 ぶかつこう 2) 職人などの腕の下手なこと 不器用 (志、阿) [会話] 1) ブサイク 言うて、かつこ (格好) の わりのおなあ (悪いのです)。おおたあの人のふう見よまあ (格好見なさい) ブサイクなふう (格好) してまあ言うてなあ、2) 仕事すん (する) のでも 器用や (で) 無い人、こどんな (少し下手な) 人を なんさしたてて (なにをさせても) ブサイクで言うて 細工な (が) わり (悪い) 言う事を ブサイクや (だ) 言うて。

ぶさいくもん (不細工者) 【名詞】 不器用者 (鳥 (答志))

ふさいもん 【名詞】 授かり物 ふさう参照 (志 (布施田)) [会話] 嫁と どお (櫓) は フサイモンや (だ) 言うて、わりおもて (悪い思つて) もおもて (貰つても) ふさうと (適すると) 家庭へ入つてええし (よいし)、あの子 ええ (よい) 子やなあ (だ) 言うて、えりすぎて (選び抜いて) もおもて 家ん (に) ふさわせんと (合わない)と はざんし (駄目です)。

ふさう (ふさふ) (相応) 【自ハ五】 1) 似合う 相応する (員) 2) よい運命に有る。運がよい。さずかる。めぐまれる。(三重県全域) [会話] 2) なんやかやな (が) フソテキタ言うやんかい (言います)。今日はフソテ 大漁やった (だった) 言うて。磯 (海女) 行ても 大漁すると 今日 は フソテ大漁やったよお (だった) 言うて。今日は よかつたよお (よかつたです)、フソトタンナア (ふさつて居たのだ) 言うて。今日は フサワんで (なくて) なんもはざんねよお (全く駄目だ) 言うて。めぐまれる言う事や (です)。フソテキテ言うて、今し (今) でも言うやんかい (言います)。嫁もろても (貰つても) ええ (よい) 嫁貰うと、ええなあ (好いですね) フソタナア言うて、ええ 嫁さんな (が) フソテ言うて。フサハセン言うのは そんな (それが) 反対やわい (です)。嫁もろても 若い時や (は) いかつかつても (健康であつても) その家行くと よおなつてく (弱くなつて行く) あの家、フサハセンねなあ (ないのだ) 言うて、家に 嫁さんな (が) フサハセンので 来たや (ら) よおおて (弱くて) 言うて、フサワンと さいご (その時)。嫁と どお (櫓) は フサイモンや (さずかり物だ) 言うて わりおもて (悪い思つて) もろても (貰つても) フサウと 家庭入つてええし (好いし) あの子 ええ子やなあ (よい子だ) 言うて えりすぎて (選び過ぎて) 貰るても、家ん (に) フサワんとは ざんし (ないといけません) 言うて。フサウとさいご (その時) 悪く思つて もろたのおな (貰つたのが) よお (よく) なつて来るやら (か) あゝええなあ (よいです) いかつい、ええ (健康なよい) 子やなあ (だ) 言うて もろても (貰つても) その家ん (に) フサワンと 弱かつたり 悪くかつたりすんのを (するのを) フサイモンや (物だ) 言うの (のです)。どお (櫓) も フサイモンで 加減 (調子) のええ のと わりのおと (のと) あんねてや (有るのです)。加減

のええ のも有るし わり (悪い) と 裾の方がいいが んでたり (歪んで行つたり) 木な (が) 若いのですと 曲がつてたりして (て行つたりして) 水乗りな (が) わりんやんかい (悪いのです)。そして (そうして) どおな (が) フソタなあ言うて 漕ぎよおておつて (漕ぎやすいのに) 船な (が) 早い そやもんで (それで) 嫁と どおはフサイモンや 言うて。かげんな (が) ええ言うのは 調子なええ (よい) ぐわいなええ (具合がよい)。漕ぐのん (に) どいらい (大変) 漕ぎよい (やすい) のおと (のと) こぎのくいのおな (漕ぎにくいのが) あんねてや (有るのです)。裾な (が) ちよといがんどたり (少し歪んでいた) かたぎな (傾斜が) 悪くかつたりすんねやろなあ (するのでしょうか) その加減で どおな (櫓が) おもとおておつて (重いのに) 舟も先い (へ) 行かせんのな (行かないのが) あんねやんかい (有るのです)。そやもんで (それで) フサイモンや 言うて。

ふさがらん 1) 器に一杯にならない 2) 戸、障子などが閉じられない

ふさがる (塞) 【自ラ五】 1) 一杯になる 空間一杯に広がる。満ちる。ある場所が人や物に占められて入れなくなる。詰まる。2) 閉ざされて、先に進めなくなる。行く手を遮えざられる。3) 陰気な状態 [会話] 1) まあ一杯で フサガツテ (ていて) 入られやせんよお (入れません) 言うてなあ。一杯おる (居る) 時んなあ。2) まあ めえ (目) も フサガツタレ (て行つた) ねぶとおて (寝むくて) 言うたりなあ、ねぶとおて めえな (目が) フサガツクンよお (て行く) 言う時な (が) 有るやんかい (有ります)。3) にげ (人間) でも フサガツトラレ (ている) 言うてなあ 陰気臭いとなあ、あやまあ (彼は) フサガツテ (ていて) うっとしなあ (うっとおしい) 言うて なんも (少しの) ものも言わんと (言わずに) 何時でも しおしおしとる (している) にげな有るやんない (人間が有るでしょう)。あやまあ (彼は) フサガツテ いやらし (嫌な) 人やなあ (だ) 言うてなあ、うっとしくてまあ (うっとおしくて) あんなおると (彼が居ると) 言うて。

ふさがり 【名詞】 いつも晴々とした気持でない人。いつも気分がすぐれない人。憂鬱な人。[会話] フサギ言うてだ、しおしおと なんも言わんと (なにも言わずに) しとる (している) 人なあ (です) 何時でも心配事な (が) 有る様な顔してなあ、暗がりよん (ように) しとるとなあ (していると) ああ あのひた (人

は) ふさがって (ていて) うっとし (うっとおしい) 様な人やなあ (だ) フサギやなあ (だ) 言うて。朗な事な (が) 一つものおて (少しも無くて) 嫌がられん^のや (るのです) 人んなあ (に)。

ふさく (不作) 【名詞】 【形容詞】 凶作 自然災害などで作物の収穫が極めて悪い事 転じて収入の少ない事 出来の悪い事にも使用する。(鳥 (答志)、桑郡、阿、張) [会話] 今年や (は) 時化でフサクやったなあ (だった)、六月ひでり (日照・晴天続き) で フサクやなあ (だ) 言うて。六月の みいり (実が入る) する時ん (に) 雨な (が) 降らんと (降らずに) てりばっか (照、晴天ばかり) 続いて 日に焼けて ぐたんとしとる (している) 時な (が) 有るわい (有ります)。 そすと (すると) 丁度 実の入り時ん (に) 日 でって (照って) フサクやったなあ (だった) 言うて。八月の時化ん (に) おおて (逢って) なんもはざん (全く駄目) で、まあ フサクやなあ (だ) 言うて 獲れんことなあ (獲れない事) フサクや (だ)。

ふさぐ (塞) 【他ガ五】 1) 閉じる とざす 防ぐ 2) 道や川などをさえぎってとざす 3) 穴などに物を一杯に詰める 4) 気分が減入る 意気消沈する [会話] ① めえ (目) フサグ言うやんかい (言います) ロフサグ、その口も フサドケまあ (ふさいでおけ) 言うて なんやかや (いろいろ) 物入れてもなあ 口も フサドカナ (ふさいでおかなければ) まけてくやんかあ (こぼれて行くでないか) 言うてなあ。袋い (へ) でも いれもん (入れ物) えでもなあ はよ (早く) ロフサドカナ はざんわれ (いけない) 言うし。 わがとらな (自分達の) 口でも なんやかや よけ (沢山) 喋るとなあ、まあ ロフサドケ よけ 喋ると いなん (要らぬ) 事言うたんど (言ってしまうぞ) 言うてなあ、口をとじとけ (ておけ) 言うのをなあ フサドケ 言うの (のです)。まあ めえ (目) フサダンテワイ (そうだ) 言うて、死んだのおを (のを) 言うたりなあ そして わり (悪い) 事して 見付けられて する時でもなあ まあ めえ (目) フサドイテくれえ (でおいて下さい) 言うて、誰ん (に) も 言わんと (ずに) おいてくれえ 言うて 見ても 見やざった (見なかった) ふりしといてくれえ 言うのを めえ (目) フサドイテくれえ 言うてなあ。

ぶさく (無作) 【名詞】 技術がないこと。 [会話] ぶさいくも 一緒やわいなあ (です)。どんくさい (鈍い) よおな人をなあ フサクな人やなあ (だ) 言うて。

格好でも なんやら (なにか) ごっつい (垢抜けない) 格好しとると (していると) おおた フサクな (が) ふうして (格好して) 言うやんかいなあ (言います)。

ふざけまあす (ふざけまわす、ふざけまはず) 【自サ五】。

ふざけまある (ふざけまわる、ふざけまはる) 【自ラ五】 あれこれと、ふざける。ふざけて、あちこち歩き回る。 [会話] あやまあ (彼は) ちょおけとんね (ふざけているのだ) 言うて、人の気に入らん事して ふざける事なあ (です) フザケマアル。

ふざける 【自カ下一】 戯れる (志 (鶴方、神明))

ふさば 【名詞】 細い突起物 [会話] ほおずな (ほず・突起物) もじけた (もげた) 言うて、フサボを ほおずや (だ) 言うて。

ぶざま (不様) (無様) 【名詞】 無作法 様子の見苦しい様

ふさわし (ふさはし) (相応) 【形容詞】 似合って居る。釣合って居る。 [会話] お前に フサワシ人やわい (だ) あや (彼女は) 言うてなあ。嫁さんにでも よお によとる (似合っている) 人や (だ) 言うてなあ。ええ (よい) 嫁さんな (が) 来ると あや (彼女は) あんたん (貴方に) フサワシおなごやわい (女です)、あんたん (貴方に) ふそたんなあ (備なわったのだ) 言うて。あんたん によた (似あった) ええ 人やなあ (だ) 言うの (のを)。

ふさわせん 1) 似合わない。不相当である。相応しない。ふさう参照 2) 手に入れる事が出来ない。恵まれない。ふさう参照 [会話] ① フサワセン 言うのは 恵まれん (ない) 言う事やわい (です)。嫁もろて (貰って) その家い行くと よおなつてく (弱くなつて行く) あの家 フサワセンねなあ (のだ) 言うて。

ふさわつとる 1) 付いて居る (志) 2) 似合って居る **ふさわる (ふさはる) 【自ラ五】** 付く ふさわつとる ふさう と同じ (志 (和具))

ふさわん 1) 似合わない 2) 手に入らない

ふさん (不参) 【名詞】 不参は参加しない事、行かない事、転じて病気などになる事、それに依って休むこと 1) 病気 病気で寝て居る事。(志 (志島、浜島、布施田、甲賀) 2) 欠勤 休むこと [会話] ② やすむ事 フサンや (です)。今日は体の 加減なわり いて (様子が悪くて)、フサンや (だ) 言うて、休む事を フサン する言うの (のです)。フサン (が) おいい いて (多くて) 言うて よけ (多く) 休むと あや (彼は) フサンばっか して (ばかりして居て) はざんわ

れ(駄目だ)言うて。¹⁾ 体の加減な(が)わりいて今日は休むわい(休みます)言うの(のを)、フサンするわい(します)。病気だけやなしん(でなくて)調子な(が)わり(悪い)時 体の調子な(が)わりて(悪くて)仕事よお行かんわい(行けません)言うて フサンせえまあ(しなさい)言うて 休め言う事。**ふさんする** 病気で寝る 病気で仕事が出来ない [会話] いったんばたらき(一度働き)言うて、その時 いきってしたると(張り切ってしてやると)後 フサンスルにげな(人間が)有って、その時 いっしょけんめ(一生懸命)でして しこって(熱心に)すると、あしためん(翌日)になると どこな(が)わり(悪い) ここな(が)わり 言うて 寝る人な(が) あって。

ふさんだ 閉じた

ふさんどれ 閉じておれ(志) [会話] めえ(目)フサンドレ、口もフサンドレ言うてなあ、だまつとれ(黙っておれ)言うたりなあ。

ふさんのちややま【名詞】 骨折り損。[会話] 行き来の旅費にしたた(してしまった)言う事を 道の垢やつた(だった)。フサンノチャヤマで 行きと 帰りの使い銭やれ(旅賃だ)言うて。

ふし(節)【名詞】 1) 鯉節(志(鶴方、神明、志島、国府)松、上、阿、南) 2) 関節 3) 時期 節目 代り目(志(布施田)) 4) 魚の身の從四分の一 5) 木の瘤 植物の幹や茎に合って盛り上ったり膨れ上ったりしている部分。[会話] ¹⁾ カツオブシや(と)言うし、³⁾ にげ(人間)の家も あの家や(は) フシやなあ(だ)言うて、ちよいと(少し)下り目ん(に)になると あの家や 今し(今) フシな(が) 来たなあ(来ました)言うて。絶頂へ登とる(て居る)時や(は)、あの家や えらい(大変)調子よお(よく)いとるけど(行って居るが)怪我人な(が)出たり 病人が絶えらったり(なかつたり)すると、あの家や(は) フシやなあ(だ)言うて。その時は その時期や(だ)言う意味 一つの代り目、運命の代り目の事を フシやわな(です)。²⁾ 関節もフシ、疝な(が)おこって フシフシな(が) やめて(痛んで)言うて おおぎよおし(大層に)言うて。⁵⁾ 竹のフシが有って。

ふしがね(付子鉄鑿)【名詞】 おはぐろ 五倍子(フシ)の粉を鉄汁に溶かして作った黒色染料

ふじくら(藤倉)【名詞】 藤倉草履の略 草履の一種 表を藪で編み、白、茶などの木綿の鼻緒をつけたもの

麻裏草履(桑郡、三、四、上、阿、尾、熊) [会話] フジクラ言うな(のは) あさぶらやたら(とか)、フジクラやたら せったやら(雪駄とか) そげなよおなのおを(そんなようなのを)フジクラ。フジクラ言うの(のは) みご(藁の芯)で編んで かあ(皮)のはなわ(鼻緒)付けてすんの(するのを)フジクラ履いて言いおった(言いました)。今し(今)で言うてあさぶら言うのなあ(言うのです)。皮の鼻緒つけんの(つけるのです)。おおかた(大体) かあ(皮)言うて 人造やけど(だが) そいなのおな(そんなのが)フジクラや(です)。雪駄い(へ) 付いとりおったわい(て居ました)。今しは ピロド(ピロード布の一種)や なんや言うて するけど(けれど)そいらは かあみたよな(皮のような) まがいみたよおな(のような)ので して有りおったわい(ました)。まがい言うのは、今の人造品 模造品やなあ(です)。そいなよおな(そんなような)言いかたやわい(です)。かあ(皮)では無いけど(が)、かあみたいん(皮のように)見せてあんのなあ(有るのです)。

ふじくらじょおり【名詞】 ふじくらに同じ [会話] あさぶらの事を フジクラジョオリ履いて言よおったなあ(言って居たのです)。みご(藁の芯)で編んだのなあ(です)。せきだ(雪駄)は 金な(が) ついとんねけどなあ(付いているのだが)あさぶらは金な(が) ついとらせん(ついていないのです)。

ふしけずり(ふしけづり)(節削)【名詞】 1) 鯉節にするため削って形を整える事、又その人。2) 鯉節を削る道具(南)

ふしこ【名詞】 鯉節を作る時形を整えるのに削ったもの けずりこ けずり屑(志、南) [会話] 削り粉の事なあ(です)。フシコを入れて 味噌も食うと、美味いけど(が)、なんも入れんと(なにも入れないと)美味ねえわれ(くないです)言うて。フシコもなあ 本削りした 中の方ん(の)はなあ 美味しいけど、荒削りなあ(ののは) 上のあかや(垢とか) こねんがまじえりで(雑物混ぜり)で だしに出すんなら ええんけどなあ(よいが)、なんやかや、まめで(いろいろ混ぜて)食うのは 口突いて はしこおて(はしかくて) 味もわり(悪い)。かつ節 形整えるのおん(のに)削る 節削り言うてなあ よお(よく) 買いん(に) 行きおったわい(行って居ました)。荒削りと ええ(よい)のと しわけて(区別して)有って 荒削りは 安いん(が) けど そんだい(その代り)美味ない。

ふしだらけ【名詞】【形容詞】節が沢山ある事

ふじどおし【名詞】藤の蔓を綱目にした篩 大きな物を
選り分けるのに使用する。あらどおし参照(一、松)
[会話] 藤で編んであんの(有るのを)フジドオシや
(だ)言うて。稲こくとなあ 必ず フジドオシで
とおさな(なければ)はざんかったね(いけなかった
のです)。フジドオシで あらくたいの(粗いのを)
先い(へ)取っというて(ておいて)後は とおみでも
風でも たてというて(吹かして)。

ふしなる 次々と続く 節に生る意か [会話] 胡瓜な
(が) 此処にもありや(有れば)あしこ(あすこ)も、
フシナンデして来ると ずんずくずんになってたれ
(なっていた)。

ふしぶし(節々)【名詞】体の各関節

ふしぶしなたい あちらこちらの関節が痛む

ふしやわせ(ふしあわせ、ふしあはせ)(不仕合)【名
詞】不運 不幸 ふしあわせの訛 [会話] 結婚して
も だくんとるか(楽にしているか)、びんぼしと
るか(貧乏しているか)言うて、楽ん(に)しとると
(していると)しやわせやなあ(幸だ)言うし、びん
ぼしとると フシヤワセやなあ(だ)言うてな。

ふしめ(節目)【名詞】物事の一区切り 一段落

ふしゅうぎ(ぶしゅうぎ)(不祝儀)【名詞】不幸 不吉
葬式(志、鳥(鳥羽))

ふしよお(ふしょう)(不請)(不承)【名詞】辛抱 忍
耐 不満足ながら我慢すること 不承知の略(大言
海)(志(布施田)、鈴市、上、阿、伊、北、尾) [会
話] フシヨオしとけまあ(しておきなさい)言うや
んかい(言います)。こいなもんで(こんな物で)フ
シヨオしてくれるかい(くれますか)、こいなのおで
(こんなので)我慢してくれえ(下さい)言う事やろ
なあ(でしょう)。こんで(此で)フシヨオしてもら
おか(貰いましょう)こんだけで(此れだけで)言う
て。我慢してくれ(下さい)言う事やろなあ(でしょ
う)。ぜんぶ(すべて)よお拂わんけど(拂えない
が)こんだけ 拂うよって(から)こんだけで フシ
ヨオしといってくれるかい(しておいてくれますか)言
うたり する時ん(に)使う言葉やもんなあ(です)。
しんぼ(辛抱)してくれ(下さい)、こらいてくれ
(こらへて、勘弁して下さい)言う事や(です)。こ
んで(此れで)フシヨオしてもらわな(なければ)し
やあねえわい(仕方ありません)言うんよって(言う
のだから)。

ふじよお(ふじょう、ふじやう)(不浄)【名詞】心身が

汚れて居る事。穢れて居る事。又そのさま。月経 大
小便 下肥 便所 [会話] 今日は フジヨウやなあ
(だ)言うのは、つきやく(月役 月経)に なった
時でも、フジヨウニチで言うしなあ(言います)。フ
ジヨウニチ(不浄日)言うて、わり(悪い)日を フ
ジヨウニチ言うて。じよおにち(上日)言うな(の
は)ええ(よい)日を言うて 昔や(は)、月経ん
(に)なると、火な(が)わり なって言うて、火な
おりて言うて、月経ん(に)なると。今日は火なおり
て言よおったもん(言いました)。体が汚れる言うの
(のです)穢れる事なあ(です)。餅 搗いても お
供 搗いたる迄(てやる迄)喰うやない(食べるでな
い)言うて、わしら(私)子供の時分(頃)お供を
ふたくぼ(二臼)でも、みいくぼ(三臼)でも、供へ
のぶんや(分だ)言うて 供へとつたと(取ってしま
うと)火を消せ言うて 消し炭を ジュッと水の中
へ。火消したると(てやると)そんで(それで)まあ
きり火になるわけや(のです)。ええのと(よいのと)、
わり のと くいき(区切り)つけたるわけや(てや
るのです)。それから喰うてもええんよって(食べて
もよいから)その火 消す迄、喰わせんね(食べさ
せないのです)。神さんへ供えるだけ 搗いたるうち
や(てやる間は)。火 消せよ(消しなさい)言うて、
一つ、水で ジュー言わたると(てやると)ええん
けど(よいのです)。きり火言うのは そこで区切り
切ったんなあ(切つてやるので)穢れとても(て居
ても)餅 食べてもええ(よい)言う事ん(に)なん
の(なるのです)。

ふしよおおらん(ふしょうおらん)歌を唱う時 一本調
子で折り目切り目 高低がなく調子外れである ねぶ
かぶし参照 [会話] フシヨオ オラン言うのは 節
をよおつけんと(つけられなくて)棒読みみたよん
(のように)小節な(が)きかせんね(効かないので
す)。小節な(が)きかんで(効かなくて)一本槍ん
(に)うとんとんのおを(うたっているのを)。

ふしよおする(ふしょうする)我慢する こらえる 辛
抱する(志(浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、
国府、安乗)、上、阿) [会話] フシヨオスル言うて、
こらえる。ふしよおしてくれえ(下さい)こんで(こ
れで)許してくれ(下さい)言うのをなあ。そして
礼すんのもなあ(するのでも)もっと きばやええ
けど(多くするとよいが)まあ よおせんよって(出
来ないから)こんで ふしよおしてくれえ ちよいと
まづいけど(少し立派でないが)言うてな。ことわり

言うの (のです) 我慢してくれえ 言うてなあ。
ぶしょおたれ (ぶしょうたれ) 【名詞】 不潔な人 怠け者 ぶしょたれに同じ (志 (布施田)、一)
ふじょおにち。ふじょおび 【名詞】 月経の日 ふじょお参照 [会話] ふじょおやなあ (だ) 言うのは、つきやく (月経) になった時でも、今日は フジョオビで言うて フジョオニチ言うて わり (悪い) 日を。じよおにち (上日) 言うな (のは) ええひい (よい日) を。
ふしよおぶしよお (ふしやうぶしやう) (不承不承) 【形容詞】 嫌々 しかたなく (阿)
ぶしよおもん (ぶしょうもん) 【名詞】 怠け者 不精者 (志 (御座)、鳥 (加茂、菅島))
ふじょおび 【名詞】 ふじょおにち参照、月経の日
ぶしよたれ (不精垂) 【名詞】 不潔な人 だらしない人 怠け者 (南) [会話] ブショタレ言うのは 身 (身なり) も なんもかまわんと (全く気にかけず) 汚いふり (格好) して 仕事もせんと (せずに) ぶらぶらとよごれぶたくなになってしとんのおを (して居るのを) ブショタレ言うね (のです)。よごれぶたく言うて何処も彼も汚れて やらし (嫌らしい) よおにしとんのおを (して居るのを) 言うんや (言うのです)。とんじゃくな (頓着、気を配る事が) のおて (無くて) 何処が汚れとると (て居ようと) なっと (どのように) 髪が乱れとると なっと しょおと 頓着しやせん (しないのです)。普通の不精もん (者) は みなり (服装) は あれしても (普通にしても) 仕事をしやへん (しない) とか、なんとか言うねけど (言うのですが) よごれぶたくは 仕事もせんと (せずに) ぶらぶらしとるくせん (のに) なりふり構わんと (身なり構わずに)。
ふしん (普請) 【名詞】 道、橋などの土木工事。家の建築 シンは請の字の宋音 禪家の語 大衆を集めて作務する事から転じた (大言海) (南) [会話] 家建てんのおでも (るのでも) フシンしとる (している) 言うしなあ、屋敷 (土地) こしらえんのもなあ (るのでも) フシンしとてなあ (していて) 言うてなあ。フシンでも フシン、家建てる 屋敷 (土地) をえごとすん (完全に作る) のでも フシンにかかるとて (かかっている) 言うてなあ。
ふしんあたり (普請当) 【名詞】 家を新築した時 その家の当主又は家族が体の調子を潰したり又不幸な出来事が起こったりすること。ふしんまけ [会話] フシンアタリ言うて、家 建てるとなあ、病気したりする

やろ (でしょう)、死んでく (死んで行く) 家も 有るしなあ、災難事に逢うねてや (のです)。そいな (そんな) のを フシンアタリや (だ) 言うてなあ。家 建ててなあ 一年の内ん (に) 死人な (が) 無いと その家は栄える言うてなあ。家 建てて フシンアタリする言うのは 仕事もしたり、気兼 (気苦労) もしたりするもんで (ので) 疲れて来るやんない (でしょう)。そやよって (だから) 病気なんねやんかいなあ (になるのです)。骨折ん (る) のと てとて (手伝って) 貰らうらん (に) きい (気) 使うのと そして 金の工面や (とか) なんやら (なにかと) いろいろとなあ 苦勞な (が) 有るやんない (でしょう)。そやよって 心の痛みと、体の痛みと ひとくらん (一度に) 来るとなあ 病気して フシンアタリやなあ (だ) 言うてなあ。
ふしんいわい (普請祝) 【名詞】 棟上祝 家の新築を祝う事 (熊) [会話] フシンイワイ言うて、今しや (今は) 新築祝い言うやんない (でしょう)。
ふしんまけ (普請負け) 【名詞】 家を新築した後、その疲れなどで、家族の年寄りや弱い者が病気したり死んだりする事。[会話] フシンマケな (が) 言うて 言うやがな (言うでしょう)、フシンマケ言うのは 病気したり 皆 いっしょけんめ (一生懸命) 働くもんで (ので) 疲れんねやろなあ (疲れるのででしょう)。そんで (それで) 病気になったりすると フシンマケやなあ (だ) 言うて。疲れて 病気になるわけや (です)。そすと フシンマケな (が) した言うて、病気したり 普請中に 怪我もしたり。いろんな (種々の) 負担な (が) 掛って来て、金の負担も 肉体的な負担も。金もよけ (沢山) 要るもんで (ので) いろいろ苦勞するもんで (ので)、体も一生懸命使うわな (使います)。
ふしんみまい (普請見舞) 【名詞】 落成式や棟上げに祝を持って行く事。[会話] フシンミマイ言うのは 今し (今) 新築祝い言うて してくやんかい (して行きます)。それフシンミマイや (と) 言うて。御神酒積んでく (で行く) とか、てったいど (手伝い人) に出すのに 茶菓子こおて (買って) やるとか、お金でやる人も 有ったけど (けれど)、昔は 品もん (物) の方が多かつたなあ。お酒とか 砂糖とか お菓子とか 皆 てったいど (手伝い人) に振まわんならんで (振るまわなければいけないので) 砂糖も要るし 酒も要るし言うよおな事で あんに (あのように) してくれおったんやろなあ (してくれて居たのでしょ)

今は 皆 お金やけど (だが)。

ぶす【名詞】 みにくい顔 又その人 ブスズラ (附子面) の略 ブスはブシ (附子) に同じ (大言海) ブシは毒薬転じて忌み嫌う物の意あり (熊) [会話] ブス言うのは よお (よく) 肥えて ぶたぶたしとんのお (して居るのです)。あや (彼女は) ブスやなあ (だ) 言うやんかい (言います)。器量 (顔) も わりし (悪くて) 体の格好も 肥えて ぶたぶたしとんのおを ブス。痩せてみつともない (みにくい) 顔しとんのおは やせぎす。痩せ乾いた ひぼしみたいやなあ (のようだ) 言うて。昔の人は ブスは、よお肥えて 器量もわり。みにくい言うのを みのくい (見苦しい) 言うて あの人は みのくいなあ言うて。

ぶすつとしとる 不機嫌で黙って居る

ぶすぶす【副詞】 1) 火がよく燃えずにくすぶるさま 2) 激しく刺したり、切ったりする様 [会話] 2) ブスブスと さいておこしてたら (刺してよこしてとか)、ブスブスと切つてまあ、ひいな (火が) 燃えやせんのも (ないので) ブスブス くすぼつてまあ (煙つて) 言うたりなあ。

ふぜえ【風情】 名詞について、のようなもの 特に人名や代名名詞について それをいやしめるのに用いる。ふぜい [会話] あいら (彼等) フゼエに まきよかれ (負けない) 言うて。お前らみたよなもんに (のような者に) 言う事を。あいら フゼエにな そいな (そんな) 事さしたら (させたら) なつと (何と) する事やら (か) 判るかれ (判らない) 言うな。おなご フゼエな (が) そいな (そんな) 事 言う事か言うて、おなごな (女が) 言うて。男の人らな (が) おなごの くせに (女だのに) 言うのを、おなご フゼエに言うて、おなご のくせん (に) よけ出しやばんなよお (あまり出しや張るな) 言うよおなもんや (ものです)、おなご フゼエな (が) 男 指図しやあるいて (して) とか言うて。

ふせぐ【防】【他ガ五】 ふさぐ 場を占める [会話] ひそめときゃ (片付けておけば) ばあ (場) も、フセ ガセン けど (ないが) 広げさがしとると (ていると) ばあ (場) フセ ぐよつて (から) ひそめとけ (片付けておけ)。

ふせこと【名詞】 内緒の事 他人に知られたい事 伏せておく事柄 [会話] どおやら (なにか) あの家 や (は) なん やら (なにか) フセ コト な (が) 有りそ おな なあ (だ) 言うて。

ふせんだ 防いだ (志) [会話] フセン ダ 言うのは 何

処も彼も わがと (自分) のもん みたよおん (物のように) して 此 処 ん (に) 私 な (が) おつても せぎ ある いて (押して来て) フセン デ キ テ 言う やん かい (言います)。わがと 人のばあ (場所) も 取る 言うてすんの (するのを) 土地でも 自分 な (が) 座る ところ (所) でも、あいら な (彼達が) フセン デ 来 て お ら れ や せん な (居られないのだ) 言う やん か (言います)。押し 出 して くん ね (来るのです) せん で (押し) 来 る の を フセン デ 来 て お る と こ (居る所) も無い 言う わ な (言います)。畑や何 処 や か や の 境 で も あ の 家 な (が) フセン デ 来 て 言う て、せ ぐ 言う の は 押し つ ける の や けど (のだが) こ げ ん し て (こんなに) し て、体をにじ ら し て 寄 つ て 来 る や ん な (でしよう) それをせ ぐ 言う の (のです)。

ふそく【不足】【名詞】 不平 不満 [会話] なん や か や (何、彼) 仕事 せ え (しなさい) 言うて した ない の ん たら (のにと) か お や (俺わ) 此 れ せ ん なら ん の (しなければいけないのに) あ い な 事 (あんな事) 言うて来て なん も (何も) 出来 や せん たら (ないと) か 言うて、フ ソ ク 言うのを。不 平 や 不 満 の 事 や (です)。わ い た (君は) フ ソ ク な (が) あ ん の か い (有るのですか) 言うて、友 達 な (が) お つ て 今 迄 仲 好 か つ た の ん (に) も の も 言 わ ん よ お ん (に) な る と、わ し に (私に) フ ソ ク な (が) あ ん ね か い (あるのですか) 言うて。

ふそくたらたら 不平不満で一杯で有る 不平を述べ続ける (志 (布施田))

ふた【二】【名詞】 ふた つ [会話] ひと (一)、フ タ、み い (三)、一 つ、二 つ、三 つ 言うの、フ タ 言うて。ふ た あ つ (二つ) 言うのを 一 つ ふ た あ つ (二つ) 言うのを と つ (一つ)、た つ (二つ)、言う 人 な (が) 有るなあ。

ふだ【札】【名詞】 1) 入札 また入札する時の木の小片 2) 神社のお守り札 [会話] 1) 市 (市場) 行 く と あ き ゅう ど な (仲介人が) フ ダ 入 れ ん の な あ (るのです)。そ して マ モ リ フ ダ や たら (とか) 言うて。成 田 さん の オ フ ダ や (とか) 不 動 さん の オ フ ダ や (だ) 言うてなあ。き い (木) で して あ ん の (あをのを)、首 い (へ) さ ん が ら か し て な あ (吊がらして) 風 呂 入 つ て も さ ん が ら か し と り お つ た や ん か い (吊るして居たで有りませんか) 桶 の 宮 さん や たら な あ (だとか)。

ふた【豚】【名詞】 肥満した人 [会話] よ お (よく) 肥 え と ん の お を (ているのを) ブ タ み た い な なあ (の

ようだ) 言うて。

ぶた【名詞】 海魚 めかじき めか参照

ふたあかいり【名詞】 二往復 [会話] ひとあかいり、フタアカイリ 言うて。一回 二回言うのをなあ、ひとくら (一度) 行て来ると ひとあかいり 行て来たよお言うてなあ、も、ひとあかいり 行て来い言うてなあ 二遍 往復する事を フタカイリ 言うてなあ。

ふたあきり【名詞】 家の間取り 二部屋 二つ [会話] 昔の家や (は) みきりに してあって、みきりやなしん (でなくて) フタアキリン (に) して有ると、飯 食うとる (ている) とこ (所) へ お客な (が) くんの で (来るので) どいらいわりかりおった (大変悪かった)。

ふたあくら 二度

ふたあくらめ【名詞】 二度目 [会話] たあ (田) 打つ言うな (のは) 一番初め 打つといて (ておいて) 今度 こぎる (小さく切る) 言うて フタアクラメ、株輪切りする (します)。

ふたあつ【名詞】 ニケ (志、三、鈴市、安、松、度、伊) [会話] ひとおつ フタアツ みい 言うてなあ。さいら (秋刀魚) 舟な さいら かんじよすんの (勘定するのを) とおおよ (十) 言うて 引ん張って しいおった (していました)。

ぶたい (舞台)【名詞】 劇場 (志 (布施田)) [会話] 芝居するとこ (所)、素人でも なんやかやしとると (いろいろしていると) あいら (彼等) ブタイでやつとられ (している) 言うてなあ。話したり なんやかやしととも (いろいろしていても)、あいら (彼等) ひとブタイよつとられ (集まっている) 言うやんかい (言います)。集まつとると (していると) みんなななあ (皆が)。

ぶたいごや【名詞】 芝居小屋 劇場 [会話] 昔や (は) ブタイゴヤ 言うて、しゃじき (棧敷) 組んで しゃじき 見とた。

ふたいとこ (二従兄弟) (姉妹)【名詞】 又従兄 従兄弟の子供同志 (志 (浜島)、度、南、熊) [会話] 兄弟 (姉妹) の人のおは (のは) 従兄弟やんない (でしよう)。従兄弟のこお (子供) を フタイトコ 言うの (のです)。

ふだいれ (札入れ)【名詞】 入札 (志) [会話] 市 (市場) でフダイレする言うて、あきんどな (仲買人、商人が) フダイレン (に) 行く言うて。魚や貝のねえ (価) 決めて、一人な (が) 千円つけるやんない 他の人な (が) 二千円言うて つけるやんない (でしよ

う)、そすと二人目の人な (が) 札 落す言うんやんかい (のです)。その人な (が) 当んねやんかい (当るのです)。一番たつかい (高い価) 人な (が) それを 札 落として言うのなあ (のです)。札な (が) 落ちた言うて。

ふだいれる 入札する [会話] あきんどな (仲買人が) 皆 フダイレン (に) 行く。

ぶたえ【名詞】 舞台 劇場 ぶたいの訛 (鳥 (浦村)) [会話] ブタエ 言いおったなあ (言っていました)。ブタエえ 行て見てこおや (来ましょう) 言うて。せえべブタエえ 行こや (行こう) 言うて、せえべ屋な (が) ブタエしとて (していて)、劇場を 芝居小屋 とか言うのをなあ。

ふだおとす 落札する ぶだいれ参照 [会話] フダオトス 言うな (のは)、まあ 入札して おれげな (俺家が) おとしたんよお (落したのだ) 言うて、一番 ねえ (値) のええの (よいのに) 落ちるやんない (でしよう)、ふだ入れたら、おれげい (俺家に) 落ちたんよお 言うて。そすとまあ 札 入れても 要らんで しょんべ (違約) するやんない。そすと 落札保証金言うのな (が) 有てなあ、その保証金を出すと、しょんべ してもええんやんかい (よいのです) くらえて貰らうるしに。

ふたおや (二親)【名詞】 父と母と 両親

ふたかいり【名詞】 二往復 [会話] フタカイリ、ミイカイリ した言うてなあ。回数よけ (沢山) するとなあ。おら 五荷持った 六荷持った言うて、担いもん (物) すると 一荷、二荷言うんなし (言うのです) ただ 行たり来たりすんな (するのは) ひとあかいり フタカイリ 言うてなあ。

ふたかまど【名詞】 一軒に二世帯有る事、又、家族が二ヶ所に別れて暮らす事 [会話] フタカマド 言うのは 一軒の家ん (に) おりさいしゃ (居りさえすれば) かまども ひととこでええのに (一ヶ所でよいのに)、姑婆さん と おりたねえ (無い) たら、なんたら言うて 隠居してくやんない (分家して行くでしよう)、若いもんな (者が) 出てたり (出て行ったり) 年寄りな (が) ふそく (不満) して まあ あいな (あんな) 嫁と、よおおらんわれ (居られない) 言うて 出てくやんない (出て行くでしよう)。ひとかまどに おりさいしゃ ものいれもせんでもええのん (しなくてもよいのに) フタカマド になったら なんもかも物な (が) 二重ん (に) 要んのん (要るのに) 言うて、昔の人は言いおった (言っていました)。フタカマド

もりする人(守る、支える人)は一人で支える。別れてきや(て行けば)別れた人な(が)負担すんねやろけど(するのでしょうか)、言うたら(言へば)喧嘩して別れんねやろ(別れるのでしょうか)。昔の人は仲よかったら 幾しよたい(所帯、世帯)も 入っとんねけど(入って居るのだが)意見があわんと(合わない)かまどわけて 行く訳やよって(だから)、そすと 本家は本家で、隠居(分家)は隠居で せな(しなければ)しよないやんな(仕方無いでしょう)、そやで(それで)物な(が)よけ(沢山)要る言うんやけどなあ(言うのです)。ものいれ言うのは 金がよけ 要る言う事。こっちもせなはざんし(しなければいけない)あっちゃ(彼方)も せなはざんし、ひととこ(一ヶ所)で すや(すれば)鍋一つで ええもんを(よいのに)ふたつせなはざんし なんもかも(すべて)その如く 金な(が)要る事をな(です)。経費がよけ(多く)かかる。

ふたかめ。ふたかわけ(ふたかはめ)(二皮目)【名詞】

臉の皮にひだがあって二重になっているもの(志(鶴方)、鳥、松、阿、張、賀、伊) [会話] めえな(目が)フタカワメ言うやんかい(言います)。

ふたくら【名詞】二度(志) [会話] 疝な(が)出て、ばあやんな(が)フタクラ位 おさへてくれると らくん寝よおった(楽に寝て居ました)。

ふたくらめ【名詞】二度目 次の回(志) [会話] フタクラメ 二回目の事。三回めん(に)になると みくらめ みくらめな(が)無けな(無ければ)言うやんかい。

ふたこ【名詞】1)ニケ 2)二本の糸 二本の糸を縫り合せたもの [会話] ①ひとこ フタコ、糸でもなあ ひとこん(に)すると弱いし、フタコン(に)して のおとけ(縫っておけ)言う時もあるし。にほ(二本)一つんすんの(にするのを)フタコンせえ(にしなさい)言うて、さんぼ(三本)にしよ言うて みてこん(に)すんのかい(するのです)言うて。①蜜柑の袋も ひとこ、フタコ言うて。

ふたごのかたわれ【名詞】双生児の一方 [会話] フタゴノカタワレ 一人、かたわれ一人死んでくと(で行くと)、かたわれもよお(よく)死んでく(で行く)言うて 言うやんかいなあ。一人死んでくと たいがい(大体)死んでくなあ(で行きます)。

ふたことめ(二言目)【名詞】次に言う言葉 いつも言っている言葉

ふたこめ【名詞】二皮目 二重験(北) [会話] めえな

(目が)ふたかわけ言うやんか(言います)。ひとかわ目言うのを ひとかめ。フタコメ言うて かと こと 一緒みたよん(のように)ふたかめやとか(とか)フタコメやたら(だとか)言うて。

ふたごや(豚小屋)【名詞】小さくて汚い家、また部屋

ふたしたたよおな はっきりしない 重苦しい

ふたする 伏せる 隠す

ふたたて【名詞】二つの方法 ふたとおり [会話] 縫うのも フタタテ有るやんない(有ります)。

ふたついち(二、一)【名詞】1)二つのものが非常によく似て居る事 2)芸者の一人前でない者 二人で一人前(津、伊) [会話] ①フタツイチ言うのは ふたんな(二人が)ものすごおやお(大変よく)似とて(て居て)、芸者な(が)フタツイチ言うて 二人で歩いとるやんな(て居るでしょう)若いのおな(のが)それ フタツイチや(だ)言うやんな(言うでしょう)その舞子を。よお(よく)似たのな(が)二人歩いとると(していると)フタツイチみたいなあ(のようだ)言うて、舞子さんに 例えてあんの(有るのです)。①なんでも言うんなあ(何にでも言います)よお似たのおな(のが)一緒みたいなおな(のようなのが)ふたあつ(二つ)有ると フタツイチや(だ)。二人で いつもおるもんで(居るので)フタツイチみたいなあ(のようだ)、二人で一人や(だ)言う事やろなあ(でしょう)。そんで(それで)おなし(同じ)よおなもん(物)が 二つ有ると フタツイチやなあ(だ)言うて。

ふたつおれ(ふたつをれ)【名詞】1)二つに折れ曲がること 2)腰の曲がる事(津、南) [会話] ②腰な曲つとる(ている)時は フタツオレやなあ(だ)言う。

ふたつだま【名詞】一ヶの鶏卵に卵黄が二ヶ入っているもの

ふたつへんじ(二つ返事)【名詞】はいはいと二つ重ねた返事、快よく引き受けた時、又、逆に嫌や嫌やの時にする。[会話] フタツヘンジ言うのは、なんかしてくれ(して下さい)言うて、はい言うて すぐんと(すぐに)受け取って 嫌や(だ)言うたらんと(言っている)はい言うのを フタツヘンジで してくれたい言うの。ふたくら(二度)も言わなくても(言わなくても)いっぺん(一度)で聞いてくれた 言う意味や(です)。はい、はい言うて フタツヘンジするのは、フタツヘンジすると 怒りおったなあ(怒りました)。はい、はい言うて、フタツヘンジせんもんや

(しないものだ) 言いおったけど (言っていました) がいはい言うて なにげなしん (気にとめずに) 言うたるけど (言ってやるが)。はいはい言うて ふたあくら (二度) も 返事したらはざん (駄目だ) 言うて 怒られおったわい (怒られました)。はいはい言う事は 嫌でおって (ありながら) ほんどん (本当に) 嬉こんで せんと (せずに) 嫌や嫌や (渋々) 言うのを はいはい言うね (言うのだ) 言うて、怒られおった (怒られました)。フタツヘンジ言うのは 気持よお (よく) する 言う事なあ (です)。

ふたつめがね (二眼鏡) 【名詞】 海女が海中で用いる眼鏡 目が二つある (志) [会話] フタツメガネ言うな (のは) 磯人 (海女) さんの眼鏡。錫の眼鏡や (とか) べっこ (鼈甲) でしたり。

ふたて (二手) 【名詞】 1) 両手 2) 二つの組 仲間 両方

ふだどめ (札止) 【名詞】 禁止 鮑や海老の漁の期限が来て禁止すること [会話] 今日で鮑獲ったらいかん、海老獲ったらいかん言うの (のを)。口な (が) 止まった言うのなあ (です)、九月十五日になると 期限な (が) 来てなあ、県では 九月十五日になると 口な (が) とまんねやんかい (止まるのです) それを フダドメ。

ふたながれ (二流) 【名詞】 二通り 二つの方法 二本 [会話] ひとながれ フタナガレ 言うて。布団でも一組 三枚あん (る) のを ひとながれ言うやんかな あ (言います)。布団をなあ 敷布団 と うわぶとん 二枚して 三枚したのをなあ。三枚重ねの 五つ紋 あれでも 金出しゃ 転ぶのか 金の力は偉いもんだ なあ言うて 芸者な (が) 三枚重ねの 五紋しとるけど (しているが)。フタナガレ言うと 布団だけやなしん (でなくて) なんでもふたあつ (二つ) あん (る) のを フタナガレ 言うのなあ。

ふたなのか (二七日) 【名詞】 十四日間 人の死後十四日目 ふたなぬかの訛 [会話] フタナノカ 言うと、十四日。一週間でひとなぬか 十四日経つと 二週間 やもんで (なので)、フタナノカ 三十五日言うといつなのか (五つ七日) 四十九日になると ななな のかなか (七、七日です)。

ふたならべ (二並) 【名詞】 二列 二列に並んで居ること [会話] ひとならべ ふたあならべ 言うて、なんか (なにか) 並べて分けん (る) のなあ。ひとならべ フタナラベ 言うて。二重んしとけ (にしておけ) 言うと ふたあつ (二つ) なあ 三重ん (に) も 並べ

え (並べなさい) 言う時な (が) 有るやんかい (有ります)。ばあなせばい (場が狭い) 時んなあ (に) 並べる時や (は)。フタナラベ言うな (のは) 二列、みいならべ言うと 三列。買ひ山のきい (木) 分けると よん (ように) になると そげんして分けえおったわい (そんなにし分けて居ました)。

ふたなり 【名詞】 1) 女性のような性格の男、男性のように活動的な女性 2) 野菜、果実が普通一ヶ附く所から二ヶ着く事 [会話] 1) フタナリ、男のもん (物) と おなご (女) のもん (物) と ふたあつ (二つ) 有る言うてなあ。あや (彼は) フタナリや (だ) 言うて、そして 男のくせしとて (であるのに) おなごみたよんしとると (女のようにしていると)、あや (彼は) フタナリみたよななあ (のようだ) 言うて。2) なりもんでも フタナリ 言うて、二つ、一房から出て来るもん (物) も フタナリやなあ (だ) こや (これは) 言うて。

ふだね (札値) 【名詞】 入札値 [会話] 売り値 と フダネ と 言うて、市場で言う と 売ったねえ (値) は安いし、札入れる人は ねえよお (値高く) 入れるやんかい (入れます)。そえんせな (そんなにしなければ) おちやせんよって (落札出来ないのだから)。あきゅうど (商人) 言うて 仲買 する人な (が) 今日此のさざい (栄螺) 一貫な (が) 50円 そすと (すると) 他の人は55円言うて ねえ (値) のええのい (よいのに) おちてくんよって (落ちるのだから) それよって (だから) フダネ と もとね。

ふたぶた 【副詞】 【名詞】 まるまると肥満している所、尻、大腿 ふくらはぎなどを言う。(津) [会話] 尻のブタブタ、やいこい (柔らかい) のを ブタブタしとる (している) 言うて。餅も搗きたてで ブタブタしとると、こやれ (これ) ブタブタ と 美味そおん (に) しとられ (している) 言うて。尻は尻のブタブタ 足も こむら をなあ ブタブタ 言うなあ。

ふたまた 【名詞】 1) 先が二つに別かれて居る状態、又 その物 2) 竿を持ち上げて掛ける道具

ふたむかし (二昔) 【名詞】 一昔を十年として二十年 [会話] ひとむかし フタムカシ 言うの。まあそやなあ (それは) ひとむかし も フタムカシ も 前の事やんかあ (でないか) 言うやんかい (言います)。十年ひと昔 二十年も経つとると (ていと) まあそやなあ (それは) ずっと前の フタムカシ も 前の事やんかあ 言うてなあ。

ふためがね 【名詞】 海女の用いる潜水用の眼鏡 [会話]

ブタメガネ言うのは 今し (今) の 一つめがね。

ぶたや【名詞】 舞台 劇場 ぶたいの訛 (鳥 (坂手))

[会話] 舞台言うのを ブタヤ。あのブタヤ うちやれたんてわれ (壊れたそう) とか あのブタヤどいらいええなあ (大変よい) とか言うてなあ。あの小屋や (だ) 言うたりなあ。

ふたよ【名詞】 二重 ふたへ 二つに重なって居る事又そうなって居るもの。[会話] フタヨ言うのは 二枚の事を フタヨ言うんやけど (言うのですが)。糸でもひとこ (一本) で 縫うとと (て居ると)、二本にする言う事を フタヨん (に) しとかんかれ (しておきなさい) 言うて。ひとこ (一本) で 縫うとじっきんふくろべてくよって (すぐにほつれて行くから) フタヨでしっかり 縫うとけ (ておけ) 言いおったわい (言っていました)。一本のを ひとこ言うね (言うのです)。縫う時に ひとこで縫わんと (ずに) ふたこで縫うと け 言うて、腰な (が) 曲がととる時 (て居る時) は ふたつおれやなあ (だ) 言うなあ (言います)。着物なんかも (なども) 二重になった拾みたいんなととの (のようになって居るのも) フタヨや (と) 言うなあ (言います)。二枚の事 フタヨ言うて。糸でも二本になつとり (なつて居て)、着物でも 重なつとと (て居ると) フタヨや (です)。

ふたよさ【名詞】 二晩 みいよさ参照

ふたりばい【名詞】 二人掛り 仕事の量により三人ばい、四人ばいとなる

ふだん (不断)【名詞】 平生 常日頃 (志 (布施田)、員) [会話] フダン言うのは つね (いつも、常) の事。日頃 (日常) の事を フダン言うなあ (言います)。

ふだんぎ (不断着)【名詞】 仕事着 いつも着ている物 つねぎ参照 (志 (越賀)、鈴市、安、上、阿、張、賀) [会話] つねぎ (いつもの着物) の事を、フダンギ言うのなあ (です)。いつも着とるのおを (着ているのを) フダンギ、つねぎ言うてなあ。つねぎのふう (格好) で 行きやええやんない (行けばよいでしょう) 言うてなあ、フダンギのまま 行きやええやんない (行けばよいでしょう) 言うたりなあ。ちよいと (少し) 着替えてかななあ (て行かなければ) 言う時もあるしなあ。ちよいちよいぎ着て 行きやええわれ (行けばよろしい) 言うて、ちよいちよいぎ言うの (のは) ちよいと、とつといて (少ししまって) 有るのを。そすと そのうや (上は) とつときや (で

す) とつときのきもん (着物) 着てくんかい (行くのですか) 言うて。

ふたんな 二人が [会話] あれ (彼) と あれ (彼女) と、一緒なつとんねてわい (になっているそう) 言うて。フダンな関係しとと (していると) あやまあ (あれはもう) 一緒なつとんねなあ (になっているそう) 言うて。

ふだんに 常に いつも (鈴市、安)

ふち (縁)【名詞】 傍ら 辺り そば 端、周り (多) [会話] フチ言うな (のは) 端の事をなあ (です)。そや (それ) そいな (そんな) フチいたら (行ったら) 危ないやんか (でないか) 言うて、道 歩いとても (て居ても) 川のへた (川岸) のとこ (所) 歩いとと (て居ると)、道のフチの方 歩いととと 川へおつてくど (落ちて行くぞ)。道のはしつこの方を フチや (と) 言う、はしつこの事をフチ。茶碗やどけでも (などでも) 茶碗のフチ言うて 周りを フチや (だ) 言うて。茶碗の周りも拭いとけ (ておけ) 言うのを 茶碗のフチも拭いとかんかれ (ておきなさい)、皿のフチも 拭いとかんか (拭いておけ) とか言うの (のです)。周りの事 その時は回りの事で (です)。道 通つとても (て居ても) 端の方を そいな (そんな) フチばつか (ばかり) 通つて言うて、今しや (今は) 車な (が) よけ (沢山) 通つて わしら (私達) フチばつか通つて にげな (人間が) 通つとか (所) は 無いなあ言いもて (ながら) 通つとんねやんかい (通つて居るのです)。茶碗やと (だと) 茶碗のフチ 欠いたて (てしまって) かけちろになつとられ (なつて居る) 言うて。かけちろ 欠けとんのおな (て居るのが) いくとこ (何ヶ所) も欠けとと (て居ると)、こやまあ (此れは) かけちろやれ (だ) 言うのなあ (のです)。ひととこぐらいんのおは (一ヶ所位のは) 欠けとられ (て居る) 言うんけど (言うのだが)。

ふちくた【名詞】 周囲 周辺 (志 (片田、浜島)) [会話] 爪まわし (爪の周囲の炎症) 言うて、爪のフチ クたな (が) 膿 持ってくるやんない (でしょう)。

ふちになる 沢山居る 連なる [会話] しらめな (風) が フチなる よつけおる (沢山いる) 言う事やわい (です) 襟やら首玉やら 一杯おんのお (居るのを) フチニナル。

ぶちまける。ぶちやける【他カ下一】 1) 容器をひっくり返して中の物を散らす。2) 思つて居る事を隠さず洗いざらし言う。[会話] 1) ブチャケタ よお (てしまった) 言うて、思いきつてほつたれ (力一杯放つて

やれ) 言うのを ブチャケトケ (ておけ) 言うて。²⁾ ブチマケル言うて 人にいろんな事を聞いてもらをおもて (貰おう思って) 自分のおもとる事を (思っ居る事を) 胸の内を それも、ブチマケル言うて。もやもや もやもやと おもとんの (思っ居るのを) 聞いてもるて (貰らって) ブチャケタタヤ (てやったら) 気な (が) さっぱりしたれ (しました) 言うて。

ぶちよおづら【名詞】 佛頂面 不機嫌な顔 ふくれ面
[会話] あやあれ (あれ) はりふぐみたいな (のような) 顔して言うて、ブチヨオヅラして言うて。

ぶちよおほお (ぶちようほう、ぶてふはふ) (不調法)

【名詞】 1) 不得手 苦手 不器用 2) 出来ない事 不細工 不体裁 粗末な物 (上、阿) [会話] ²⁾ ブチヨオホオ言うのは 粗末なもん (物) を言うんかなあ (のでしょうか)。ブチヨオホオナもんやけど (だが) 言うのは、立派なもんや (で) 無いのに言うて、此れ ブチヨオホオなもんやけど 言うて あんまりええもんやないのん (あまりよい物でないのに) 言うて。卑下して言う事やわいなあ (です)。ええもん (よい物) 人にやっても (あげても) ブチヨオホオなもんやけど ちよいと (少し) もて来たんやわい (持って来ました) とか とっといてくれ (取っおいて下さい) とか言うやんな (言うでしょう)。ちよっと謙遜して言う事やなあ (です)。品物持てても (持って行っても) まずいもんや (だ) 言うのを、ええもんもてても (持って行っても) ええもんや 言うのは わりもんで (悪いので) そんで (それで) ブチヨオホオなもんやけど 言うて 謙遜して もてくわけやがな (持って行くわけなのです)。¹⁾ ブチヨオホオ言う時 手が器用やない (でない) 下手糞や (だ) 言うのも わたしゃ (私は) 下手糞で ブチヨオホオやけど (だが) 私な (が) したるわい (してあげます)、だいまあ (どれ) 下手糞でも だんねえかい (かまいませんか) だんなかったらしたるわい (よかったらしてあげます) 言うて。

ぶちんなる 沢山居る [会話] よっけ (沢山) 居る言う事やわい (です)。一杯おんのおを (居るのを) それを フチンナル しらめ (風) で ふちや (だ)。

ぶつかあい【名詞】 二日間隔 ぶつかはフタカ (二日) の転 (大言海) [会話] ツツカアイ言うのは、今日と あした (明日) と あいおけて (間置いて) 三っ日目のおをなあ (のを) ツツカアイに来い言うとられ (言っている) 言うてなあ、中 二つ日あける 言う事で 三っ日目に 行く言う事や (です)。

ぶつかあい (深い)。ぶつかい【形容詞】 深い つ 促音添加 (志 (甲賀、国府)、三、鈴市、伊、南、熊) [会話] 深い、深い事を**フツカイ**、**フツカイ井戸や** (だ)。どいらい (大変) **フツカイ井戸やなあ** (だ) 言うて 昔の井戸は 五尋 (イツヒロ) も むうひろ (六尋) も有るやんかい (有ります)。きい (木) の うまつるべで 車井戸ん (に) して、車井戸の 釣瓶の おもたいの (重いのは) 言うたら。**フツカアイ** 言うのは ものすご (ものすごく大変) **フツカアイ時ん** (に) **フツカアイ** 言うて 力入れて言うやんかい (言うのです)。つをつまらせて **フツカアイ** 言うて、**フツカイ**なあ言うて 軽く言うのは ちよいと (少し) **フツカイ**のを言うなしなあ (のですし) **フツカアイ** 言うのは ものすごお (ものすごく) **フツカイ**のを言うの (のです)。

ぶつかえ【名詞】 葺替え (上、阿、張、賀)

ぶつかおき【名詞】 中二日 間隔をあけること 三日目 毎 ひいておき、ぶつかあい参照 [会話] 一日あい (間) 置いて ひいておき言うて **ツツカオキ**に言ったら 二日あい (間) 置いて。

ぶっかけ。ぶっかけめし【名詞】 汁をかけただけの飯、最初から汁を飲まずに飯に汁をかける事 (尾、北) [会話] **ブツカケメシ**言うのは、御飯へすぐに 味噌汁でも なんでも 飲まんとかけんのを (飲まずにかけるのを) **ブツカケ**言うの (のです)。**味噌汁**でも吸いもん (物) でも 吸うて (吸って) 御飯食べるわな (ます)。それを 吸わんと (吸わずに) **ブツカケ**たんね (てやるのです)。**漁師**はものすごお (大変) 嫌うけど (嫌がります) **ブツカケメシ**は。縁起な (が) わり (悪い) 言うて 嫌うの (のです)。**ブツカケ**すると、吸うて (飲んで) 飲まないかんね (なければいけないのです) 言うて。**漁師**の人は嫌いおったんなあ (いやがりました)。そやよって (それだから) ふた口 (二口) でも みい口 (三口) でも 吸うといて (ておいて) かけるもんやれ (かけるものだ) 言うて、すぐんと (すぐに) かけると そいな (そんな) **ブツカケ**して言うて 怒られおったわい (て居ました)。かけたかったら 一口でも ふた口でも 食べといて (ておいて) かけんのならええんけど (かけるのならばよいのですが) 御飯も食べんと (ずに) 吸いもせんと (せずに) かけると **ブツカケ**やなあ (だ) 言う (言います)。

ぶっかける (吹掛)【他力下一】 1) 誇大に言う。値段などを不当に高く言う。2) 喧嘩などを挑む。しかけ

る。[会話] 2) 喧嘩こおて言うのをなあ、喧嘩フツカケル言うて。喧嘩かう言うのは 喧嘩持ちかけてくのなあ (て行くのを)。1) 法螺吹く言うのも フツカケル 法螺吹き。

ふつかじお (二日潮) 【名詞】 大潮の第二日目 潮のよく干くようになって二日目 しお参照 [会話] 今日はひいてじお (第一日目) フツカジオ言うて。

ふっかない 【形容詞】 深くない ふっかねえに同じ [会話] あっさいのおを (浅いのを) フツカナイわれ (です) こか (ここは) 言うて。こかなんも (ここは少しも) フツカナイヤんかあ (です) あっさいやんかあ (浅いではないか) 言うてなあ。

ふつかにあげず 毎日のように [会話] フツカニアゲズ来とる (来て居る) 言うのは、毎日来る言う事を言うのなあ (のです)。毎日来とる事を フツカニアケズ 来とる言うなあ (言います)。

ふっかねえ 深くない [会話] ふっかない言うの (のです)。海い (へ) 行ても (行っても) 此処な (が) あっさいわれ (浅いです) なんも (少しも) フツカネエわれ。

ふつかよい (ふつかよひ) (二日酔) 【名詞】 酒の酔いの翌日まで醒めない事

ふっからかす 1) 自慢する ひけらかす 見せびらかす 法螺を吹く 2) 吹かしてしまう [会話] 2) ほこりも 風な (が) 有るとこ (所) で フツカラカシとけ (ておけ) 言うてなあ。みい (箕) でひんな (分けるのは) 世話なよって (面倒だから) 風でフツカラカシとけ 言うたり。着物やどけ (など) 濡れると そこらい (その辺に) フツカラカシとけ 言うてなあ 掛けとけ 言うのを 風に吹かしとけ 言うのを フツカラカシとけ 言うてなあ。1) フツカラカス ひっからかす言うて 法螺吹くの フツカラカス言うの。

ぶつかる 【自ラ五】 打ち当たる。勢いよく突き当たる。障碍となる物に出合う。対立する。かちあう [会話] ブツカル言うのは 突き当たってく (て行く) 事を ぶつけてたない (ぶつかって行った) とか、ぶつかって来たない (当たって来た) とか言うねやんかい (言うのです)。やりつけて来た ブツカル言う事をやりつけて来た言うの (のです)、あの人な (が) やりつけて来て言うて。

ぶつきらぼお 【名詞】 話や態度に愛想の無い事 [会話] ブッキラボオ言うのは、普通やったら (だったら) 今日は言うたら、はい今日は言うて 返事するやんない (でしょう)。それを今日は言うても なんも言わん

と (何も言わずに) あつとか言うとる (て居る) 人な (が) 有るやん (な) (でしょう) それを ブッキラボオ あいそ (愛想) の無いのを あの人は ブッキラボオ で言うて。あいそな (が) なんものおて (少しも無く) 言う事やなあ (です)。

ぶつぎり 【名詞】 料理の材料を無造作に大きく厚めに切る事 秋刀魚などを骨をつけたそのまま切ること。 (志 (布施田)) [会話] 鯖のブツギリ ぶつぶつ切ん (る) のなあ。まるっぽ (丸のまま) で、骨ごちなあ (ごと) ブツギリ言うて 真っ直ぐん (に) ぶつぶつと裏も表も言わんと (言わずに) ちよいと (少し) はすかいんすんな (斜めにするのは) ぼたんづくり言うのなあ (です)。

ぶつくさ 【副詞】 不平 [会話] ブツクサ言うのは 仕事しいもて (しながら) ぶつぶつ ぶつぶつと小言 (ごと) 言いもて (ながら) 此れすんの (するの) おや (俺は) かいだりて (だるくて)、今日は こいな (此の様な) 仕事したないのん (したくないのに) 俺ん (に) こいな事ばつかさして (ばかりさせて) わがた (自分は) しえんとおって (せずに居て) 言うて ぶつぶつ言うとんのおを (て居る) ブツクサ言うとる (言て居る)。不平不満ばつか (ばかり) 言うとんのを ブツクサ言う。

ふつくら。ふつくり 【副詞】 柔らかくふくらんでいるさま 豊かにふくよかなさま (員) [会話] フツクラしとるやんかい (しています) こや (これは) 言うね (言うのです)。あの子の顔 おた フツクラとええ (よい) 顔やなあ (だ) 言うてなあ ほべたな (頬が) ふくれとると おた しもぶくれな (が) してええ 顔やなあ (だ) フツクラと まあ言うて。餅焼いてもなあ フツクラと焼けて言うて 加減よお (よく) 焼けるとなあ、ふくろんで (膨らんで) 来ると フツクラと 焼けて こや (これは) 美味そおなれ (だ) 言うてなあ、ぼおつと膨らんでくんのを (来るのを)。

ふっけらかす 自慢する ふけらかす参照 [会話] ふっからかす言うのを フツケラカス言うねやんかい (言うのです)。

ぶつける 【他カ下一】 打ちつけるの訛。投げつける。投げて当てる。自分の所有物を他のものに打ち当てる。うつける。うつける参照 ぶつつけるの転 (広辞苑) [会話] ブツケル言うのは、うつける、うつけておこして言うねなあ (よこした言うのです)。うつつけておこすとか うつつけられたとか、わがと

(自分) したのおを (のを) うつつけたれ (てやれ) 言うし、むこお (相手) から しておこすと うつつけておこして うつつけられたんよお (たのだ) 言うて。なんやかや 放っておこすんやろなあ (のでしょう) それを、ブツケテおこした、うつつけておこした、うつつけられたんよお 言うて 投げつけられて。此れ持て来て おくれ (下さい) 言うて 手で渡してくれんのならええんけど (くれるのならよいのだが) やるわ (あげます) 言うて ブツケテおこすのを うつつけられた 言うの (のです)。うつつけておこした そやもんで (それだから) 俺も うつつけたたれ (てやった) 言うて。

ぶっこお【**形容詞**】深く [会話] フッコオ掘れまあ穴も言うてなあ、なんやかや (いろいろ) 埋める時ん (に) フッコオ 掘らな (なければ) はざんわれ (いけない) 言うてなあ 深く言うのをなあ フッコオ掘らな 言うてなあ。

ぶつじ (佛事)【**名詞**】葬式 葬式の程度

ぶっそ【**名詞**】物騒 危険なこと 危ないさま ぶっその末尾母音の省略 古くから有る物念の影響でモノサワガシ (物騒) を音読して出来た語 (広辞苑) 物念、がさついている事 あわただしく落ちつかない事 [会話] ブッソやなあ (だ) まあ あのにげや (人間は)。鍵すんで (盗みするので) ブッソやよって (だから) けえかいせえよお (警戒しなさい) 言うてなあ。あんな (彼が) 此処ら うろろうとまあって (廻って) 来ると ブッソなよって (だから) 気をつけたれよお (て居なさい) 言うてなあ。なんか (何か) てくさい (盗む) よおな人。物騒言うのと ブッソ 言うて “お” 付けやせん (ない) 人も有るわい (有ります) ブッソモンやなあ (者だ) 言う人な (が) 有るやんかい (有ります)。

ぶっそもん【**名詞**】危険人物 ぶっそ参照

ぶった その様な様子を示す 偉らっそブッタ

ぶっちゃけばなし 打ちあけた話 本当の話 (三、鈴市、安)

ぶっちゃける【**他カ下一**】1) ぶちあけるの転 (広辞苑) 中の物をすっかり外へ放り出す (鈴市、安、一、久、阿、張、賀) 2) 打ちあける 包み隠さず話す (桑) [会話] 2) ブッチャケル 言うのは、打ちあける事を言うんやけど (言うのです)。ぶちまけると よお (よく) 似た、心の中を 打ちあける言うのを ブッチャケル うっちゃける言うて。1) そして 物をそこらい (その辺に) 放ったり なんやかやすんのを

(するのを) ブッチャケタタ (てしまった) とか言うて、まけたる (てやる) 事を。なんか (なにか) 物入れて 持つとて (て居て) へま (失敗) して 落したて (てやって) まけたるやんな (まけてしまうでしょう) それ、ブッチャケタタよお (てしまった)。

ぶっちょお (ぶっちょう、ぶっちょう)。ぶっちょおぶら (佛頂面)【**名詞**】佛頂尊の恐ろしい面相によると、又、不承面の転とも。無愛想な顔。不機嫌な顔 ふくれつら 佛頂 佛の頭の頂き 無愛想の事、又、そのさま (松、尾) [会話] ブッチョウゾラ 言うのは 怒ととる (て居る) のを言うの (のです)。怒って ものも言わんと (言わずに) 顔をふくらかして (膨らして) ぷつとしとんのおを (して居るのを) ブッチョウゾラ。見て 見よまあ (見なさい) ブッチョウゾラ して あやれ (あれ) べつんも (特に) こんじよくさりみ みたいな (根性腐り・意地悪のような) 顔しとんなあ (して居る) 言うて。

ぶつつける【**他カ下一**】投げつける。打ちつける。うつける ぶちつけるの転。激しくぶつつける。強く当る。ぶち 打ち 接頭、動詞について、その意を強める意を表す。又激しい勢いで、その動作をする意を表す。(松) [会話] うつつけんのおを (投げつけるのを) ブツケル 言うん (のです)。そしたり とびや げてたり、向へ とびや げて来たのおを (のを) ブツケ タ言うて。とびやげる言うのは 向へ突き当る事と とびや げてた (て行った)。いて (行つて) 柱でもなんでも有るやんな (でしょう) それに とびや げてた 言う事。当つてく (て行く) 事を。

ぶつつともいわせん 何も言わない

ぶつつともゆうてきやせん 音沙汰が無い 何とも言うて来ない

ふつつら。**ふつつり**【**副詞**】決して、絶対に、それ迄続いて居た事が急に止むさま、又、やめるさま 下に打ち消しの語を伴って 全然 決して。(志、鳥、桑、津) [会話] フツツリとも言うし、フツツラとも言うなあ (言います)。フツツラ来やしえんなあ (来ない) 言うたり、フツツリ来やんなあ (来ないなあ) あれから言うて。ちょいと (少し) ゆいやい (口喧嘩) したりする事な (が) 有るやんない (でしょう)、あれ以来 フツツリ来やへんなあ フツツラ来やへんなあ とか言うて、フツツリも言うし フツツラも言うなあ (言います)。絶対言うのを。

ぶつつり【**形容詞**】切れる 切るの形容 (鳥)

ふつつりかつつり【**副詞**】絶対 [会話] なんやかや

(いろいろ) いやな事言われるとなあ、あんたげみたいなもん (お前の家のような所) フツツリカツツリきやれんなあ (来られません) 言うて。絶対 めったん (に) 来やせん (来ない) 言うの、フツツリカツツリ言うね (言うのです)。

ふって 【名詞】 貧乏 フツテイ (拂底) の訛りか ふうてんなる参照

ぶって そのように振舞う えらっそブッテ かしこブッテ [会話] 賢**こぶんのを** (ぶるのを) 賢**こブッテ**、賢**こぶつとる** (ている) 言うて。

ぶつてり 【副詞】 1) 腫れている様 2) 肥えて居る様

ふってんなる 貧乏になる [会話] 家**な** (が) びんぼん (貧乏に) なって来ると、あの家**を** (は) フッテンナッテキタナア、まあ あの家も ほん (本当に) ぱりぱり**しとたけど** (していたが)、今しゃ (今は) フッテンナッテテ (ていって) まあ言うてなあ。ふって言う時は びんぼなあ (貧乏です) まあ びんぼになつてた (なつて行つた) 言う事なあ まあ フッテンナル言うてなあ。

ふつとい、**ぶつとい**、**ふつとおい** 【形容詞】 太い (志

(国府、甲賀)、鳥 (国崎、坂手)、一、久、度、伊)

[会話] フットイ言うのは 太いのを、太い**もん** (物) を フットオイ言うなあ (言います)。フットオイ言うね (言うのです)。太いのを フットオイね**よつて** (のだから) 肥りすぎ**やれ** (だ) 言うて 子供ら**な** (が) 肥えて来ると。

ふつとた 降っていた [会話] 雨**な** (が) フツタ、雪**な** (が) フツタ。金**な** (が) フツタ言う**んならええんけど** (言うのならよいのだが)、降って居た言うのを フツタ。

ぶつどつとる ぶつぶつ (粒々) している ぶつどる参照

ぶつとて 偉ぶって居て その様に振るまう [会話] ブットンネヨッテン (ぶっているのだから) 言うて、ちよいと (少し) 生意気な事すると あや (彼は) ブツツテ言うて。

ふつとる 1) 降って居る 2) 精神に異常が有る (鈴市、安、津) [会話] 1) 今し (今) の事**なあ** (です) 今し フツルト 雨**な** (が) フットンネ (ぶっているのだ) 言うてなあ。まあ 止んでくと よおでた言うね (言うのです) 雨もよおだし**言うね**、フツタ言うのは 済んだ事 フツトル言う**と今し** (今) フツトンの**なし** (です)。

ぶつとる 偉そうにする。得意そうにする。ふりをする。

ふり 振り 動作の仕方 様子 又、姿 容姿ぶる 名詞 形容詞 形容動詞の語幹についていかにもそれらしい様子をする 又そのように振る舞うなどの意を表す。自分は特別な人間などと言うように振る舞い他人に嫌な感じを与える もつたいぶる とる 連語でおる (て居る) の転 その状態に有ると言う意を表す [会話] 賢**こブツトル**とか、偉**っそブツトル**とか言うの**なあ** (のです)。偉い**ふうしとる** (格好して居る)、べつんも (特別に) 偉い**いんど** (いのだ) 言うたよおな格好**つけどんのおを** (して居るのを) 偉ら**っそブツトル**言う**やんかな** (言います)。賢い人は**あんまり** (あまり) 偉ら**そぶらせんけど** (ないが) ちよいと足らん人 (少し馬鹿な人) は べつんも (特に) おや (俺は) 偉い言うよ**おん** (に) 偉ら**そブッテする人な** (が) 有るやんかい (有ります)。金**もの**のおておつて (無いのに) 金持**ブツトル**とか、金**な** (が) 有る人は そげん言わへんけど (そんなに言わないが)、金**な** (が) のおておつて 金**な** (が) 有るふりして 金持**ちブツトル**とか。見栄張**つとる** 言う事**やわな** (です)。偉ら**そブツトル**言うの (のは) がいん (たいして) ぶんぶ (文武)、のおておつて (無いのに) おや 偉い言うて べつんも 偉ら**そおに** しとんのおを (して居るのを) えら**っそブツトル**。

ぶつどる 1) 怒ってふくれて居る 2) 腫れている (ぶつろる) [会話] 1) 怒って**しとたや** (していたら) あや (彼は) ブツツテ あ顔**みよまあ** (見なさい) 言うて 怒って なんも言わんと (何も言わずに) ふんと しとる (している) 人を ブツツトル言うの (のです)。

ふつとんね 降って居ます

ふつとんの 降って居るのです (安)

ぶつぶつ 【副詞】 1) 不平、不満、小声でつぶやくさま 不平不満を大ぴらでなく言うさま 2) 小さな穴や突起が沢山有るさま 3) 物を短く切断するさま 4) 小さな出来物 (腫物) 名詞 (志 (布施田)、上、阿、尾) [会話] 1) ブツブツ言う**とる** (て居る) 言うて、口で**ブツブツブツブツ**と なつちやかつちや (何彼) 言う**やんな** (でしょう)、ブツブツ言う**とんね** (て居るのだ)。一人言言う**とる人な** (が) 有る**やんな**、ああでも無い、こおでも無い言うて 心に不足**な** (が) 有る**もんで** (ので) なんか ブツブツと**言うねやろな** あ (言うのでしょうか)。ぶつくさと、ブツブツと 一緒の事**やわい** (です)。不足言うて ブツブツ言うて、4) ブツブツが出来て、ブツブツと何処**い** (に) でも

来るわな(来ます)。ブツブツだらけやなあ(だ)言うのは、小さい腫れもんで(物と)言うか 虫に喰われて ブツブツだらけや(だ)言うて かぶれて ブツブツだらけやよお(だ)言うて。

ぶつろる 小虫に食べられて腫れる ろる、どるの訛(志) [会話] ブツロル言うのはなあ、虫に刺されると 掻くと ふくれて来るやんない(でしょう)。あれ ブツロって来た言うてなあ。かあ(蚊)に 食われたや(たら) ブツロって来た 掻いたたや(てやったら) 言うてなあ。

ふでおろし【名詞】 童貞消失(志、鳥、松) [会話] 男な(が) 初めてののおを(のを) フデオロシかい(ですか)。かれきり言うやんかい(言います)。

ふてがい【名詞】 捨て買い 安く値を叩かれて買われる事 ふてね参照

ふでき(不出来)【名詞】 不出来 出来の悪い事、人間 農作物、工作品すべてについて言う(南)

ふてた 失なった 捨てた [会話] 鳥も ほっちよ(包丁) フテタ言う鳥な(が) 有るわい(有ります)、四ん月 麦刈るよおん(ように) なると。

ふてた 1) 無くした。失ってしまった。(志(布施田、浜島、立神)) 2) 捨ててしまった [会話] 1) ふてたる 無くしたる(してやる)事 失のた(失ってしまった) 言うて。フテタタ。鳥でさい(さへ) ほっちよフテタタ言うて しんがつ(四月) 今頃ん(に) なると、麦刈るよおん(に) なると ほっちよフテタタ ほっちよ フテタタ言うて 鳴く鳥な(が) あって。

ふてたる 1) 失ってしまう。無くする。(志(神明、浜島)、鳥(相差)) 2) 捨ててしまう [会話] 1) 失しのたるもん(なつてやる物)をなあ ぜん(銭)を千円 フテタタンヨオ(失った) 言うてなあ 失しのたのおを(なつてしまった) フテタタ言うて。

ふててくる 捨ててくる。捨てて行く。捨てる。(熊) [会話] 落して来たおををなあ(のを)、フテテクル。

ふでまめ【名詞】 1) よく手紙を書くこと 2) 多淫な男

ふてね(不逞寝)【名詞】 ふてくされて寝ること [会話] フテネ言うて 寝とんの(寝ているのを)。くちやねやれ(食べては寝だ) 言うて、食うてな(は) 寝えしとんの(しているのを) くちやねやなあ(だ) 言うて。ふてくされて 寝とんのおを(寝ているのを) 怒つとる(ている) 言うのを ふてくされて寝てけつかられ(居る) 言うてなあ。

ふてね【名詞】 捨て値 [会話] フテネやんかあ(でないか) 言うて、あんまり(あまり) 安いと おおたフテネやない(だ) 言うて。安買いしやれるとなあ(されると)、おおた もっとねえな(値が) するやか(か) おもたや(思ったら) フテネやなあ(だ) 三円や五円なら言うて 安いと フテ買い(捨買い)に おおた(逢った) 言うて。

ふてめ【名詞】 平素から周囲に気配りをして見ていること [会話] フテメ 普段あしこん(あすこに) なんな(何が) 有って、ここんも(此处にも) なんな有られ(何が有る) おもて(思って) 気をつけて、なにか要るよおな時に 思い出すおを(のを) フテメな(が) くれてあつたよつてん(から) あしこらいいて(あの辺に行つて) 見て見よん(見て見よう) おもて(思って) する時ん(に)、フテメや(だ) 言うの(のです) 普段から きいつけとんのなあ(気づけているのです)。

ふてる【他タ下ー】 1) 失う(志(御座、片田、布施田、浜島) 鳥、(石鏡、坂手、国崎)、松、度、北、尾、南) 2) 落す 捨てる(志(神明、志島、甲賀、安乗)、鳥、鈴市、津、松、多、度、尾、南、熊) [会話] 2) ほつたる(捨てる) 事を フテル、1) 失う事を 失のた(失った) 事を フテタタ言うの(のです)。失のた(失った)、落したりなんかした時もフテタタ言うの(のです)。何処やらん(かに) 失しのた(失った) 何処やらん フテトイテ来たんよお(来ました) 言うて フテたて(てしまつて)、無いねよお(無いのです) とか。

ふてる【自タ下ー】 不貞る ふてくされる すねる 不平不満のため反動的になつたり投げやりになつたりする。フツ(乗)の口語 [会話] ふてくされとる(て居る) 時も フテル言うて すねて怒つてしとんのおを(して居るのを) ふてくされてまあ言うて。

ぶと【名詞】 ぶゆ ぶゆ科に属する小型の昆虫、成虫は山間地に多く、人畜に群がって吸血する。(志(布施田、立神)、鳥、員、鈴市、安、多、上、阿、張、賀、度、伊、北、南) [会話] ブト言う虫な(が) 有るやんかい(有ります)。ブトは よおくんねてや(よく来るのです) たあやどき(田などに) いとると(行つて居ると) ブトん(に) 噛まれて。田しとると(して居ると)、山の方の田のふちん(辺の) 方へ行くとさいご(その時)、ブトな(が) よけ(沢山) 来て ももん(桃、噛まれた後が膨れるに) なんの(なるのです)。

ふとい【形容詞】 1) 大胆である。(伊、南) 図々しい
2) 大きい [会話] 2) 大きいの フトイ。フトイ奴やなてや (だ言えば)、フトイやつは 五銭で言うて、
1) フトイ奴やなあ (だ) 言うて 大胆な奴やなあ (だ) 言うのを、魚のふつとい (太い) やつやおもて (だ思つて) フトイやつは 五銭で言うて。警察な (が) ごおなわいて (腹立てて) 来て ぶち切るぞ言うたや (言つたら) 切り売りはしません言うて。1) フトイ言うのは 大胆な。2) そして物のおっきい (大きい) のも フトイ言うしなあ。こや がいな (これは大変) フトイやつやなあ (だ) 言うて おっきいの (大きいのを) 見ると、言う人な (が) 有るんなあ (有るのです)。フトイ奴やなあ (だ) 言うのは のぶとい (図々しい) 言うて、のぶともんよ (図々しい者奴)、のぶともんのはてなしや (果て無しは) 言うて、ものすごい (大変) ずうずうしい、しよおしよ (少し位) 人な (が) なつと (なんと) 言うても こたえやせんにげ (動じない人間) をなあ、のぶとおてしよしよ どづいたたてて (少し位 叩いても) こたえな (が) 無いてやら (とか) 言うてなあ。

ふといやつ (太奴)【名詞】 大胆な人 (伊)

ふとお 太く (松、北)

ぶどおご (ぶどうご) ぶどおざん (ぶどうざん)【名詞】 胞状鬼胎 (鈴市、南、熊) [会話] ブドオゴ ブドオザン言うのなあ (です)。ぶどおみたよなもん (のような物) をなあ たあご (担桶) に 一杯でも もおけたんの (産むのです)。

ぶどおふぐ【名詞】 ほしふぐ フグ科モヨウフグ属

ふところぐあい (ふところぐあひ) (懐具合)【名詞】 所持金 所持金の多少 [会話] ふところな (が) ぬきたいなあ (温かい)、懐な (が) さべしなあ (さみしい) 言うて。じえんな (銭が) 無いよおん (に) なつて来ると それを フトコログアイ。

ふところで。ふところべ (懐手)【名詞】 手を懐に入れて居ること [会話] フトコロベ こんにして (こうして、両手を袖から引き込んで内に入れる) フトコロベしおった (して居ました)。引っ張つてくれ言うて袖 引っ張つてもろて (貰つて) てえ (手) 入れんの (るのに)。手な (が) 冷たいと 筒袖や (だ) 言うて 入らせんもんで (ないので) 引っ張つてくれ (下さい) 言うて 入れおったね (入て居たのです)、フトコロベを。フトコロベ言はんと (言はずに) ところべや (だ) 言うて。

ふところまあり (ふところまはり)【名詞】 時計廻りに

廻る事、相手の懐に手が入りやすいと言うので嫌う。

ふところまあり【名詞】 金廻り 所持金

ふとつばら (太腹)【名詞】 度量の有る事 大胆な事

ふとて 太くて (三、鈴郡)

ふとなる 太くなる (北) [会話] フトナル 太くなる 言うのなあ “太くなあれ 長くなあれ けえ (毛) も生えよ” 言うて 長芋や (です)。

ふともも【名詞】 股 股の内部の膨らんで居る所 (志) [会話] フトモモ言うて 此処らを (股) フトモモや (です)。フトモモな (が) ふつといよお (太いです) 見よまあ (見なさい) 言うて、うそとし (恐ろしい) よおしとるまあ (ようにしています) 肥えとる (て居る) 人ら。おそすると 肥えとる人ら (は) フトモモな (が) きちきちして すれて (擦れて) まあ言うて。すれて ちいな (血が) 出て来たよお (来ました) 言うて つわぶき貼つたり、いばらのねえ (根) を しえんじてのおだや (煎じて飲んだら) 治つたねよお (治つたのだ) 言うて、言いおつた (言っていました)。

ふとる【自ラ五】 1) 盛んになる 2) 肥える [会話]

1) “踊りしゅんで来た ところてん 出しゃれ” 言うて みんな (皆が) フトツテ来る事 しゅんで来た。

2) ふとつて来たない よお (よく) 肥えて来たなあ言うてなあ、むかひのばあやんな (が) よお (よく) 肥えて来てなあ そしたら (そうしたら) 梅干を食うて食うて 一日茶碗に 一杯つも食いおつたけど (食べて居たが) 体な (が) ちっそおなつたの (小さくなっていったのです) すいもん (酔い物) 食うと ええんやろなあ (よいのでしょうか)。

ぶとんばれ【名詞】 化膿性の腫物が赤紫色に膨れる事 (志 (布施田))

ふとんむし (布団蒸し)【名詞】 いたずらなどで人に布団を覆せて押え込む事 [会話] フトンムシしたられ (してやれ) 言うて、フトンムシしたろん (にしてやる) 言うたや (言つたら) 茶碗蒸しならええけど (よいが) フトンムシや (は) いなん (いらぬ) 言うて。子供らな (が) おっちゃん (横着・乱暴) するやんない (でしょう) そすと (そうすると) 親らな (が) ごおわかして (腹立てて) フトンムシ (に) したろん (してやる) 言うて 怒りおつたん (居たのです)。

ふなあし (船脚)【名詞】 船の進む速度

ふなおろし (船下)【名詞】 陸上で建造した船舶を水上に移して浮かばせる事。進水式 (鳥、桑、度、熊)

[会話] フナオロシ しんぞお (新造) するとなあ
フナオロシや (だ) 言うて 進水式の事なあ (を) フ
ナオロシ。“かしばた (河岸) に 船は着けども 乗
りはせず” “波な (が) あらおて (荒くて) 乗られん
乗られん” 言うて。娘な (が) 男ん (に) 惚れとんね
けど (て居るのだが) 男な (が) その気なのおて (が
無く) てえ出させんもんで (手出さない) 娘な
(が) 河岸ばたに 船は着けども 乗りはせん (しな
い) 言うて、そすと最後 (するとその時) 男の方は
波な (が) 荒おて乗られん 乗られん言うて。しんぞ
(新造) 言うのは 新し船を作った。“船の しんぞ
と 娘の良いは 誰も見たがる 乗りたがる” 言うて。
“しんぞに 白帆で 借金丸やれ (だ)” 言うやんか
い (言います) ど (櫓) 拍子ん (に)。

ふながみさん (船神様) 【名詞】 船を守ってくれる神様。
船の中央部に祭る。[会話] フナカミサン 祭れよお
(祭りなさい) 言うて。磯人 (海女) 日待になると
ふなだままつり言うて あいども漕ぐとこ (所) の
フナガミサンえ あっかい (赤い) 飯 八寸の膳えし
て そして 大島行て 大島さん祭って その残り、
みんななあ (皆に) てのこぼ (手の掌に) して 分
けて食わすのなあ (食べさせるのです)。

ふなくそ (船糞) 【名詞】 小さな魚をばら積した時、舟
の隅に残る魚。舟主の取り分。[会話] フナクソ言う
なあ (のは) 魚 積むやんない (でしょう)、そす
と (すると) 舟い (へ) あっちゃこっちゃ (あちこ
ち) 残つとんのおを (て居るのを) フナクソ。フナク
ソは ふなもと (船主) のもんや (物だ) 言うて。魚
積んですると 何処や彼や はさかつとんのおを (は
さまつて居るのを) ほじえつたると (ほぜり出すと)
そいなもんほじえつたら (そんな物ほぜつたら) フナ
クソな (が) 無いよおん (に) なつてくやんか (なつ
て行くでないか) 言うて。フナクソは ふなもとの
もんやよつて (物だから) 気な (が) きいとるもんら
(て居る者は) フナクソやよつてん (だから) 言うて。
あらあら (ざあつと) 拾といて (拾つておいて) はさ
かつとんのおは (挟まつて居るには) ほつとくんけど
(その儘にしておくが)、それ 皆 ほじえつたるに
げな (ほぜり出す人間が) 有るんてや (有るのです)。
ほじえつて出したたのおわ (出したのは) 皆 かこら
な (水夫が) 頭割りん (に) 分けんの (分けるので
す)。そと (すると) フナクソは、舟の人な (が) 舟
掃除して 洗うと ふなもとのもんや (物です)。そ
やもんで (それで) 気の利かんもな (利かない者は)

それ 皆 ほじえり出したるもんで (てやるので) フ
ナクソな (が) 無いよお なつてくやんか (なつて行
きます) 言うて。その時や (は) 鯛や さいらな (秋
刀魚が) ばら積みん (に) なつて。おつきい (大き
い) 魚 フナクソ 言うて 残さしえんねけど (ない
のだが)、ちっさい (小さい) さいらとか 鯛とか
たかべやとか言うのなあ そいな (そんなの) 積ん
だ時は ちよいちよい はさかつとて フナクソやど
お (だ) 言うて。

ふなご (鮎子) 【名詞】 鮎の子 [会話] 鮎のこお
(子) フナゴ、味噌炊きん (に) すると 美味いやん
かい (です) あやまあ (あれば)。

ふなしろ (船代) 【名詞】 漁獲物を分配する時の船に対
する配当 (志) [会話] フナシロ言うと 船の当り
(配分、取り分)。五人なら五人 船まじえて (入れ
て) 六人にするやんない (でしょう)。その一代 (ひ
としろ) をフナシロ言う (言います)。フナシロは
一割五分やどお (だ) 言う家も有るけど (有ります)
フナシロは五分よけ (多く) して、一割五分な (が)
フナシロや言うけど (と言います)。かこ (水夫) と
しよおに (そのまま) 割る家も有るし、船は半代よけ
(ハンシロ多く) する家も有るし (有ります) そやけ
ど たいがい (しかし大体は) とおぶんやわい (等分
です)。

ふなぞこまくら (船底枕) 【名詞】 箱枕の一種 底板を
船底のようにそらせて作つてあるもの。ぼおずまくら
参照 (熊) [会話] フナゾコマクラ言うて きい
(木) ののおを (のを) 花魁な (が) するよおな き
い (木) の 箱枕言うて 昔や (は) しよおつたけど
(していましたが)。

ふなた 【名詞】 空中に舞う小虫の集団 [会話] フナタ
な (が) わいて (発生して) 言うてなあ。ぬきたいひ
いん (温かい日に) になると、ちっさい (小さい) 小
蠅みたよなのな (のようなのが) ぬきたいとこえ (暖
かい所へ) こおするやんない (群がるでしょう)。ぬ
くたあいとこ 行くと 十月 芋 掘つたりすると
ぬきたいとこで、飛ぶの こや (これは) ぬきたいよ
つて (暖かいから) フナタな (が) わいとられ (群れ
ている) 言うて。

ふなだいく (船大工) 【名詞】 木造船、和船を作る大工。
[会話] フナダイク。舟 こしらえる大工、フナダイ
ク。今しや (今は) やだいくや (家大工です)。

ふなたで (船蓼) 【名詞】 船を陸に上げ藁、苫などを燃
やして、船底を熱し船板中の船喰虫を殺し、又附着し

ている海藻や貝類を除くと共に浸み込んだ水分を除くこと。船の保ちをよくし、船足を軽くするために行う。

(志) [会話] 舟たでる 舟の底をなあ 柴で焼くの (のを)。今日は フナタデや言うて、舟 揚げといて なあ (ておいて) 舟な (が) かあるう (軽く) なる よん (ように) 海苔も こすつといて (ておいて) ぜんぼ (ふじつぼ) も 落としといて (ておいて) たで よおつた (て居ました)。

ふなだま (船霊) 【名詞】 船の守護神 (志 (布施田)、桑郡、桑、鈴市、伊、北) [会話] フナダマサン。フナダマサンを 神さんにして せんまい (洗米) して供えて まつんの (祭るのです) 舟の守り神。

ふなだままつり (船霊祭) 【名詞】 船の神様を祭る事 [会話] いそどひまち (磯人日待) しても、その時ん (に) 御供や (だ) 言うて、ひまち団子握って みんなん (皆に) ふたあつうつ (二ヶづつ) 呉れて。フナダマまつり言うて どいらいのおを (大きいのを) 大きい皿ぐらいん (に) して も一つ重ねて ふなだまもち や (だ) 言うて ふなだまさんへ祭るの (供えます)。

ふなだまもち (船霊餅) 【名詞】 船の神様に供える団子
ふなだままつり参照

ふなちん (船賃) 【名詞】 人や物を船で運ぶ時の料金。船に乗る時に支拂う料金。(志 (布施田)) [会話] フナチンも拂わんと ただ乗りして言うて、舟い (に) 乗せてもおた (貰った) 代金の事を フナチン。

ふなど (舟人) 【名詞】 夫婦で舟に乗り作業する海女
ふねど (志 (布施田)) [会話] 夫婦で行く人ら フナド言うてなあ。フナドな (が) 今日は 大漁で言うて、フナドな (が) 千両祝いしたんてない (したそうです) 言うて、千両祝い言うて 千両ん (に) になると祝いおつたんなあ (居たのです)。和具中 日待ちの餅みたよな (のような) 餅して こぼつたり 牡丹餅して こぼつたり (配つたり) 大漁して千円になると。

ふなぬし (船主) 【名詞】 船の持ち主 船元 せんしゅ せんど参照 [会話] フナヌシは 船を出す 家なし (です)し、せんど (船頭) は沖で指揮する人。

ふなのし 【名詞】 船の持ち主 船元 [会話] ふなぬし ぬしやけど (だが) フナノシ言う人もおんねてや (居るのです) ふなぬしの事を フナノシ言うの (のです)。持つとる (ている) 人なあ、フナノシや (です) ただ行く人は 一代やけどなあ (ヒトシロだけれど) フナノシは 一代半つ当たんの (貰らうのです)。

ふなのり (船乗) 【名詞】 船員 船に乗って仕事や生活

をする者 [会話] フナノリ言うな (のは) かこ (水夫)。フナノリ家業な (が) やめらよか (やめられない)。舟い (へ) 乗せてくれ (下さい) 言うて 頼みん (に) いて (行って) 乗つてく (行く) 人らをなあ。

ふなばら (船腹) 【名詞】 船体中央部附近の舷側部、舷の中央部 [会話] 舟の腹をなあ フナバラ言うの (のです)。波な (が) フナバラ叩いて来た言うて、波な (が) えらなつて (高くなつて) 来ると。

ふなひきば 【名詞】 舟を引き揚げ所 [会話] フナヒキバ。わがとらな (自分達が) 引くとか (所は) たいがい (大体) 此処らや (だ) 言うて 判つとてなあ (ていて) 舟 引くとこな (所が)。

ふなまんじゅう (ふなまんじゅう) (船饅頭) 【名詞】 船員を相手に売春する女。小舟に乗り船を訪れて売春する

ふなもと 【名詞】 船の持主 ふなぬしに同じ [会話] ふなくそは フナモトのもんやよつて (物だから)、気な (が) 利いとるもん (ている者) は あらあら (ざつと) 拾ろとくんけど (拾っておくのですが)。

ぶなわり 分前が少ない 利益が少ない

ぶなん (無難) 【名詞】 無事 過ちのないこと (桑)

ふにく (腐肉) 【名詞】 腐った肉 特に出来物などが出来た場所で筋肉が化膿し、ただれたもの。特に傷が化膿した時周囲につく組織。 [会話] 傷すると 葉もつけんと (つけずに) 置いとくと (ておくと) 黴菌な (が) いいんねやるなあ (入るのでしょうか) そんななあ フニクな付いて 膿んでくんね (来るのです)。

ふにやつと 【形容詞】 柔らかいさま

ふにやふにや 【副詞】 【形容詞】 柔らかで張りや勢力の無いさま 芯の無いさま (志 (布施田)、鳥、上、阿) [会話] フニヤフニヤ、やいこお (柔らかく) なつてくねやる (行くのでしょうか)。やいこい (柔らかい) のを。こんにやくみたいに (のように) しとんのを (して居るのを) フニヤフニヤやなあ (だ) 言うて。やいこい と こやんど (これはなんですか) フニヤフニヤやんかあ (でないか) 言うて。ぐだぐだしとんのおを (して居るのを) フニヤフニヤや (だ) 言う。にげ (人間) でも 元気な (が) 無いよおしとると (して居ると) あや (彼は) フニヤフニヤで 藁、からげたよおん (で、からげるように) しとんなあ (して居る) 言うて。フニヤフニヤと 元気なのおて (が 無くて) 言うて。

ぶにん 【名詞】 無人 人の居ない事

ふぬけ (腑抜) 【名詞】 気持がすっかりして居ない事

ふがい無い事 意気地無し ふぬきやとも 馬鹿。臍腑の抜けて有る義(大言海)(志(船越、布施田、甲賀)、鳥、南、津、北、尾、南)[会話] フヌケヤ(臍抜けは)言うて、あんごしかつたりすると(馬鹿だつたりすると)フヌケヤ言うて、フヌケダマ言うてよおわるうわい(よく叱ります)。なんやら(なにか) ぼさっとしとると(て居ると)フヌケみたいいなあ(のようだ)言うて。元氣な(が) のおて(無く)て物足らんよおんして、抜けたよおんしとる、しとる(して居る人が) 有るやんか(有ります)。ぼさあんと(ぼおっと)フヌケみたいいな(のような)人やなあ(だ)言う。

ふぬけだま(臍抜玉)【名詞】 意気地なし ふぬけに同じ(志(船越)津、上、阿)[会話] フヌケダマ言うて、あんごしのおをなあ(馬鹿なのを)フヌケダマやどお(だ) あや(彼は)言うて、抜けたんのおを(て居るのを)ふぬきや言うて。

ふぬけづら(臍抜面)【名詞】 間の抜けた顔つき 意気地のない顔つき。[会話] ひよかんとしとるのおを(しているのを)フヌケツラや(だ)言うて。

ふぬけもん【名詞】 臍抜者 意気地のない者 [会話] 抜けたよおんしとんのをなあ(にしているのを)、フヌケモン言うて。ぼやんと うとんぼみたよん(馬鹿のように) しとん(しているのを)。

ふぬけや 臍抜けは意気地なし。ふぬけはの略 ふぬきやとも [会話] 怒る時ん(に)フヌケヤ言うて ふぬけだま言うて あんごしなあ(阿呆だ)言うのをなあ。

ふぬける 元氣が無くなる 勢いを失う 呆然として居る

ふね【名詞】 棺(志、津)[会話] 葬式の時の ノリフネ 四角な ノリフネ、棺。

ふね【名詞】 鳥賊の甲

ふねうけたた 水船にした 船に水が入って水で一杯になった

ふねうける 舟を海に浮かべる [会話] 前い(へ)フネウケトルシ(浮かべていて)、若いもんな(者が)裸で 浦から餌を運ぶんやんかい(運ぶのです)。

ふねこぐ(舟漕) 体を前後に揺ることから 居眠りをする。[会話] フネコグ言うな(のは)居眠りすんのも(するの)も コグ。居眠りしてまあ 大島い迄 漕んどられ(でいる)言うてなあ、ねぶつとると(居眠りしていると) あや(あれ) 漕んどられ(でいる)まあ言うて。

ふねたて【名詞】 舟底の掃除 ふなたで(度、熊)[会話] 今日 フネタデや(だ)言うて、舟の底をのりこそげたり(海苔除いたり) ぜんぼこそげたり(ふじつぼ取り除いたり) しといて(しておいて)、しだ(柴)を舟の底 ひいて(敷いて)舟の底を焚いて 乾かすの(のです)。

ふねたでる ふねたでをする。[会話] ふねたでと一緒の事や。

ふねど(船人)【名詞】 舟で沖に出て漁する海女。舟上で男(夫、兄弟等)が、命網を持ち、命網をつけて深い所に潜って海女作業する海女 ふなど(志 鳥、[会話] フネド言うて、夫婦で行く。はいから(深い所へ行くための鉄の重り)。はいからかざき フネド。フネドや(とか) かちどや(徒人だ)言うて、ととかかぶね(夫婦で漁をする舟)で、かちど言うのは ひとりあま(一人海女)、よけ(多く)乗り合で乗つとるのおは(て居るのは)あれも かちど。浜から おえんでくのも(泳いで行くのも) かちどや(だ) 言うし(言います)、はまこや(と)言う時も有るし(有ります)。舟ん(に)乗って行く人ら いっばいぶねで 大勢乗って行くの(のも)あれも かちど。

ふねなふける 舟が早く走る [会話] 風な(が)吹いて フネヤ(は) フケテクナイ(て行く) あやれ(あれ)言うてな 風に流れて行くと 風で はよ(早く) 流れんのなあ(るのです) フケル 風で言うて。

ふねひきば(船引場)【名詞】 船を引き揚げておく所[会話] フネヒキバ わがとらな(自分達が)引くとか(所は) たいがい(大体) 此処らや(だ)言うて 判つとて(ていて) 場所な(が) 大体なあ。

ふねや(舟屋)【名詞】 造船場、舟を作ったり修理したりする所 [会話] 造船場、舟作るとこ(所) フネヤや(です)。

ふのり(布海苔)【名詞】 紅藻類フノリ科の海苔、海岸の岩礁に着生する。数回又状に分岐し、フクロフノリは中空の円柱状でところどころがくびれる。食用又は布地ののりづけに用いる。(志(布施田))[会話] 島ん(に) ついとんの(ているのを) フノリ、フノリジル 炊いて食うと美味いわい(です)。腹な(が) ばんばん割れてくんど(来るぞ)言うて フノリジルかけて食うと とろとろと いくらでも 御飯な(が) 食べられて。

ふのりじる【名詞】 ふのりを入れた味噌汁 ふのり参照

ぶびき(分引)【名詞】 1) 割り引 幾分か割り引きすること 2) 海女の収穫の量に応じて船頭に支払う料金

[会話] 2) 今日ではまあ 五円当った そしたや (そしたら) とまえ (船頭) に、ブビキ いちぶ (一分) 出さなはざんなあ (なければいけない) 言うて。それをブビキ言うのなあ (です)。一分や五分うつ (づつ) はねるやんない (でしょう) それを ブビキ。ブビキ せんと (せずに) ただもおて (貰って) 来た、言う人も有るなあ。なんも (全く) はざんのおら (駄目な者は) とまえ (船頭) こらえて (許して) 貰え言うてなあ。

ふまえ (ふまへ) (踏) 【名詞】 踏み台 (志 (越賀、布施田、浜島、船越)) [会話] フマエもならせんわれ (ならない) 言うて、どお (櫓) 漕ぐのん (に) 足の突っ張りに、先の上った、後 びたつとしたのおを (のを) 櫓 (どお) 漕ぐのん (に) 足ん (に) 力な (が) 要るよってん (から) ちよいと (少し) たっこ おすんねてや (高くするのです)。それを フマエや (と) 言うの (のです)。そすとなあ (そうすると) まにあわんもな (役に立たない者は) フマエもならせんわ (ならないのだ) 言うて。婆な (が) よばれて来て とて (招待されて来て居て) おらは、なんもよおせん し (私は何も出来ないし) 喰うて遊んでしとんね (して居るのだ) まあ フマエもならんねよお (ならない) 言うたや (言ったら)。ふんだや (踏んでやれば) びしゃけてくもん “下駄で踏まれた 雨蛙” 言 いおった (言って居ました) それと一緒に 下駄で踏 んだよおんなつてくもん (ようになって行くから) フマエもなるかれ (ならない) 言うて。フマエもてこい (持って来い) 言うて、こげな (こんな) かたちのお な (形のが) 有って 此処ん (に) 丸な (が) あいと て (て居て) ゴミ入れん (に) なつとて (なつて居て) 上は フマエ 言うて てんじょ (天井) 拭いたり、なんや (何が) すんのん (するのに) 登る台にすんのん (するのに) 其処の フマエ 持て来い言うて。

ふまえて 前例を考慮して 色々と考えて (志 (布施田))

ふまえる (ふまへる) (踏) 【他ア下一】 1) 踏みつけておさえる。物の上に登って力を入れて立つ 2) 判断のよりどころにする。前列にならう。[会話] 1) 踏むのを フマエル 言うの (のです)。そや (それ) きも ん (着物) の裾 フマエル 言うて 前な (が) 下つと ると (していると) 前掛けも 下つとると (していると) そや (それ) フマエラレ (るぞ)、こげんど (転ぶぞ) 言うてなあ。そして なんか吹けてく時ん (に) ふけてかんよん (行かないように) フマエ とけまあ

(ておけ) 言うて。おそとけ (おそつておけ) 言うのを。2) 前の事 フマエル、前の事 手本 にして 今度は こげんせなはざん (こんなにしなければいけない) 言うのを 前の事を フマエテ せなはざんわれ (しなければ駄目だ) 言うてなあ。

ふみ (文) 【名詞】 手紙 特に恋文 [会話] おやま (女郎) のフミ。一筆しめしまいらせ候 おやま (女郎) のフミ程 長いなあ言うてなあ。なんやかや (いろいろ) なあがいもん (長い物) 見るとなあ。

ふみいし (踏石) 1) 庭、路地などに一定の間隔を置いて敷いてある石、飛び石 2) 縁側の前に有る下駄脱ぎ石 (南) [会話] 1) 庭の飛石をなあ、フミイシ して言うてなあ。2) あがりだんやどけ (階段など) どいら い (大変) 大きな石を フミイシん (に) 置いとるやん かい (ています)。庭や (で) なしのどこ (所) から 入つてくもんで (て行くので) 置きおった (置いて居ました)。

ふみいた (踏板) 【名詞】 1) 上り口にある板。渡り廊下にある板 (熊) 2) 便壺の上に渡してある、二枚平行に並べた板 [会話] 2) せんちや (便所) のフミイタ、二枚で持つとる (ている) 言うてなあ。どお (櫓) 漕んどてもなあ (漕いでいても) “あいどもこまいど よした 押せ せんちや の フミイタ 二枚で持つとる” 言うて。フミイタ 言うて 踏ん どる (でいる) 板で、便所の渡しといて (ておいて) 有る板 あれを フミイタ 言うの なあ (です)。五右衛門風呂やどけい (などに) 入れるのは げす。げす板。げす板 入れんと (入れずに) 入って やげずられ (火傷する) 言うて、がっこやどけ (学校などの) 渡り廊下にして あん (る) のは ざら板やんかい (です)。

ふみきる (踏切) 【他ラ五】 決断する 決断して事を始める

ふみさがす (踏) 【他サ五】 目茶苦茶に踏む。踏み散らす。さんざんに踏む。[会話] そこら中 めつつぼ (飯粒) フミサガシテ、ふみつけて 言うてなあ。めつつぼ でも なんでも (何でも) こぼしとるもん (ている物) 踏ん だると (でやると) フミサガス。

ふみだい (踏台) 【名詞】 足場にする台。高い所の物を取ったり、高い所に登ったりする時に用いる、足つぎの台。[会話] フミダイ にして言うてなあ、ふまえ 言うて。ちよいと (少し) たつかいとこ (高い所) の ぼん (る) の ん (に) ちっちゃい (小さい) のでなあ、そしてといて まあう (丸く) 穴な (が) あけて有

って、ごみ入れてしよおった (して居ました)。ごみ入れん (に) もして ふまえんも (にも) して。

ふみたくる (踏) 【動詞】 踏みにじる さかんに踏む (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀)、松、北、多、張、尾、熊) [会話] 踏み倒された言うて、餅 撒く とこ (所) いて (行って) 取りやすいんのを (合いするのを) フミダクル言うて。ひったくられて おんな (俺が) つことんの (使って居るのを) しゃくりとば されたたら (取りあげられたとか) 言うて。

ふみだん (階段) 【名詞】 踏んで登る段 梯子 [会話] フミダン言うて。あがるとこ (所) を あがりだんを フミダン言うて 階段言うしなあ。

ふみつぎ (踏継) 【名詞】 踏み台 高い所の物を取ったり高い所へ昇るための台 (志 (片田、布施田、船越、甲賀、浜島、鶴方)、桑郡、員、安、阿、張、賀) [会話] フミツギ言うな (のは) ふまえんかい (です)。フミツギ言う人も有るしなあ (有ります)。ふまえ言う人も 有るしなあ。ふまえは それだけにしか (により) 使わせんけど (使わないが) フミツギは なんえでも (何にでも) 役に立つよってのお (から)、穴な (が) あいとて (て居て) ごみ 入れたりするしなあ (します)。煤掃き (大掃除) するよおん (に) になると、フミツギ 持て来い言うてやんな (でしよう)、それん (それに) 登って 天井拭きおった (居ました)。

ふみつけんあう 目茶目茶にされる ひどい目に逢う 馬鹿にされる (志 (布施田))

ふみつけんする 侮る、馬鹿にする

ふみどおら 踏んで目茶苦茶にする、又、その物。踏み潰す。(志 (布施田)) [会話] 畑を 踏んで踏んで ちすりん (地面に) したると (してやると)、フミドオラや (だ) 言うて。踏んで じべたみたよんしたんのを (地面のようにしてやるのを) フミドオラなあ (にです)。ふみどおら言うて 道路みたよん (のよう)に うねを たたきみたよん (三和土のように) したるわい (してしまいます)。踏んで 踏んで すると、そして 何んでも 物でも そこらん (に) 置いてあって 踏むと そや きもん (着物) も フミドオラんせんと (せずに) かけとけまあ (掛けておきなさい) 言うて。

ふみぬく (踏抜) 【他カ五】 1) 釘 刺などを踏んで足に突き刺す 2) 古い廊下板などを踏んで壊す 踏み破る

ふもと (麓) 【名詞】 山の下部、転じてすべて下の部分

ぶやい 【名詞】 歩合 割合 ぶあいの訛 (志、員、鈴市、松、多、伊、尾) [会話] ブヤいな (が) わりわれ (悪いのです)。分けてもろても (貰っても) おんな (俺ののは) すけなあいね (少ないのだ)、あの人 ななあ (ののは) よけで (沢山で)、おら (俺は) ブヤいな (が) わりかった (悪かった) 言うてなあ。歩合とか 歩とか言うのを ブヤイ言うてなあ。当りな (が) わる (悪) かった言うの ブヤいな (が) わり (悪) かった言うの (のです)。

ぶやかさる 水を含んで膨れる [会話] フヤカス言うのなあ (です) まあ、ふやけどんない (ている)。水でくざけて (浸して) 有って、ほとべて (ほとばつて) ふくれて 一杯になって来たれ言うのを フヤカサル言うね (言うのです)。

ぶやかされる 水に浸して膨れる。ふやける

ぶやかす 【他サ五】 1) 水に浸す (南) 2) 増やす、量を多くする [会話] ② なんやかや (何、彼) 足すのを フヤカス言うのなあ (のです)。ふやしとけ (しておけ) とか、フヤカシとけとか言うて。① ふやけて来たない (来ました) 言うんかい (言います)。麦でも よます (水につけて膨らます) と ふえて来るやんな (でしよう)。ふえて来た、フヤカシタナア言うて。物を足すのも フヤカス、ふやす 物な (が) はんぶ (半分) より無いのを 一杯するのを。麦をよましとると (て居ると) ふえて来て 鍋一杯もなって来るやんかな (来ます)。よまし過ぎたると (てやると) ほとべて来て。ほとべて来て言うのは ふえて来る事を、水ん (に) つけると (浸けると) ふえて来るもんで (ので) ほとべて来た言う (言います)。柔らこお (かく) なって来るやんな (でしよう)、水 ふくんで。ねえさんな (が) 言うてきよおったね (来ました) わしげん (私の家) 人な (主人、夫) 酒のおで (飲んで) 寝て見よまあえ (性交して見なさい) なかなか しよおしよお (少し) の事で 降りてかんで (て行かなくて) ほとべてくるまでしとて (して居て) 言うて。

ぶやく (不役) 1) 役職に就かない事 2) 仕事の無い事

ぶやける 【自力下一】 水を吸って柔らかく膨れる フユ (殖) の転、フヤクの口語 (大言海) (志 (布施田))

ぶやげな 振り上げなければ

ぶやげる 振り上げる

ぶゆいそ (冬磯) 【名詞】 冬に海女作業をすること (志) [会話] 冬の磯 (海女) をなあ、フユイソや

(だ) 言うてなあ。春ん (に) なって来ると 春磯、さぶい (寒い) 時 正月過んで 行くのを フユイン 行こや (行きましょう) 言うて、しょんがつ (正月) 過ぎると 雪な (が) 降つとんのん (ているのに) 行きおったわい (行って居ました)。

ふゆざいもく (冬材木) 【名詞】 冬に獲れるすずき (魚)。味がまずい (志)

ふゆもん 【名詞】 冬物 冬に着用する衣服 [会話] フユモン言うな (のは) 冬のきもん (着物) を。フユモンも 片付けとけよお (ておきなさい) 言うて、ぬく となつて (暖かくなって) 来るとなあ、まあ ぬくたいよつて (暖かいから) フユモン 要らんよつて (から) 片付けなはざんなあ (なければいけない) ぼちぼち (ぼつぼつ) 言うてなあ。

ふゆやま (冬山) 【名詞】 冬に燃料用の材木を、切り出すこと。かいやま参照 [会話] 秋山 よおせざつたよつて (出来なかったから) フユヤマ 切らなはざんなあ (なければいけない) 言うて、冬に 買い山 をなあ 秋山や (とか) 春山や (とか) 言うてなあ。

フライキ 【名詞】 大漁旗 大漁のあった時などに船に立てる旗 オランダ語 v l a g から (志、熊)

ふらかす 舟を漂流させている。ただよわせている。[会話] 舟 艦綱とらんと (取らずに) フラカス言うてなあ。艦綱をとつて 縛つとくと (ておくと) しつかりすんねけど (するのだが) まあ 艦綱とらんと フラカス言う、沖で フラカシトラレ (ている) 言うて 錨やらんと (うたずに) 機械も かけんとしとると (ずにしてると) フラカシトル 言うなあ (言います)。

ぶらくつとる 吊り上げて居る ぶらくり参照

ぶらくり 【名詞】 柄のない提灯 [会話] ブラクリ提灯。昔や (は) ブラクリ提灯言いおつたの (言っていました)。はこ提灯をブラクリ。はこ提灯 ちっさいのおは (小さいのは) やさやさ (大念佛) 傘ぶく さがら かす (吊す) のに有るけど (有ります)。ゆみはり (弓張り) 言うな (のは) 今しでも (今でも) 持つけど (が) はこ提灯は 与市べな (兵衛が) 持つやんな (でしょう)。

ぶらくりちよおちん 【名詞】 柄のない提灯 ぶらくりに同じ [会話] ブラクリチョオチン言うのは さんが らかして (吊るして) 有るよつて (から) ブラクリチョオチン言うてなあ。よさ (夜) 吊つとると (ていると) あや (あれ) ブラクリチョオチンな (が) さがつとられ (ている) 言うてなあ。軒やどけい (などに)

ぶらくつとる (吊るしている) 時な (が) 有るやんかい (有ります)。盆やどけのおわ (などののは) のきどおろや (軒燈籠だ) 言うけどな (言います)。ぶらくつとられ (吊るしている) あやれ (あれ) 提灯な (が) 言うてなあ。飾りにしとるのおわなあ (しているのは) ブラクリチョオチン。

ぶらくる 【他ラ五】 ぶらさげる つりさげる 物の上部を固定してさげる 又、手にして持つ。(志 (浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、鳥、上、張、賀、南、熊) [会話] ブラクルなあ (ですか)、さんがらかす (吊るす) のを ブラクル。其処らへ ブラクつとケ (ておけ) 言うて、さんがらかしとけ (下がらしておけ) 言うのなあ (のです)。小田原提灯 ぶらさげて、ぶらさげる言うのは さんが らかしとんの (吊るして居るのを)。

ぶらさがる 【自ラ五】 1) さがる 2) 今にも雨が降りそうな雲である。ぶらさがって来た。ぶらさがつとる。[会話] 1) ブラサガル言うな (のは) たっかいとこ (高い所) さがんのなあ (さがるのを) ブラサガル。2) ひよりな (天候が) うつとしい (はつきりしない) と 雨な (が) ブラサガつたよおななあ (ようだ) 言うて、今んも (今にも) 降りそおん (そうに) して来ると 雨な ブラサガつて来たれ (来た) 言うて。

ふらす。ふらする 船ふらす。潮流で流さない様に船を沖合で同一の場所に留める仮泊する。綱を長くして。風で移動する様船を停泊させる。[会話] 船フラス言うな (のは) 錨をやつて (入れて) ともずな、せんとおると (艦綱せずに居ると) ふうふうしとるやんな (して居るでしょう)、ともずなとらんと (ずに) フラシとけ (ておけ) 言うて。ともずなとると 横で引つ張つとるもんで (て居るので) ふれやせんけど (ふれないが)。ともずな取らんとおると (取らずに居ると) 風な (が) 吹くと あつちやい (あちらへ) 艦な (が) 向き、こつちやへ (こちらへ) 艦な 向きしてなあ、すんのを (するのを) フラシトル (て居る) 言うの (のです)。今日は 錨やつて フラシトラレ (て居る) 言うて。此の時は 潮の流れや 風まかせで あつちや向き こつちや向きしとんの (して居る) フラス 言うの (のです)。

ぶらちん 【名詞】 男性の下着なし ちんぶらりん

ふらつく 【自カ五】 ふうふうゆれ動く。足もとが不安定でゆれ動く。[会話] 腹な (が) へつて フラツク。目眩な (が) して 頭な (が) フラツクとか、風邪引いて長い事寝るとなあ 寝ていると 起きたや (た

ら) ふうらとフラツイテ よお歩かんねよお (歩けないのです) 体に力なおて (が無くて) 言うてなあ。
ぶらつく【自カ五】 ぶらぶらと歩き回る。ぶらぶらする。
[会話] ぶらぶらと フラツイトンネ (ているのだ)、あしこらい (あの辺に) フラツイテこおん (来ましよう) しとばか (少しばかり) 言うて。たんの (堪能、飽きて) して来たよって (から) 其処ら遊びん (に) 行くの (のを)、其処らい (へ) 行て フラツイテこおん 言うて 散歩してくんのを (来るのを) そこら い 行て フラツイテこお 言うてなあ。

ふらつと【副詞】 ひょっこり 突然

ぶらぶら【名詞】 中風 よいよ参考 [会話] ブラブラ ランなつたら (なつて行つたら) なとするやかなあ (どうしようか) 言うて。ちゅうけん (中風に) なる事を おとしがって (怖がって)。

ぶらぶらあるき【名詞】 目的も無く、うろつき歩く事
ぶらぶらやまい (ぶらぶらやまひ)【名詞】 1) とりたてて良くも悪くもならず長引いてはつきりしない病
2) あちらが悪い、こちらが悪いと言うて何もせずぶらぶらとしている人。(員) [会話] 1) 昔の人ら ちい持ちや (血持ちだ) 言いおつたなあ (言っていました)。おなごな (女が) ブラブラヤマイしとると (している)。

ふらほ【名詞】 大漁旗 (志、北、南)

ぶらんぶらん【副詞】【形容詞】 1) 吊りさがって揺れ動くさま 2) なすこともなく怠情に暮らしているさま。ぶらぶら [会話] 1) てえ (手) も足も ブラン ブランになつてたれ (なつて行つた) まあ言うて。ちゅうけ (中風) でまあ、ブランブランニなつとんね (なつているのだ) 言うてなあ。

ふり (降)【名詞】 雨や雪の降ること

ふり (振)【名詞】 姿 風姿 容貌 (南) [会話] あのフリ見よまあ (見なさい) とか、なりフリ言わずと (に) 働いて言うて、格好作らんと (ずに)。みの事 (身の廻りの事) かまわんと (かまわずに) ひっちゃ けとろな (ほころびて居ても) 破れとろな (て居ようと) みい (身なり) 構わんと しとんなあ (ずにして居るのを) なりフリ構わず働いて。

ぶりあみ【名詞】 鰯を獲る定置網 (北) [会話] 寒ブリアミ 鰯 獲る 定置網の事なあ (です)。

ぶりかえ (ぶりかへ) (振替)【名詞】 交換 あれとこれとを替える事

ぶりかえし (ぶりかへし)【名詞】 1) 病気が再び悪化すること 2) 一度よくなった事態が再び悪くなる

[会話] 1) ブリカエシ 言うななあ (のは) 風邪引いて 寝とて (寝ていて) まあ よお (よく) なつた言うて 其処ら歩るいて 又、風邪引き浴えてすんのなあ (するのです)。そいな (そんな) 時をなあ。まあ 風邪引いとて (ていて) よおなつた (よくなつた) 言うて、もつと養生したや (してやれば) ええのん (よいのに) 又 ブリカエシ たんでわれ (たそうです) 言うて。ブリカエス言うのも 一緒や (です)。

ぶりかえす (ぶりかへす)【自サ五】 1) 一度治りかけていた病気が再びもとのように悪くなる。ぶりかえし 参照 2) 一度よくなりかけていた事柄、気候などが再び以前の状態になる。

ぶりかえる【他ア下一】 1) 交換する。入れかえる 2) 後ろを見る [会話] 2) 死んだ人な (が) 棺え (へ) 座つて 家 出る時ん (に) 後向いとるやんない (ているでしょう)。そや (それは) 後 フリカエル 言うて 名残りおしもんで (惜しいので) 後 フリカエル 言うので 先 向けやせんの (ないのです)。¹⁾ フリカエル 言うて 交換すんのなあ (するもの) 局いでも (行つても) 振替しといて (しておいて) 来い言うやんない (でしょう)。

ぶりきん【名詞】 男性が下着をつけていないこと。ふりまら参 (南) [会話] 放し飼いしとんの (しているのを) フリキン、フリチン。下帯 着けとらせんの (ていないのです)、あのひた (人は) フリチンやてわれ (だそうだ) 言うて。昔の人、なかねばっか (腰巻ばかり) 着てなあ 禪せんとおるもんで (せずに居るので) おかた (大部分) フリキンでなあ、風な (が) 吹くと ちらちらと見えおつたね (見えて居ました)。

ぶりこ【名詞】 海鼠の料理 海鼠をよく振って粘りを取つた料理 (志 (布施田)) [会話] 海鼠のフリコ。あや (あれは) 美味しいけどなあ (が)、あれすんのん (するの)に だちな行かんで (罎が行かなくて) すんの (するのが) 大嫌いやつた (でした)。なめりな (粘液が) 無いよん (ように) なる迄 ふんねもんで なあ (振るのだから) たんのして (飽きて) 来てなあ。なめりな 一つも (全く) 無いよん (ように) なつてなあ 海鼠 喰うよん (ように) しとらせんの (してはいないのです)。

ぶりこ (振子)【名詞】 ぶらぶらして居る状態 特に男性器 (志 (布施田)) [会話] かいばなし 言うな (のは)、禪かかんと (せずに) ふりはなし で、フリコンのおをだ (ののを)。昔の人は よお (よく) フリコン (に) しとりおつたやんかい (して居たで有りま

せんか)。

ふりごえ【名詞】 追肥 手で振ってする(鳥(鳥羽))
[会話] フリゴエンすんのを 追肥言うわい(言うの
です)。

ぶりこお(ぶりかう)【名詞】 下手 どんづら参照 [会
話] ものすごお(大変)プリコオなのを言うね(言
います)。なんしても(なにしても) 下手なのを(の
を) どんづらばこ。

ぶりこむ(降込)【自マ五】 1) 雨が部屋の中に入
る 2) 祝い事に雨が降るとぶりこむと言って嬉ぶ(上、
阿)

ふりごめ(振米)【名詞】 瀕死の病人の枕頭で容器に入
れた米を振って聞かせること。(志) [会話] わたし
ゃ(私は) 備前の岡山育ち、米のなる木はまだ知らん
言うて。大病になると 竹の筒い(に) 米入れて こ
んな(これが) お米やどよ(だぞ) 言うてなあ。耳の
もと(近く)で ふよおったんて(振って居たそう
です) フリゴメ言うて、米は喰われやせん(食べられ
ない) 米な(が) 無いもんで(ので) 音だけ、死んで
く(で行く) 前んなあ(に) 耳のもとで鳴らして そ
んで(それで) 満足して死んできおったね(死んで行
ったのです)。

ふりすえる(降) 雨が降りしきる

ふりすえる(振) 盛んに振る

ふりたくる(降) 雨が激しく降る

ふりたくる【他ラ五】 千切れんばかりに振る。一生懸命
に振る。[会話] フリタクル言うて なんか、やろ
(何かあげましょう) 言うて。いらんわい(いりませ
ん) 言うてすんのを(するのを) フリタクットイテタ
ナイ(て行った) 言うて そいな時ん(そんな時に)
言うわい(言います)。 大漁やどお(だ) 言うて 旗
ふんのも(振るのも) フリタクットンネヨオ(て居
る)、風で 旗 振りまくとる(でいる) 言うて。

ふりだし【名詞】 1) 振出薬 布の小袋に入れ湯の中で
振り動かしてその薬の成分を出して飲む薬(北)
2) 物事のし始め [会話] 1) フリダシ薬をなあ、こ
おもおけると(子産むと) 七度煎じ言うて 茶碗へ入
れてなあ、あっつい(熱い) 湯してなあ、フリダシ飲
ましとけ(してとけ) 言うて せんぎり(十分) フリ
ダシのおだ(飲みました)。 2) 初めて何処かい(へ)
行くとか、習い事すんのも(するのも) フリダシやな
あ(だ) 言うの(のです)。 初めから フリダシやあ
れ(だ) 言うてな。

ふりたば【名詞】刈った稲を片手で束ねる動作 ふりた

ばね [会話] 片一方のてえ(手)で わあ(輪)に
しといて(しておいて)、一つにてえ(手)で この
てえな(反対の手は) かからんと(らずに) もと(根
元)をしといて(持って) 振るもんで(ので) こんだ
(今度は) 頭な(が) 上ん(に) になって それい
(に) おやいび(親指)で ちゅつとはさけんね(挟
むのです) それをフリタバ。

ふりちん。ふりちんぼ【名詞】 男性の下着をつけていな
いこと。陰部を出して居ること。ふりまら参照(上、
阿、張、賀)

ふりつけ【名詞】 飾り付け 装飾(熊)

ふりつける(降)【他カ下一】 降り込む。雨風が戸など
を激しく打つ [会話] 雨な(が) 降ると、雨な
(が) もんねやんかい(漏るのです) 窓からも フリ
ツケテ来るもんで(ので) 窓あけとかれやへん(あけ
ておけない)。

ふりづめ【名詞】 雨などが長く降り続くこと [会話]
雨な(が) フリヅメ。おおたまあ やませんね(止ま
ません) フリヅメやなあ(だ) 言うてなあ、五月雨ん
(に) なる フリヅメでなあ。

ふりはなし 1) 長い間隔に支柱の無い事 2) 広い座
敷にするため、間の障子、襖などを取り除く (志
(布施田)) 3) 男子が揮をしないこと

ふりぶき(降吹)【名詞】 1) 雨と風とが一緒になる事。
吹き降り。2) 台風 [会話] 1) フリブキ。雨と風と
一緒になって、えらい時(大変な時) フキブリ。雨な
(が) どじけて(大変降って) 来て、しゃじけて(大
変よく降る) 来た。どしゃ降りや(だ) とか。雨で時
化て来ると しゃじけて来た。雨も風も 今日(は) し
ゃじけて来たれ(来ました) 言うて。雨風な(が) え
ろおて(えらくて、大変で) 雨だけや(だ) 言うて
どじけて来た言うしなあ(言いますし) 風な(が) 吹
いとる時や(は) しゃじけて来た言うて 風まぜりの
時は 今日(は) 雨風で、しけて来てなあ(来た) 言う
(言います)。

ふりぶり【副詞】 1) 怒って居る様(志(布施田))
2) 弾力の有るさま

ふりぼぼ【名詞】 女性が陰部になにもつけていないこと。
(志、阿、張) [会話] 潮浴びて(海水浴して) がつ
がつ震いもて(ながら) あたたい(熱い) 砂を搔いて
来て(掻き集めて) のたつとりおったやんかい(腹ば
いになっていました)。 フリボボで。ぼぼは 天から
降らんとは言わん、いまき(腰巻) 外せば フリボボ
や。

ふりまあす (ふりまわす、ふりまはす) 【他サ五】 思うままに取り扱う。ふりまわすの訛 [会話] フリマアサレテ あれん (彼に) 言うてなあ、口の えらいもんに (大変な者に) 言いまげられると (言い負けると) あれん (彼に) まあ みんな (皆) フリマアサレとんね (されて居るのだ)。なんでもかんでも (どうしても) おんな (俺の) 言う事 聞け言うて あれん (彼に) フリマアサレタ。なんんかかかったて (かかっても) あれんかなおかれ (彼にかなわない) 言うて。

ふりまた 【名詞】 下着なし

ふりまら (振魔羅) 【名詞】 男子が下帯なしの状態 ふりきん、ふりちん参照 (志 (布施田)) [会話] 男の人な (が) パンツ穿かんとおんのおを (穿かずに居るのを) フリマラヤ (とか) はなしがいや (放し飼いだ) ふりちんぼや (だ) 言うて。昔 男の人ら 皆腰巻きして 禪や パンツ穿かんと そげんしておった (そんなに居ました)。夏中なあ。

ぶりや 【名詞】 そのように見せかける人 えらっぞ参照 ぶる参照 (南)

ふりわけ (振分) 【名詞】 1) 二つに分ける事。荷物などを担うに前後に分ける事 ふりわけにもつの略。がつさい参照 2) 半分半分 [会話] 1) 手荷物は合切袋 入れて 眼鏡を前い (に) さがらして (吊るして) フリワケン (に) して。

ふる (旧、古) 【名詞】 古くなったもの 使いふるしたもの。他人が長く使ってから譲られたもの。(志 (布施田)) [会話] きもん (着物) のフル あやまあフルやよって (だから) 焼いたれ (てやれ) 言うて、

ふる (狂) 【自ラ下一】 頭が正常でなくなる。(津) [会話] 気な (が) フル びっくりして 気な (が) フツテクよおなかつたれ (て行くようだった) 言うてなあ、気な (が) フル くらいやれ (だ) 言うて。

ぶる 【接尾語】 他の語について其の様子を表す語。偉そうに見せる。賢そうにふるまう。虚勢を張る。ぶっとる参照 (北、南) [会話] 偉っそブル (偉そうにする) 言うやんかい (言うて有りませんか)。なんも (少しも) 偉らのおておって (くないのに) 偉いふりすると 偉っそブルとか 賢こブルとか ぶっとんねどお (ぶって居るのだ)、ぶっとんねよってんてやら (て居るのだからとか) ちよいと (少し) 生意気な事すると あや (彼は) ぶっとて (て居て) 言うて。

ふるい (ふるひ) (震) 【名詞】 発熱前のさむけの時のふるい、ふるう事 マラリア おこり (張) [会話] 風邪引いたや (たら) フルイな (が) 来た言うて。さぶ

けな (寒け、悪感が) して来ると。ふるてくと (ふるえて来ると) フルイな来た 言うて。マラリア、おこり (瘧) おこりふるう言うて おこりふるた (ふるえた) 三つふるたよってん (ふるったから) 落したらんかれ (落としてやりなさい) 言うて。

ふるい (ふるひ) 【名詞】 篩 振るて物を選び分ける事から (四、松)

ぶるい (部類) 【名詞】 一族 同一の者 仲間 類に依って分かれる事、分ける事 [会話] 仲間の事なあ (です) あのブルイの中へ入ってとか、あいらの (彼等の) ブルイ 又、違うねてや (違うのだ)、仲間の事をなあ (です)。

ふるいかえし 【名詞】 草屋根茸きの時。今迄使って居たかやの中から使用出来る物を選び出し、再度利用する様にする事 再利用 ふきかえ参照

ふるう (ふるふ) (振) 【他ワ五】 振り動かして拂い落とす 篩にかけて物をより分ける。

ふるう (ふるふ) 【他ワ五】 落す 落花する なり物が結実して花が落ちる [会話] 花フルウ言うて 花が落ちる 稲でも 花フルタよお言うてなあ、花盛りに時化な (が) すると 花フルタンネナア (てやるのだ) 言うて、花フルタルト (てやると) みいな (実が) わりのなあ (悪いのです)。

ふるう (ふるふ) (震) 【自ハ五】 熱や恐怖のため体が小刻みに揺れ動く (南) [会話] ちゅうけい (中風に) こんやく 持たしたたよおなの (のです)、さぶうて (寒くて) さぶうて がたがたふるいや (だ) 言うて さぶいと フルウやんな。

ふるうなる 古くなる

ふるえ (ふるへ) (震) 【名詞】 身体が発熱、恐怖などで震うこと。[会話] フルエな (が) 来た さむけでフルエな (が) 来たね (のだ) 言うて あつけやったら (熱だったら) こんだまあ (今度は) さむけ (悪感) で フルエな (が) 来たれ言うて。

ふるえる (ふるへる) 【自ア下一】 1) 熱、恐怖のため体が小刻みに動く 2) 揺れ動く

ふるかぶ (古株) 【名詞】 古参の人

ふるかわにみずたえず 【俚諺】 1) 長くその仕事について居る所には、いつになってもその存在が認められる (志 (布施田)) 2) 富裕な家は落振れても容易に無くならない

ふるぎ (古着) 【名詞】 着て古くなった着物

ふるきず (古傷) 【名詞】 1) 過去にした傷 2) 過去の悪行

ふるぎつね (古狐) 【名詞】 老狡な人 ふるだぬき
ふるぎや (古着屋) 【名詞】 古着 不要になった着物を
買い集め、他に売りつけるのを業とする人
ふるくさい 【形容詞】 いかにも古い感じである。時代お
くれである。[会話] あやなあ (あはれは) 昔のもん
(物) で フルクソオテナ (くさくて) ほったれ (捨
ててしまえ) 言うてなあ。にげ (人間) も フルクソ
オテナア (くさくて) あのひた (人は) 言うて ごっ
つい (見映がしない) のをなあ。
ふるしき 【名詞】 風呂敷 ふろしきの訛 (志 (鶴方)、
鳥 (鳥羽、加茂、石鏡)、桑郡、桑、員、三、四、鈴
市、鈴郡、松、多、上、阿、張、賀、度、伊、北、尾、
南、熊) 2) 法螺吹き [会話] 1) 風呂敷の事、フル
シキや (と) 言う。2) ちよいと (少しの事) の事 お
っさい (大きく) 言うて あやまあ (彼は) フルシキ
ひろげてまあ言うて。フルシキもなんも一杯やれ
(だ) 言うて、おおぶろしきや (だ) 言うて。はっば
(大法螺) 言うにげ (人間) を。
ふるだぬき (古狸) 【名詞】 狡猾な人。人をあざむき落
しめる人。抜け目の無い人。老狡な人
ふるち (古血) 【名詞】 汚れた血 (津) [会話] フルチ
な (が) あがってまあ言うて、昔の人ら こおもおけ
ると (子産むと) フルチな (が) あがってくど (行く
ぞ) 言うて あんで (あれで) さぶけな (寒けが) し
てきたすんのを (するのを) 言うんやかなあ (言う
のでしょうか)。熱な (が) してくんのを (来るのを)。
熱な (が) して来たり さぶけな (悪感が) して来た
りすんのなあ (するのを) フルチな (が) あがってま
あ言うて。お産の後で言いおったなあ (言っていました)
た そすと (すると) “じつばさん” 煎じて飲ませ
(飲ませなさい) 言うて、煎じ薬をして ごおごお
(ごくごく) 飲んだれ (飲んでやれ) 言うて “命の
母” 言うの (のを) よお飲みおったやんかい (よく飲
んで居たで有りませんか)。ごおごおと言うのは 熱
いのを せんぎり飲めえ (充分に飲みなさい) 言うの
を、ごおごおのおだれ (飲んでやれ)、ぐいぐいと腹
一杯飲んだれ。熱いのを 飲むと 熱な ぽっと出て
来るよってん (から) そおして 飲んだれ 言うて。
ちよいと (少し) さぶけな すると 実母散を煎じて
はよ (早く) 飲ませ言うて 中将湯やら命の母やてら
(とか) 実母散てら、そいなのなあ (そんなのを) 薬
屋な (が) 置いといてくと (て置いておいて行くど)
医者へかからんと (かからずに) それ喉一杯。医者は
どいらいわり (大変悪く) なって来ると 行くねけど

(行くのだが) ちよいちよいつなあ (少しののは)、
家で とり草やとか (家で採った薬草だとか) 薬で
治しおったわい (治して居ました)。
ふるつぎ (古継) 【名詞】 ぼろぎれ ふる、古、故、旧、
古くなった物。前の物、古い事、年を怪た物 つぎ
布 (上、阿、張、賀、南) [会話] フルツギ言うな
(のは) ぼろの事を。フルツギやな (屋が) 替えん
(に) 来て ぼろをよっけ (沢山)。着るもん (物)
の きやれん (着れない) びよれん (びろれん びろ
びろ) になったのを しといて (ためておいて) やる
と、まっち (燐寸) 一つおいといてたり (置いておい
て行ったり) 付け木 置いといてたりしおったの (行
ったりして居ました)。
ふるつぎかい 【名詞】 ぼろ布を買い歩く人 ぼろ屋 く
ず屋 [会話] フルツギカイな (が) 来たら 此れ替
えんのん (るのに) 言うて、貯めといて (ておいて)
替えおったの (替えて居ました)。きぬおる婆な
(が) 来たれ (来ました) 言うて、じよおり作んのん
(草履作るのに) 絹を、ちちぶ (布の名) のきれや
(布とか) やいこいきれ (柔かい布) を からげて
(束ねて) そして ぜん (銭) で 貰らわんと (貰わ
ずに) ぼろよっけ (沢山) やると、その ひとからげ
(一束) 置いといてくので (置いて行くので) きぬお
る婆な (が) 来たや (ら) きぬかいやな (替えなければ)
言うて。きぬおる婆な (が) ふるつぎやると ぼ
ろやると 燐寸一つやてら (とか) 付け木 いちわや
てや (一束だ) とか言うて。かみのいち (頭髮、女性
の) も なんもかも (何、彼) 皆 まるけて (まとめ
て) 紙屑籠 放り込んどく (でおく) と それ、皆
もてくね (持って行くのです)。
ふるつぎかえ 【名詞】 ぼろぎれを買い歩く人。ぼろ屋
[会話] 昔やなあ (は) フルツギカエな (が)、船越
や 波切からきいおったの (来て居たのです)。草履
作る 絹 持ってなあ フルツギカエな (が) 来たら
絹 買うやあれ (買しましょう) 言うてなあ。
ふるつぎや 【名詞】 ぐず屋 ぼろ布を買い集める人
ふるて (古手) 【名詞】 1) 古くなったもの 特に衣類
の古い物 古着 テはタへ (布帛) の約 (志 (鶴方)、
松、鈴市、安、津、多、上、阿、張、賀、北、尾)
2) その所属する団体等に古くから居る人。
ふるて (震) ふるえて
ふるて 【形容詞】 古くて (志)
ふるてかい (ふるてかひ) (古手買) 【名詞】 古い衣服を
買い集める事、又それを業とする人

ふるてや (古手屋) 【名詞】 古着屋 (阿、張、賀) [会話] フルテヤ言うて きもん (着物) の古いの**ぼっか** (ばかり) 集めて来て、今日は フルテヤな (が) 来て あけんねよって (あけるのだから) はよ、ええの (早くよいのを) えりん行こや (選びに行きましよう) 言うて。フルテヤで こおて (買って) 来た言うてなあ、フルテヤでも あらみたよなもの (新品のようなもの) 有る**けど** (が)、中古で やすうて (安くて) 半値より 安う (安く) してなあ、古い**もんぼっか** (物ばかり) 売る**もんで** (ので) フルテヤ**や** (だ) 言うて。

ふるてや 降るだろう

ふるとる 1) ふるえて居る 2) 植物が花を落として結実している [会話] 1) 子供ら**な** (が) さぶうて (寒くて) フルトルと、きもん (着物) 被せ**とけ** (ておけ) 言うたり 毛布 被せ**とけ** 言うたり。

ふるとんび 【名詞】 寒さでふるえて居る さむがりや (志)

ふるない 古くない

ふるない 降っています 降ります

ふるびる (旧、古) 【自バ上一】 古くなる フルブ (フルオブ 古布) の口語 (大言海)

ぶるぶる 顔を洗う事の幼児語 (上、阿、張) [会話] 顔洗うの 子供ら**ん** (に) だれ、ブルブルしたろん (してやろう) 来い言うてな、顔 洗ろたろん (洗ってやろうに) 来い言うのを。こおすると ブルブルブル 言う**やんない** (でしょう)、朝**ん** (に) なる**とてぬぎい** (手拭) 首**い** (に) 巻**いといて** (ておいて) ブルブル してくれ**えおった** (くれて居ました)。

ふるぼけとる (古惚) 【自カ下一】 時がたって汚くなる。長年月使用し、色がくすんだり、形がくずれたりする。[会話] 古うなって 色気な (色味が) 判らん**よんしとんな** (ようにしているのは) こやまあ (これは) フルボケ**とて** (ていて) はざんわれ (駄目だ) 言うてなあ。

ふるまい (ふるまひ) (振舞) 【名詞】 御馳走、祝い事などの馳走、もてなし (志 (鶴方)) [会話] あの人 さっぱりしとて (していて) みんなん (皆に) フルモオテ言うて、くれる事をなあ フルマウ 言うて。オオブルマイ言うて ごっつお (御馳走) すると あの家 や (は) どいらい (大変な) フルマイやなあ (だ) 言うて、あの家 や オオブルマイして あやれ (あれ) よけ (沢山) 人 よおどられ (招待している) 言うてなあ、人 呼ぶのを オオブルマイや (だ) 言うて。

ふるまいざけ (ふるまひざけ) 【名詞】 1) 宴席で飲む酒 2) 金を出さずに飲む酒 ただ酒

ふるまう (振舞) 【他ワ五】 もてなし 馳走する。接待する [会話] 施すん (する) のを フルマウ 言うてなあ。ごっつお (御馳走) しても フルマイ して よおで (招待して) 言うし、しなもん (品物) でも フルモオテ (まって) 言うてなあ。

ふるまう (ふるまふ) 【自ワ五】 する 行なう

ふるめかし 【形容詞】 古い様に見える ふるくさい

ふるもん 【名詞】 古物 古くなった物

ふるわかす (ふるはかす) (震) 【他サ五】 ふるわせる
ふるう [会話] フルワカシタナイ まあ おとっしや (やれやれ) おどかして (驚かして) 言うて。おどけた (驚いた) 時、びっくりして ふるたよお言うやんない (でしょう)。てえ (手) フルワカス言うて ちゅうけい (中風に) こんにやくや (です) ぶるぶる や (です)。

ふるわらんじ 【名詞】 古草履 [会話] よけ (沢山) 食べると 子持腹で フルワンジ でも こめたられ (詰めてやる)。

ふれ (布令) 【名詞】 一般に広く知らせること。役場などからの告知、又それを知らせる文書。(志 (布施田)) [会話] お上の**フレな** (が) まあった (廻った) 言うてなあ よおい 言うて ふれおった (触れ回りました) “よおい 荒布の口な あいたどよおい” 言うて ふれんの (ふれるのです)。

ふれ 【名詞】 歪み。定まった位置からずれること。

ふれあるく 【自カ五】 知らせ回る。告げ歩く。噂を広める。

ふれさがす あいちらこちらと盛に喋り廻る (志 (布施田))

ふれとる 1) 狂っている 2) 位置がずれている

ふれにいく 知らせに行く (安)

ふれまある (ふれまわる、ふれまはる) (触回) 【他ラ五】 知らせ回る 噂を広める ふれまわるの訛 [会話] フレマアル。おしゃべ**な** (が)、人の**いなん** (要らぬ) 事 聞いて来て あっちゃ (あちら) や こっちやい (こちらへ) 行て フレマアシテ、なんも (なんにも) あの人**ん** (に) 言われやせんわい (言えません) 其処ら中 フレマアンネよって (るのだから)。フレマアシテ おしゃべ**やもんで** (なので) 言うて。

ふれる (狂) 【自ラ下一】 普通でなくなる。常軌を逸する。狂う

ふれる (振) 【自ラ下一】 歪む 位置がずれる [会話]

ぶらん ぶらんとしとると (していると)、あや (あれ) ブレトラレ (ている) 言うてなあ。頭な (が) まきまきななあ 気な (が) フレル くるくる (狂っている) 言うてなあ。

ぶれる【自ラ下】 歪む 定まった位置からずれる

ぶろお【名詞】 ブドウ ぶどうの訛 (志) [会話] プロオを、ぶどおや (だ) 言うんかい (言うのです)。れろ、な (が) まあせんもんで (廻らないので) そげん (そんなに) なってくんかいなあ (行くのでしょうか)。

ぶろおけ (ふろをけ) (風呂桶)【名詞】 桶で作った浴槽。浴槽。[会話] フロオケでも 磨がかんとおってみよ まあ (磨かずに居て見なさい)、脂な (が) 浮いて来て そびな (垢が) 付いたよおななあ (ようだ) 言うて。

ぶろがま【名詞】 風呂桶 (南)

ぶろかい。ぶろかな (女性語) ぶろかれ 降りません [会話] 雨な (が) ふんのかい (降るのですか) 言うて、なんも (少しも) フロカレ、今日は 天気やれ (だ) 言うて。

ぶろく (附録)【名詞】 余分の物。思わぬ授かりもの。[会話] なんかの フロクに付いて来た言うんかい (言うのですか)。なんもなあ (なんにも) そんな (それが) よろくな (が) あろかれ (無い) 言う時な (が) 有るけどなあ (有ります)。

ぶろしき【名詞】 ほら (南)

ぶろしきひろげ【名詞】 大言壮語する。法螺を吹く。大風呂敷を開ける [会話] はっぱ (法螺) 言う人 フロシキヒログ。

ぶろせん (風呂銭)【名詞】 風呂屋の入浴料、転じて少しの金

ぶろふき (風呂吹)【名詞】 水炊きした大根、蕪に味噌をつけた副食、ぶろふきだいこんの略。フロフキは風呂に入り体が熱くなったのに息を吹きつけ垢を取る事より、熱き物に息を吹きかける事か [会話] 霜月 おだいしこや (御大飾講だ) 言うて そばの団子入れて 小豆飯炊いて フロフキして。

ぶろや (風呂屋)【名詞】 大衆浴場 (志 (鶴方、神明、立神、志島、国府)、津)

ぶろやのかま【名詞】 有言不実行 ゆう (湯一言) ばかり

ぶろやのもどり 息の短い海女が荒布、若布を一本採って来るのをさげすんで言う。[会話] フロヤノモドリや (だ) 言うて ゆうて (手拭) さげたよおん (よう

に) して めえ (若布) いっぽおつ (一本づつ) さげて出て来ると、フロヤノモドリで めえ (若布) いっぽ (一本) さげて 出てくれ (出てくる)。

ぶわついとる (ふはついとる) うわついで居る ふわふわして居る 落着きが無い 思慮分別をしない (志 (布施田))

ぶわぶわ【副詞】【形容詞】 柔らかいさま ふわふわ [会話] 柔らかおて ブワブワしとる言うし。

ぶん【名詞】 封 フウ (封) の音便 (大言海) ふんきり 参照 [会話] 新しのおを (のを) こおて (買って) 来ると ブンな (が) してあるやんない (してあるでしょう)。

ぶん (分)【名詞】 身分 品位

ぶん (分)【名詞】 分け前 [用例] わし (私) の ブンはどれどい (どれですか)

ぶん 量を表す 百円ブン (志、鳥、員、四、安、一、飯、松、多、度)

ふんきり【名詞】 封切り。新しい物を初めて出す事。[会話] フンキリのばりばり。封切ったばかで (ばかりで) 新しのおを (のを) こおて (買って) 来ると、ふんな (封が) してあるやんない (でしょう) それを切るのを フンキリ言うの (のです)。

ふんぎり (踏切)【名詞】 決断。踏ん切り。思いきって決心すること。[会話] フンギリつけなはざんわれ (なければいけない) 言うて、にやくや (ぐずぐず) と よお切りもつけんと (よく決断しないと) たいがいにいにして (いい加減にして) フンギリつけな (なければ)、今し (今) で言うて 決断、決断力の事やなあ (です)。フンギリつけな (なければ) たいがいにして言うて。はじめ つけ (つけなさい) 言う事やなあ (です)。

ふんぎる (踏切)【他ラ五】 思いきってする。決断する。フミキル (踏切) の音便 (大言海) [会話] フンギラなあ (なければ) ゆたよな (言ったような) 事言うととて (言っていて) ふんぎりな (が) 切れんで、決まりな (が) つかん言う事やなあ (です) ふんぎりな (が) 切れん言うなあ (のは)。いつもかも、したよな 事ばっかしとて (ばかりして) 決まりな (が) つかせん (つかない) 言う事やなあ。

ふんぎれる 決断出来る。出来た。ふんぎる、踏み切るとの転 思いきってする。決断する。[会話] フンギレル言うな (のは)、決断つけた言う事やわい (です)。ふんぎりついたか (つきましたか) まあ (もう) 言うて。物の (が) 決まったか言うのを ふんぎりついた

か言うて まよとたの (迷って居たのを) 決まると、
ふんぎりついたか言うて。いつ迄 言うたよおな事言
うとると (言うて居ると) ふんぎりな (が) 切れんで
(切れなくて) 言うて。

ふんぐり【名詞】 陰囊 (志 (浜島、鶴方、神明、立神、
甲賀、国府)、鳥、松、阿、度、伊、北、尾) [会話]
フングリ言うな (のは) どんびやわい (大きな陰囊で
す)。

ふんぐりなきれん 決断出来ない [会話] フングリナ
キレン言うな (のは)、いつもかも した様な事ばっ
かして (ばかりして)、きまりな (が) つかせ
ん (つかない) 言う事や (です)。

ふんぐりなし【名詞】 意気地なし。決断出来ない人。き
んたまなし参照 (志 (神明、立神、安乘)) [会話]
意気地のないもな (者は) フングリナシ。

ぶんけ【名詞】 分家 次男以下の者で同一の姓を名乗る
者 (南) [会話] 隠居してくのを (して行くのを) プ
ンケ、別れてくの (て行くのを)。

ぶんげん (分限)【名詞】 身分の程度。身の程 [会話]
おらな (俺の) 身分は軽石より軽い、身分な (が) 高
いとか ひっくいとか (低いとか) じっきん (すぐ
に) 身分を 調べて来てなあ 身分の事 プンゲン言
うの (のです)。

ふんごみ【名詞】 踏込 股引 (志 (名田、浜島)、鳥
(坂手、国崎、神島、浦村、答志、和具)、安、度)
[会話] フンゴミ言うんかい (言うのですか)。パッ
チを ふごみや (だ) 言うてなあ フンゴミも はか
んとおんない (ずに居る) さぶいやんない (寒いでし
ょう) 言うて。

ふんごむ【自マ五】 踏み込む 穴、又は柔らかいものに
足を取られる。フミコム (踏込) の音便 (大言海)
(志、鳥、松、伊)

ぶんざい (分際)【名詞】 身の程、身分の程度 分限
[会話] おなご (女) のブンザイで なんを (なに
を) 偉そおな事言うねど (言うのだ) 言うてなあ。お
なご のブンザイで そいなこつべた (そんな難しい)
事言やあるいて (言って)。おなごな (女が) 出しゃ
張ると おなごの ブンザイで出しゃ張んな (るな)
言うて、おなごのくせん (女で有りながら) 言う事
おなございで言うてなあ。おなございで なん言う
と
んねど (何言っているのだ) 言うて。

ふんじばる【他ラ五】 強く縛る

ふんぞりかえる (ふんぞりかへる)【自ラ五】 足を前に
出し体を後に反らす 偉らぶる 高慢なさま ふんぞ

る フミソル (踏反) の音便 (大言海)

ふんだくる【他ラ五】 乱暴に奪いとる ひったくって取
る。強奪する [会話] しゃくって (強く取る) く
んの (来るのを) フンダクル言うてな。おおた フ
ンダクッテタナイ (ていった) 言うてなあ。そして ぜ
ん出さんと (銭出さずに) 店屋でもして来ると、あや
まあ フンダクッテ来たんどお (来たのだ) 言うてな
あ 無理にとてくんのをなあ (取って来るのを) くれ
まい (あげない) 言うのをなあ フンダクッテ来たん
どお あや (あれは) 言うてなあ。

ふんだりけったり 踏んだり蹴ったり ひどい仕打を重
ねて受けるさま。重ねて被害を受けるさま (志 (布施
田)) [会話] 仕事して怒られて フンダリケツタリ
やなあ (だ) 言うて、仕事したり、銭 (ぜん) 出した
りして、不足もおたり (小言貰ったり) 怒られたりす
ると フンダリケツタリやなあ (だ) 言うて。

ふんづかめる【他ラ五】 捕える つかまえる とり押
さえる [会話] 無理につかめて (掴まえて) 来ると
フンヅカメル ふんづかまえて来たよお言うてなあ。

ふんづける (踏附)【他カ下一】 フミツケルの音便 (大
言海) 1) 踏んで押さえる 2) あなどる 馬鹿にする
3) 自分の出世の台にする

ふんづまり (糞詰)【名詞】 1) 大便が滞って出ないこ
と。2) 転じて先に進めないこと。行き止まり (志
(布施田)、上、阿、張) [会話] 1) 糞な (が) つま
まって、フンヅマリやよお (だ) 言うて。はこな出やん
で (大便が出なくて) まあ言うて。便な (が) 出やん
で (出ない) 時も言うし、2) 人な (が) よけ (沢山) 並
んどて (でいて) 前へ行かせん (行かない) 時 フン
ヅマリおこして言うて。車な (が) 渋滞ん (に) なっ
た時んなあ (に) フンヅマリで いごかせんない (動
かない) こや (これは) 言うて、車な (が) 先な
(が) つまつとて (つまっている) 出やれんと (出れ
ないと) こやまあ (これは) フンヅマリやなあ (だ)
言うて。

ふんど【名詞】 分銅 (三、鈴市、上、阿、南)

ふんど。ふんどまめ【名詞】 植物 緑豆 やえなり (八
重生) ぶんどうまめの略 マメ科の一年草。高さ30
~80cm。全体に粗毛を散布。葉は三出複葉。小葉
は卵形。豆果は線形で黒褐色の粗毛が生え、内に数種
子を含む。種子はアズキに似るがやや小さくエナメル
状の光沢があり、緑色または黄褐色のものが多い。
(志、熊)

ふんどし (褌)【名詞】 褌の様に縦に線が入っているの

で押し麦に縦に入っている線。(志、南) [会話] びしゃき麦 (押し麦) の 真ん中に くろおあんの (黒く有るのを) フンドシ。フンドシな (が) 取れんとあられ (取れずに有る) こや (これは) 言うて。ええな (よいのは) 皆 売ったて (てしまつて) フンドシばっかの (ばかりの) 麦 食うと 口から出て来い おったね (来て居たのです) 美味のおて (なくて)。

ふんどしもくそのつきあい 【俚諺】近所との交際は嫌でもしなければいけない [会話] フンドシモクソノツキアイ言うて、禪、けつ (尻) 割るもんで (中間に入る)ので、尻糞な (が) よおけ付いとりおったんなあ (付いていました)。昔しゃ、紙で拭かせんやんない (ないでしょう)。糞でなあ 尻拭きよおったもんで (ので)、えごと (充分に、綺麗に) 拭かれやせんもんで (拭けないので)、禪え糞な (が) 付いとよおったわい (付いていました)。洗うとさいご (その時に)。年取ると 一生懸命 拭いても拭いてもはざん (いけない)。

…**ぶんな** ぶるな 特に偉らそうにしている者にえらつそブンナ (尾)

ぶんなぐる 【他ラ五】強く撲る (員、三、阿)

ぶんに 1) 身分に 2) 特別に ひどく

ふんのか。ふんのかい。ふんのかな (女性語) 降るのですか (安) [会話] 雨な (が) フンノカ、フンノカイ 降ろかれ (少しも降りません) 今日は天気やれ (だ) 言うてなあ。降るのですか 雨な (が) 降らせん (ない) のですか言うて 降ろかれ 今日は言うて。

ふんばちかる 【自ラ五】両足を大きく開き、立ちほだかる (志 (布施田))

ふんばちやる 両足を大きく開く ふんばる参照 (津)

ふんばり 【名詞】努力 もうひとフンバリする

ふんばる 【他ラ五】足をふんばる。開いた足に力を入れて倒れまいと踏みこたえる。フミハル (踏張) の音便 (大言海) (広辞苑) [会話] フンバル、わしゃ (私は) こげんしとんのん (こんなにして居るのに) あんた (貴方) フンバチャカッテ言うて。ふんばつとんの (て居るのを) フンバカチャカッテも一緒や (です)。腰置いて フンバチャカッテ あたると (火にあると) ぬくたいね (暖かいのです)。フンバチャカルと ぬくたいけど (が) 足すばめとると (て居ると) なんもぬくたないわれ (少しも温かくないです) 言うて、フンバチャカル言うの (のは)、ふんばるのおお (のを) フンバチャカッテ、しえばいわれ (狭いのです)

あんまり (あまり) フンバチャカットルト (て居ると) 言うて。横のもな (者は) 脚 しばんで わがと ばっか (自分ばかり) フンバチャカッテ言うて。

ふんばる 【自ラ五】努力する

ぶんぶ 【名詞】幼児語 1) 蚊 2) 水、湯、風呂 (志 (浜島、布施田)、度)

ぶんぶん 【名詞】1) 鞘翅目 黄金虫科に属する甲虫の一種。一面にエナメル様の光沢が強く、通常緑褐色、又は青銅色のものが多い、上羽根には白点が無い、盛夏の候に出現し樹や熟した果物に集まる。黄金虫 (志 (布施田)、津) 2) 約束を破られる事 [会話] 1) カネブンブン (黄金虫) の事を言うしなあ (言います)。2) なんや (なにか) ブンブン食うたよお (食べた) 言うて、すかたん食わされると (約束破られる) と言うやんかい (言います)。はんま 食わされた (約束を破られた) 時ん (に) ブンブン食わされたよ お言うて。はんま言うのは すかたんこかす事なあ (です)。すかたんこかすと はんま こかされたとか ブンブン食わされたとか言うて。

ぶんぶん 【名詞】風

ぶんぶん 【副詞】1) 怒って居る状態 (志 (布施田)) 2) 強い句を表す (志 (布施田)) 3) 湯の沸騰した状態

ぶんぶんくうた。ぶんぶんくわされた 約束を破られた [会話] ブンブンクウタよお言うて、すかたん喰わされると (違約されると) はんまくわされた時ん (違約された時に) ブンブンクワサレタよお言うて。

ぶんぶんだこ 【名詞】尻にブウンブウンと音を出す構造をつけたもの [会話] 尻でも 紙 切つて付けてあれも うなり 尻な (が) 風ん (に) 乗つて ブウンブウン言うて、ブンブンダゴヤ言うて。

ぶんまあし (ぶんまわし、ぶんまはし) 【名詞】円を描くの用いる道具 コンパス (志 (鶴方)) [会話] ブンマワシな (が) 有りおったやんかな (有つたで有りませんか)。がっこい (学校へ) 行くのん (に)。そしてこれ にげ (人間) でも ちよおさいぼん (馬鹿に) すると ブンマアシン (に) おおたよお (逢つた) 言うてなあ、みんなん (皆に) 侮られるとなあ。

ぶんまあしにあう 馬鹿にされる ぶんまあし参照

ぶんまえる (ぶんまへる) 【他ア下一】1) 踏む 踏まえる (松) 2) 前例を参考にする

ぶんわり (ぶんはり) 【副詞】1) 軽い物をそつとおくさま、又動体が身軽であるさま 2) 柔らかくふつくりしているさま [会話] 2) フンワリしとんなあ (して

いる) 言うて、おおた こや (これは) フンワリと美
味しいなあ (です)。